

日本青年必讀の書

世界的躍進途上にある

赤貧洗ふが如き逆境より
空拳赤手蹶然として立志
遂に世界的大富豪となれる
血と涙を以て綴られた活文字
闘志燃ゆる奮闘青年に與ふ

敢て億同胞に勸む

始

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25



時217
517



樋口麗陽著

世界
富豪
成功秘訣講話

非常時體制版



序

人間として此の世の中に生れ出でたる以上、如何なる階級を問はず成功を望まぬものはないであらう。然し其成功なるものは決して一朝一夕に決定さるべきものではなくて、必ず依つて起る奮闘努力や、幾多の逆境的試練を経て刻苦勤勉の最後で無ければ到底得られるものではない。

現代成功者として世に稱へられるロツクフェラーや、カーネギーも決して生れながらにして成功すべき運命を持つて生れて来たものではなくて、其間に言ふに言はれざる不_ふ断_{だん}の熱心と、固_{かた}き深_{ふか}い信_{しん}念_{ねん}の下に毀譽褒貶を意とせず、まつしぐらに成功への一路につき進んだからである。

本書敢て成功秘訣講座といふも、學術的に之を説くことをしないで、全く實際的に體驗されたる眞理を原則として、世界に於ける三十大富豪を講話の材料に取り入れ、第一講 均一販賣の元祖ツールウォースより、自動車王、裁縫機王、製鐵界の巨人、

實業王、石油王、ノーベル賞金の創設者、デパート王、寫真機王、チェインガム王、
 新聞界の霸王、大金融王、電話王、園藝王、鐵道王、航空界の王者、發明王、電氣王、
 キネマ王、農業王、製靴王、罐詰王、ゴム王、鋼鐵王に至るまで、血の滲むが如き生
 きた成功實話講話をありのままに親切丁寧に若き青年によくわかる様に説いてあるの
 が本書の特長である。如何に内容の豊富にして、其價格の至廉なるかは茲に申す迄も
 ない事である。

著 者 識

目 次

1

一 均一販賣の元祖ウールウオース……………一
 成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功秘訣
 百姓の子から艱難辛苦世界一の自動車製造家となり大富豪となつた
 二 世界的自動車王ヘンリー・フォード……………三
 成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功秘訣
 教育も受けられなかつた貧兒が發奮努力、遂に裁縫機械を發明して世界一となつた
 三 裁縫機械王シンガー……………三三
 成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功秘訣
 八百屋の小僧から製鐵職工となり努力奮闘、遂に世界的大製鐵會社社長となり富豪となつた
 四 世界製鐵界の巨人シュワツプ……………四五
 成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功秘訣
 坑夫となつて勞働の體驗を嘗め臥薪嘗膽、遂に全力を以つて獨逸を支配する大富豪となつた
 五 世界無類の實業王スチンネス……………六三
 成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣

- 六 月給十二弗の小店員から叩き上げて世界的大富豪となつた
石油トラスト王ロックフェラー……………七七
成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
平凡な一機械技師で爆發藥の發明、其の富一千八百萬
- 七 ノーベル賞金の創設者ノーベル……………九九
成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
煉瓦工の一貧兒から發奮して、世界最大のデパートメントストアを創立した
- 八 デパートメントストア王ワナメーカー……………一二五
成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
腰辨銀行員から削骨削肉の慘苦を嘗め、コダックフィルム寫真機を發明し巨億の富を作つた
- 九 寫真機界の大王イーストマン……………一三六
成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
貧しい石鹼製造販賣人から、廣告術一方で巨富を作り大實業家となつた
- 一〇 ラユヴインガム王リグレー……………一六四
成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
土百姓の小伴から奮闘努力して、遂に米國新聞界の覇者となつた
- 一一 米國新聞界の霸王マンセイ……………一七〇
成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
貧乏石鹼屋に生れ懸命に努力して、富豪となり社會改良家となつた

- 一二 英國民の大恩人フェルズ……………一八九
成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
無郷流浪の古着行商人から、遂に世界的大富豪となつた
- 一三 國際的大金融業家シツプ……………二二三
成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
工場の釜炊から身を起し「より多く」を標語とし、一代に三十億弗の巨富を積んだ
- 一四 富豪王鋼鐵王カーネギー……………二三七
成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
専門家から嘲笑されながら苦心慘憺、遂に電話機を發明した
- 一五 世界文化の大恩人電話王ベル……………二四六
成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
一労働者から珍花新植物を自由自在に作り出す、科學的方法に成功した
- 一六 世界一の園藝王バーバンク……………二七七
成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
田舎藥劑師から失敗の連鎖劇を繰返しつつ、遂に世界石油界の大立者となる
- 一七 石油界の那翁シンクレア……………二八九
成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
腰辨を振出しに刻苦精勵、遂に世界最大の鐵道會社の社長となつた
- 一八 加奈陀太平洋鐵道會社々長ビイター……………三〇六

- 成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
新聞配達夫から世間の嘲笑を浴びつゝ、遂に航空界の第一人者となつた
一九 航空機界の王者カーチス……………三七
- 成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
貧乏百姓の子に生れ新聞賣子から艱難を突破し、遂に世界最大の發明家となつた
二〇 發明界の大王エヂソン……………三四七
- 成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
大工兼百姓の子に生れ汗血の苦惱を嘗めて、遂に空氣制動機を發明し大實業家となつた
二一 世界的電氣製造家ウエスチングハウス……………三七五
- 成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
天涯に頼る邊なき孤兒から奮闘苦戦して、遂に活動寫眞界の大立者に成功した
二三 キネマ界の霸王チエコール……………三八九
- 成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
狂人、阿呆馬鹿とあらゆる嘲罵に超越して、遂に世界一の大養蜂家となつた
二三 養蜂界の霸王ルート……………四〇一
- 成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
貧しい農家に生れ馬鹿といはれつゝ、遂に科學的農作法に成功した
二四 世界農業界の新人シーブロック……………四〇七

- 其日暮しの製靴工から粉骨碎身、遂に米國第一の製靴會社々長となつた
二五 世界的製靴上ジョンソン……………四二六
- 成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
一移民の子からあらゆる困苦缺乏に堪へて、遂に世界的罐詰製造家として成功した
二六 世界の罐詰王ハインヅ……………四三五
- 成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
借金の爲めに監獄にまで打込まれ乞食にまで零落し、遂に硬化護謨の發明に成功した
二七 ゴム界の大恩人グッドイヤー……………四三三
- 成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
一鑄型職工から苦心慘愴して、遂にベセマー製鋼法を發明した
二八 現代鋼鐵文明の母ベセマー……………四四四
- 成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
水呑百姓の小伴から裸一貫向上の一路を募進し、遂に厚生制度を創始して大實業家となつた
二九 世界的大商業家バッターズン……………四五五
- 成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
南米の蠻地に土人の如く勞動しつゝ、遂に世界的大學者となつた
三〇 世界の博物學王ミユウラー……………四六五
- 成功の總量―如何にして成功したか―體驗より得たる成功の秘訣
……………

世界
富豪 成功秘訣講話

樋口麗陽著

洗ふが如き赤貧に生れ店員となつて侮辱され

發奮して獨特の販賣を案出し大實業家に成功し

1 均一販賣の元祖ウールウオース (米國)

成功の總量

二十五歳から六十七歳までの四十二年間に、裸一貫から麻ち得たる成功の總量は、
無類獨特の均一販賣法の發明と、それによつて收獲した一億五千萬弗の巨富と、ニュ
ーヨーク市中最高價の地ブロード・ウエイに雲を突いて聳え立つ世界一の最高層建築
物五十八階のウールウオース・ビルディングと、米國、加奈陀、英國の、殆んど世界

を半周する領域に涉つて鎖の如く連絡せる数百の支店出張店と、年々五億を突破する顧客と、世界的大實業家たる地位と名聲と實力と。

如何にして成功したか

世界の富が波浪の如く流れ込み、黄金の波が渦を巻いて唸つてゐる米國の中心ニューヨーク市の、その又中心といへば第五街とブロード・ウェイで、東京で云へば、銀座日本橋といつた目抜の場所般販の中樞地の兩側にズラリと並んだ二十階三十階四十階といふ摩天の大廈高樓を仰いだら、丸ビルの八階などを物珍らしげに誇りとして居る日本人は、呀と魂消て卒倒するかも知れない。この般販地と來たら、其地價の高價なること土一升金一升どころでなく、まさに金一升土一合の素晴しいもの。而も其中樞ブロード・ウェイの目抜の場所に、群立せる數十階の大廈高樓を眼下に見下ろして聳え立ち、世界の遊覽者の度膽を抜いてゐる五十八階の摩天樓ウールウオース・ビルディングが、僅か五仙十仙の均一販賣法を以て戦つたウールウオースが奮闘五十年の歴史と勝利とを語るものだと聞いては、誰か無量の感慨と無限の尊敬とに打たれないでゐられよう！

この偉大なる成功を勝ち得たウールウオースは、不世出の天才でもなければまた富豪の家にお坊ちやんで育つた黄金の寵兒でもなかつた。米國ニューヨークのロードマンといふ小やかな田舎町の片ほとりに生れた赤貧洗ふが如き水呑百姓の小作、これが彼の最初であつた。そして一八五三年四月十二日、これが彼の生れた日であつた。これだけで彼の少年時代が凡そどんなものであつたかの想像はつくだらう。彼は小學校へ通ひながら家業の手傳ひをしたといふより、寧ろ家業の手傳ひの合間に辛と小學校へ通ふ時間を與へられたといつた方が適當であつた。それ程彼の家は赤貧のドン底に蠢めいてゐたのであつた。

彼はその靴を穿いて學校へ通ふことも出来ないといふ慘苦の體驗から、百姓生活が所謂檻に入れられた動物以上に人間らしい生活の出来るものでないことを泌々感じた。そして彼は商人となつて一代の成功を夢み小學校を出てウオーター・タウンの商業學校へ二年間學んだ。此二年間が彼の兩親にとつて削肉削骨の苦痛であつたことは言ふ迄もない。

彼は商業學校を出た。商店員となりたと思つて就職の口を捜したが容易に雇入
て貰へなかつた。そこで已に得ず一時グレート・ベンドの無給驛員となつた。といふ
のは驛長は青物店を傍ら經營してゐたので其店の番頭を兼ね、そこで幾分なりと商業
の道を覺えたいといふ希望があつたからだ。さうして機會を狙つてゐるうちに、ウオ
ーター・タウンのアウグスブライ・ムーア商會といふ雜貨店に一週三弗の俸給で雇は
れることになつた。年來の希望が叶つて商業の第一歩に踏出すことが出来たといふ此
事實は、彼の心を限りなき喜びに浸らせた。

ところが彼は自ら意外な事實を發見しなければならなかつた。彼は自分の商業的才
能といふことには、それまで餘り考へて見たことがなかつたが、さて店員となつて見
ると、品物の値段を記憶したり傳票を書くことさへも出来なかつた。況んやお客の應
接などは全く問題にならなかつた。これは確かに、何といつても、彼としては、意外
なる失望的自己發見の驚くべきものでなければならなかつた。彼の鈍物的才能と商店
員としての無能振りとは、譯もなく同僚店員の輕侮と嘲笑の對象となり、頓馬扱ひ馬
鹿扱ひをされた。それでも彼は將來大商業家になりたといふ一心から、五年間辛抱

したが憐むべし、其辛抱に酬ひられる俸給はまだやつと一週六弗に過ぎなかつた。

二十六の時に一週十弗の俸給でブシエネルといふ人の店へ雇はれた。そこで彼は妻
を迎へて家庭を作つたが、彼の鈍才無能振りは又もや新主人に愛想を盡かさせ、俸給
は一週八弗に直下げされた上に、散々無能を罵倒された。俸給の逆轉と罵倒の大侮辱
に對しては、羊の如く柔順で牛の如く辛抱強かつた彼ですつかり怒らせてしまつた。
雇主から何と云はれても、同僚からどんなに馬鹿扱ひにされても、曾て怒つたことの
なかつた彼も、此時ばかりは餘程癢に觸つたと見えて、彼に猛然として憤激した。そ
の憤慨の結果彼はひどいヒステリーになり病床に横はるに至つたとは何たる悲惨な
事だ。

彼ウールウオースは、自らの鈍才無能が生んだ憐れな病み呆けた身體を、貞淑な若
き妻の温かい手によつて兩親の許へ運ばれた。母と妻の看護と慰藉は一年にして彼を
以前の健康體に復活させた。さうした苦しい辛い惱ましい體驗は、彼をして商業家たら
んとする目的から解放したかと思ひきや、彼は依然として變らなかつた。否、其切實
なる體驗は彼をして一層其目的を固執させ、熱心の度を加へさせ、決心を大磐石の上

に打据えさせたのであつた。そればかりでなく、不思議なことには彼の鈍才無能は病と共に何處へか消えて無くなつてしまつてゐた。

病後の彼は、間もなく、最初雇はれたアウグスブライ・ムーア商會の店頭に再び見出された。それは雇主からの希望で而も一週十弗の俸給が與へられた。彼の無能振りになつて別人かと思ふばかりの俊敏になつてゐたことは、店主ムーア氏をして彼に非常の信頼を與へさせた。その頃商會の營業は餘り振つてゐなかつた。ムーア氏も内心少なからず頭を悩ましてゐた。或日ムーア氏は、商賣が斯うダレては面白くないが、何とか繁昌させる名案工風はないかと彼に相談を持ちかけた。彼は病床にあつた頃から發案してゐた新賣法を實地に試みるのは此時だと、早速店頭にてテールを持出し、その上に、残品や疵物など、普通の値で賣れないものばかりを積上げ、それに『よりどり一個五錢』の札をつけた。すると忽ち賣り切れた。又積み上げた、又賣ってしまった。何しろ、そんな販賣法は從來誰も試みなかつたことで、而も人情の機微に觸れた新方法なので、ムーア商會の均一販賣は忽ちウオーター・タウンの大評判となり、千客萬來の繁昌を極め、ウールウオーズの商略は見事に成功を收め

た。ムーア氏の喜びと感嘆と信用とが、彼の一身に集つたことと言ふまでもない。ムーア氏は彼に三百弗の資金を提供して、彼自身獨立して、遣つたらどうか、資金が足りなくなつたら、五百弗でも千弗でも貸してやらうといふ途方もない意外な話、ウールウオーズ何條御辭退申すべき、彼は『成功への第一歩が始まつた！』と狂喜勇躍した。いよく獨立して、思ふままに、何人の制肘も干渉も受くる事なくして遣れるのだと思ふと、彼の此時は、歡喜そのものゝ如く心の亂舞するのを制することが出来なかつた。

彼はムーア氏から借りた三百弗をもつて品物を買入れ、ウチカ市に旗を擧げ、五仙均一商店の蓋を開けた。次でランスタター市に開店した。何れも非常な評判と上々の成績を擧げたが、折角商戰の第一歩を踏出した彼は此時確と一大困難に彼の頭かぶつゝあつた。それは市内の小賣店が彼を真似て、均一販賣を遣る者が雨後の筍の如く出来たことであつた。中には大資本を擁し、大々的に彼の向ふを張るものがあつて、彼は多數の敵と大資本とに直面して戰はなければならぬ運命に突立たされた。是はに取りて大困難といふより彼の死活の分るゝ危機でなければならなかつた。此の強

大なる敵と白兵戦を交へて征服するか、されるかは、彼を舊の一週十弗の一店員に逆戻りさせるか、獨立商としての成功の第二段を踏ましめるかの決戦であつた。資本主義制度の社會にあつては、資本の大小は勝敗を決定する第一の原因であるのが原則である。況して多數の同業者を敵として競争戦をやるといふことは、何人が考へても全敗以外に行くべき途はない。ところが此普通の商戦原則は彼によつて見事に破られてしまつた。彼が有りつたけの勇氣と大膽と忍耐と智力とを絞つて競争戦を續けた結果は、着々敵を征服し、ランスタター市に群立してゐた多くの模倣五仙均一商店の顧客はウールウオースの爲めに吸集され、模倣店は全滅し、ウールウオース一人凱歌を奏し。

出發の第一戦に凱旋將軍 贏ち得たウールウオースは、更にスクラントンとヒラデルヒアの二市に支店を開設し、奮戦力闘して見たが、不幸にしてヒラデルヒアは、三ヶ月にして閉店するの失敗を招いた。これで彼は五度中三回目の失敗史を作つたが、一面軍の如き俊敏さと虎の如き勇敢と大膽さを有して而も他の一面牛の如き鈍重と粘り強さと忍耐力とをもつてゐた彼は、失敗すれば失敗するほど勇氣と大膽と粘り強さを

が加はつて、遂に彼は生馬の目どころか生きた人間の目を抜くニューヨーク市に乘出し乾坤一擲の大決戦の幕を開いた。ニューヨークに於ける彼の商戦は、彼の最後の大目的たる一流の商業家の地位と實力を贏ち得るか否か、天下分目の關ヶ原であつたので、彼の奮闘振りには、實に目覺しいとも素晴らしいとも云ひ様のない、寧ろ物凄なもの、彼は彼の有するすべての精力を傾け盡した。その結果彼は健康から投げ出されて二ヶ月間チフスを病んで藥り臭い白ベッドの上に横はらなければならなかつた。併しそれでも彼は勝利への商戦を忘れず、病床に横はりながら事務を執つたのには、店員も醫師も其不屈不撓剛情我慢の強さに驚嘆させられたのであつた。

彼のニューヨークに於ける均一販賣は五仙と十仙の二種であつたが、矢張り他市に於ける時と同様、模倣者が續々と現はれたことは言ふまでもない。そこで彼は、殘品や疵物でなく、一般に四十仙五十仙で賣る普通の品物を五仙十仙で賣り、模倣者が鱗鱗立ちしても眞似の出来ない方法を執つた。といつて別に不正な手段で誤魔化し物を作るのではない、一萬ダース、二萬ダースといふ大量の註文をして、一割の利益を加へて五仙、十仙で販賣の出来るやうに拵へるのである。製産者の方でも、百ダース千

ダース以下では二十五仙なり五十仙なり賣りにしか出来ないが萬からのダースになれば一割の利益を含めて一個五仙なり十仙なり賣りに製造を引受けることが出来る。ウルウォースは其處を狙つた。模倣の商人にはとてもソナ思ひ切つた藝當は出来ない。そこに彼の強味がありそこに模倣者の弱味があつた。普通の店では二十五仙のものが、彼の店へ行けばタツタ五仙で買へる。他店で五十仙のものは僅か十仙で彼の店は賣つてゐる。苟も同じ品物により高價を支拂ふことの馬鹿らしさを知り、より安いことの利益を知つて居る程の人間だつたら、否でも應でも彼の店から買はないわけにはいかなかつた。随つて彼の店は模倣を壓倒して日に繁昌しないわけにはいかなかつた。市中いづれの店でも五十仙で賣つてゐた指環を一割の利益を含めて十仙賣に造らせた時などは、一年間に無量六萬ダースを賣つたほどで、彼はさういつた特殊の品物を途方もない安い値段で何萬となく注文し、それを五仙均一、十仙均一で賣る獨特の遣り方をやつたので、年に何萬何十萬といふ驚くべき大量の同一商品が、嵐に吹き飛ばされるやうに賣れた。

斯うして彼は未だ曾て何人も試みなかつた均一販賣法でニューヨーク市を全く征服

してしまつた。そして其時の彼の取引銀行には數千萬圓の巨富が唸り、米國は勿論、加奈陀から英國に亘つて數百の支店が出来てゐた。そしてそれら多數の支店が上る利益は、洪水の如く彼の懷中に流れ込んだ。

一九一八年、即ち彼が現世を去る前年、ニューヨーク市中最高級の商業地區一坪何萬弗といふ高價なブロード・ウェイの而も目抜の場所に、五十八階といふ世界一の高層ウルウォース・ビルディングを建築して、大廈高樓に慣れたニューヨーク市民を驚かしたが、そのビルディング内の一千三十八個所の均一商店に於ける一年の賣上高二億二千萬圓といふ巨額は更にニューヨーク市民を呀と驚かしたのであつた。

彼の成功の總量は既に述べたが、水呑百姓の伴に生れた一貧兒が、一代に贏ち得た成功としては、蓋し最大にして模範的典型的なもの、一つでなければならぬ。

體驗より得た成功秘訣

- 一、自分の生命を賭して遣るほど強いものはない。
- 二、事業といふものは、丁度雪達磨のやうなものだ、勇敢に屈せず撓まず閉古垂れず

苦しくとも辛くとも、前へくと押して行かねばならぬ。それを押して行くことが出来れば、押すに従ひ行くに従つて益々大きくなるが、若し途中で停止すれば、直に溶けて無くなつてしまふ。

三、競争者が多くなればなるほど勇敢に商敵が強ければ強いほど強くならなければ商戦の勝利は得られない。

百姓の子から艱難辛苦遂に世界一の

自動車製造家となり大富豪となつた

2 世界的自動車王ヘンリー・フォード (米國)

成功の總量

米國ミシガン州のデトロイト市に本店を置くヘンリー・フォード自動車會社は、世界一の自動車製會社で、そのデトロイトの大工場には約三萬人即ち三個師團の兵員に相當する職工が働いて居り、其製造能力は一ケ年三百萬臺、即ち一分間に七臺出來るといふ驚くべきもので、一ケ年の取引高は十億弗を突破し、一日三十萬弗、利益は

一ケ年一億弗を突破するといふ素晴しさ。そして世界各國の重要都市には支店又は出張所を設け、世界の自動車王たる地位實力名聲を完全に占領してゐる。最近の調査によれば、彼の財産は八億弗即ち邦貨にして約十六億圓 三井や三菱の約四倍の巨富を擁してゐる。併し彼は本年まだ六十二歳の働き盛りで、俺の働くのはこれからだと言つて、而も心身共 鏗鏘として壯者を呀と云はせる位であるから、今後十年生きるか二十年三十年生きるか分らない。随つてそれまでにはどれだけ巨富の上に巨富を積み上げるか、殊に彼の現在の巨富が僅々二十年未滿で築かれた奇蹟に速度で、今後の富が増加されるとすれば、死ぬまでには三十億になるか五十億を突破するか、全く測り知ることが出来ない。彼の大成功は常に富や自動車製造業者としてのみでなく、人格徳望に於ても全米に噴々たるものがあり、大統領候補者に擬せられてゐる程であるから、決定的な彼の成功の總量は彼の晩年の最後の頁が現はれた時でなければ分らない。

如何にして成功したか

百姓の子は百姓といふが、百姓の子に百姓が生れず偉人英雄が生れる事が少くな

い。自然の土に親む百姓と偉人英雄の發生といふことに、何等か因果的關係があるものか何うかは分らぬが、兎に角土くさい百姓の家から百姓ならぬ偉大な人物成功者が出るのは事實である。獨逸の或る物好きな學者が、古今の天才と其父母に付て研究した所によると、天才の親は大部分凡人で、天才の子に天才が生れたといふ實例は極めて少い。さうして見ると水呑百姓の子から偉人英雄が飛出したり、偉大な成功者が現はれたりするのは、別に不思議でも何でもない、當り前の事になるわけだが、今こゝに其傳記を語らうとする世界の自動車王ヘンリー・フォードも矢張り百姓の家に生れた百姓の子であつた。彼が生れたのは今から六十三年前の一八六三年七月の最後の日の前日、米國ミシガン州デトロイト市の郊外デア・ボーンの草深い片田舎であつた。立志傳的に書けば、彼の家は赤貧洗ふが如き成貧であつたと言はなければ感じが強くないやうだが、彼の家には三百エーカーばかりの農園があつた。三百エーカーと云へば日本の百二三十町歩に相當するから、洗ふが如き赤貧の子でなかつたことは確かである。併し彼の成功には、その親の財産などの力は毫頭借らず、全く裸一貫の赤手空拳でやつたのだから、赤貧の家に生れたのと少しも變りはなかつた。

彼は 校を出て暫く農園の手傳ひをして日を暮してゐたが、何うしたものか彼は不思議に子供の頃から機械といふものが好きで、堪らなかつた。機械の事を考へはじめると食ふ事も寝ることも忘れるほどで、周圍の人たちからは「機械蟲」といふ綽名をつけられてゐた。

彼はとう／＼堪らなくなつて親の家を飛出し、デトロイト市のフラワー蒸汽汽罐會社の職工となつた。ところが俸給はタツタ一週二弗五十仙といふ素晴らしい少なさなので、それだけではどう節約してもトモ食へなかつた。そこで彼は夜間を利用し、一週二弗の約束で或る寶石商の家に働いた。會社の方は朝七時から夕方六時まで働かねばならぬ、そして夜は七時から十一時まで寶石商店に働くのだから、日々十五時間の勞働。意氣地のない者には時間だけでも堪へられない苦痛だが、機械に關する知識慾に燃えてゐたフォードには、苦痛よりは寧ろ愉快であつた。

彼の頃の機械に對する知識慾は、蒸汽汽關のみでは到底満足 來なかつた。あらゆる機關について研究したいといふ慾望が、常に彼に衝動を投げかけてゐた。蒸汽汽關に就ての知識を得た彼は乾ドック機關工場の職工になつた。そこでも最初は一週二

弗五十仙の俸給だったが、機關工としては熟練工たる充分の腕をもつてわたし、それに彼の高潔な人格は、工場主からも同僚からも信用され、間もなく一週五弗に増給された。一週五弗あれば内職までして生活費に齟齬する必要はなかつた。無論贅澤は出來ないにしても、どうにか食つて行くだけの費用は充たされた。彼は夜間十分自分の研究に没頭することが出來た。

さうして研究を續けてゐるうちに、彼は家庭の事情上已むなく郷里の農園に歸らなければならなかつた。郷里に歸つても彼は終日働かねば食へないといふのでなかつたので、寧ろ彼としては靜かに研究をするには却つて好都合であつた。で、農園に歸つた彼は、機械に關する雑誌やら書籍やらをウンと買込んで、日々の日課は、それを讀んだり研究したりすることであつた。この幸福は赤貧の子に恵まれない幸福であつた。すると或日彼は、機械雑誌を讀んでゐるうちに、フランスで自動車といふものが發明されたといふ記事を見つけた。何しろ自動車といつても今日の自動車のやうな完全なものではなく、極めて幼稚なものであつたことは言ふ迄もない。此雑誌の記事は、彼フオードをして一大方向轉換を斷行させる轉機を與へた。

彼が當時理想としてゐたのは、時計の大量製産事業であつた。時計は贅澤品でなく、生活必需品である。時間生活の現代文明生活には時計はなくてはならぬ必需品である。従つて其需用は個人的で、そして其市場は世界的である。が、今の時計は何といつても日常生活の必需品としては餘りに高價に過ぎる。もつとずつと安價にすれば、子供でも持つことが出来る。時計の普及は時間尊重觀念の普通であり、個人生活の利益と幸福の増進であり、それが及ぼす社會全般の福利は測り知るべからざるほど大なるものである。だから大規模の時計工場を設け、大量生産主義によつて一日一千個くらの製造し、原價一價三十七仙、これに三仙の利益を見て四十仙で市場に賣れる時計を作れば、需用は今の數十倍數百倍に増加、生産者は個々の利益は少いにしても大量製造の結果は却つてより大なる利益が得られる一舉兩得である。かういふ見地から彼は大時計工場を起さうといふのが理想であつた。またそれに共鳴するものも多少あつたので、彼は乾ドック機關工場にゐた頃は、専ら其事の實現のみを考へてゐたのであつた。

ところが、彼は自動車發明の記事を讀んでコロリと氣が變つた。従來の時計の理想

計畫は弊履の如く擲ち、自動車完成に一轉した。自動車についても彼は全然考へなかつた事ではなかつた。馬などの力を藉らず、特殊の機械装置によつて、汽船が海上を自由に馳馳するやうに、道路を迅速に自由に走ることの出来る乗物がなければならぬ。といつて汽車のやうに軌道を必要としたり、あんな素晴しく大きなものでなく、もつと小さくて輕便な、普通道路を操縦し得るものでなくてはならない。さういふ便利な文明的乗物は既に世界的に人々の心の奥に要求されてゐる所のもので、また是非發明されなければならぬ性質のものである。彼は其時代の必要といふ點から、その機械について、漠然たるものではあつたが、彼の腦裡に描かれてあつた。それだけ彼の心機一轉は力強い確實性を帯びたものであつた。

時計事業の計畫から自動車の研究發明に鞍替したフォードは、佛國に於ける自動車の發明が非常な刺激となり、彼の自動車研究は愈々白熱的となり懸命的となつた。彼は自分の腦裡に畫いてゐた考案によつて、早速設計から試作に取りかかり、數ヶ月間農園に立籠つた。此時彼は動力としてガソリンを使用することに思ひ及んでゐた。設計から製作へかゝつた彼は確と難關へ衝突した。其は電氣知識とガソリン使用法

の知識とが、まだ役に立たないほどに不充分だつたこととそれであつた。彼は製作を中止し、電氣とガソリン使用の知識を得べくデトロイト市のエヂソン電氣會社の工場の技手として傭はれ、俸給月四十五弗を貰つた。或日石油發動機關が工場に据付けられたが、何しろそんなものには誰も初めてお目通りをしたのだから、どうして運轉させるものか、多くの技手連中一人として知る者がなく、全く譯のわからぬ怪物として持餘した。それをフォードが見事に運轉させたので、彼は忽ち會社の信用を得て、俸給は一足飛びに月百五十弗に昇給し、會社本部の機械部監督に拔擢された。生活にも多少餘裕が出来たので彼は住宅を建て、結婚して家庭を作つた。そして彼は生活に拘はることなく會社勤務の餘暇はガソリン機關の研究に熱中した。彼は住宅の一部を自分の研究室業場とし、毎夜二時三時まで作業場にあつて鐵槌を放さなかつた。どうかするととう／＼徹夜することも珍らしくなかつた。

斯うして彼のガソリン機關も出来て、自動車が完成した。彼は早速自らそれに乗つて街路に試運轉をやつたが、遺憾ながらまだ到底實用に適する程度のものではなかつた。速力も極めて鈍いし、前進は出来ても楫を向け直して後歸りをする事が出来な

かつた。彼は車體を向け直すために非常の骨折りをして漸く自宅の工場へ戻る事が出来た。ハンドルの捻り方一つで自由自在に方向轉換出来る今日の進歩した自動車から思へば、滑稽をまゐる噴飯事だが、そんな乗物のなかつた時代に、兎にも角にも自動車を開明することに成功したフォードの喜びは滑稽どころの話ではなかつた。彼は試運転に於て、彼の期待通りにガンリン機關で自動させることの出来た事實によつて、近き將來において完全な實用乗物とすることは最早問題でないことを確信した。只だ時間だけの問題であつた。

此處まで成功した彼は、最早片手間研究ではいけないと考へ、エヂソン電光電力會社の技師の地位と百五拾弗の俸給とを擲ち、自動車完成に全精力を注いだ。斯くて日夜間斷なく苦心した結果は遂に空しからず、彼の目的とした理想の自動車は完成した。それは彼が自動車研究を思ひ立つて八年後であつた。其頃はもう方々で自動車製造されるやうになつてゐたけれど、それはいづれも佛蘭西式のもので製作に莫大なる費用と人力を要し、財政的に考へてそれでは一般の人たちが實用品として買入せしむるとは望むべくもなく單に製作者の研究心を満足させる以外には、殆んど

用をなさぬものであつた。ところがフォードの目的は、より製作費のかゝらぬ、より安價な、より實用的の、より優秀の自動車を社會に提供するにあつて、彼の手によつて完成した自動車もそれだったので、彼は自動車の方々に出来て珍らしいものでなくなつてゐたからといつて、決して失望も落膽もしなかつたばかりでなく、彼は却つて、それは自分の自動車の實用的價値を證明するに都合だと思つた。

斯くて彼は愈々大規模の製作に取り掛るべく決心したが、それには相當の資本を要する。處が彼には一弗の資本もなかつた。彼は資本家を求めたが、彼の自動車が、佛蘭西製のものに比べて、小型で貧弱に見える處から、馬鹿にしきつて、資本家は相手にして呉れなかつた。これには流石のフォードも困つた。彼の期待では、恐らく世間の資本家は、先を争つて出資をしようと云ふだらうと思つてゐた。處が實際は彼期待を悉く裏切つて、てんで問題にして呉れなかつた。そこで彼は何とかして彼の自動車の優なことを認めさせ、世間の資本家を競争的に出資させる方法はないものかと、妙案奇策に想ひを廻らした。すると素晴にうまいことが彼に飛込んで來た。といふのは、其頃丁度アレキサンダー・ウイントンといふ人が、フランス製の自動車に改良を

加へた自動車製作をやつてゐた。それを知つたフォードは、自動車競走を申込んだ。ウイントンの方では、フォードの自動車を見て、何んだこんな玩具見たいな貧弱なもの、こんなものは競走する迄もなく、俺の自動車が勝つにきまつてゐるが、折角フォードの申込みだから、まあ遣つてやらう。そして俺の方が勝てば廣告にもなるからと、高も挿つてゐた。ウイントンばかりでなく、兩者の自動車を見たのもは誰でもさう思つた。何しろウイントンの自動車は、元來が佛蘭西式をとつたものだから、大型で堂々たるもの、フォードのは小型で實用的に出来てゐるから、貧弱には見えても堂々たる處は些ともない。これちや少しも問題でない、この競走は見なくとも結果は分つてゐるとしか思はれなかつた。併し、この自動車競走はライオンと兎の競走みないな面白い對照なので、デトロイト市の人たちは、非常の興味を唆られ、仕事を休んでまで見物に集つた。さていよいよ競走が始まつて見ると、ウイントンの豫斷も見物の豫斷も、悉く素晴らしく裏切られた。敗けることの必然を豫想されたフォードの自動車は、勝つことの必然を豫想されたウイントンの自動車を、見る間に苦もなく走り抜き、問題にならぬ大差を以てフォードの勝利に歸した。フォードの此時の得意想ふべしである。

果然、フォードが豫想したやうに、彼の周圍には忽ちデトロイト、資本家が資本提
 供の義を出して來た。併しフォードは待つてましたとばかり、オイソレと其狼見た
 いな強慾貪婪な資本家と握手するやうな輕卒なことはしなかつた。彼は思ふ所あつて、
 それらの資本家は相手にしなかつた。すると此時丁度デトロイト市にゼームス・ク
 ゼンといふ商人があつた。此男なか／＼機敏な人物で、フォードの處へ遣つて來て四
 シリンダー付八馬力の自動車一臺を注文し、その製作費は全部支拂ひ、別に何等野心
 がましい條件も申込みも氣ぶりも見せなかつた。クゼンは出來上つた八馬力の自動
 車で、再びウイントンの自動車と三哩競走をやつた。此時の勝利も無論フォードの
 自動車にあつたが、而もフォードの自動車が決勝點にはいつた時は、ウイントンの自
 動車を抜くこと半哩といふ驚くべき差であつた。

ゼームス・クゼンといふ男は、商賣に機敏な商人ではあつたが、彼はフォードを
 能く知り且つ己れを能く知る明敏な先見の明をもつた所謂話せる人物であつた。彼は
 貧乏な發明家を喰物にして自分一人が儲けやうなんて腹黒い考へはもたなかつた。飽

くまでもフォードに同情し彼の味方となつて彼を成功させ、その上で利益の分前にあづからう、その方が今直ちにフォードを喰つてしまふより利益は大きいと思つた。それで彼は投資をしようなどといふ事は變にも出さなかつた。

クーゼンがフォード製の自動車でウイントンの自動車を半哩の驚くべき大差を以て破つたレコードは、全米の人々を震撼させた。そして其結果、フォード目がけ投資をなげかける資本家はまるで競争的素晴らしいものであつた。フォードは愈々俺の得意の時代が来たと私かに喜んだ。さうして多くの資本家の投資によつて大規模の自動車製造會社が設立されることになり、フォードは其總支配人として月俸百五拾弗といふところまでは、一瀉千里で運んだ。ところがフォードと資本家との間に大衝突問題が起つた。フォードは最初の目的理想通り、より製作費のかゝらぬ、より安價な、より實用的な、より優秀な自動車を製作することを主張したに對して、資本家は、そんなものを製作したのでは儲からぬ、矢張り高價なものを製作した方がいい、高價でも從來の歴史から見ても一頭地を抜いた優秀なものであるから、他の自動車を壓倒することは困難なことではない。利益ないつても、發明者たるフォードの利益からいつても

その方が遙かに利益である。殊にまだ一般に實用的に自動車を使用するといふ時代でない、まだ贅澤品の時代だから、高級なものなら賣れるが、安價な實用的なものなら、恐らく結果は失敗に終るに違ひないと強硬に主張した。フォードは最初から安價で優秀な實用的なものを製作提供するにあつて、それで完成したものであるから今更資本家の意見に聽従する考へは毛頭ない。大議論の結果は、フォードは自分の意見が容れられなければ斷然會社創立から脱退すると云ひ張り、とうとう會社は流産してしまつた。會社不成立によつて彼が襲はれた悲劇がどんなものであつたかは、彼が當時妻子を抱へながら一文の貯へもなく収入もなかつたといふ事情から考へて恐らく想像されるであらう。

併し彼は妻子を抱へて路頭に迷ふの窮境に陥つても頑として自分の理想を棄てず主義主張を曲げなかつた。そして近く自分の幸福なる進路の開拓されることを固く信じて失望しなかつた。果せるかな彼の信じた通り、彼の進路は與へられた。曩に四シリンダー付八馬力の自動車を注文したクーゼンは彼に同情して、自分の全財産を投げ出した。もう一人ウイリスといふ男がクーゼンと同様彼の同情者となり味方となり、

これも自分の全財産を投げ出した。二人が投出した全財産によつて、資本十萬圓拂込二萬八千圓の小會社を起しフォードを援助した。フォードに取つては此二人の援助者は、金額に於ては僅かであつたが、眞の味方であり眞の援助者であつたので虎狼性の資本家に百萬圓出資して貰つたより、確かに心強く遙かに嬉しかつた。

實際拂込二萬八千圓の會社では、自動車製造業としては、小規模も小規模お話にならぬ裏長屋の鍛冶屋式のものに過ぎなかつた。一臺の製作費に數百弗を要するのであるから、職工なども充分雇はれることは無論出来なかつた。フォードは僅か二人の熟練な職工を雇入れ、自分も職工と一緒に働いた。二人の職工もフォードの高潔な精神と其超人的熱心努力とに感激して、彼と共に朝早くから夜も十一時十二時の晩くまで懸命になつて働いた。天は自ら助くるの人を助くるの金言は彼フォードによつて證明された。二人の忠實な職工を相手に死物狂ひとなつての日夜の努力は、彼の前途を忽ち明るくした。優秀で堅牢で安價な實用的フォード型自動車は、日に日に眞價と需用を高め、數ヶ月にして四五十人の職工を使用するほどに發展し、最早彼の前途は無難無難に發展の一路を直進するものの如く見えた。

27

所が其年の暮になつて、又もや艱難が彼を襲撃した。當時彼の自動車は他の自動車の半額乃至三分の一額の九百弗といふ安價であつた。随つて其利益も微々たるものでそれだけに發展しても彼の生活は辛うじて飢餓だけを免かれ得るに過ぎなかつた。素より會社に資金の餘裕などのあらうべき筈はない。然るに年末となつて自動車の賣行がパツタリ止つて見ると、百人からの職工に支拂ふべき賃銀は如何にすべきかの問題に直面した。彼自身には一仙の貯へもない、クーゼン、ウイルスにしても全財産を投出してゐるから、とてもそんな金は無い。さればといつ銀行其他から借金すべき目當もない、正に八方塞りである。他の月と違つてクリスマスも目前に迫つた歳の暮である。賃銀目あてに働いてゐる職工に賃銀が拂へぬとあつては、百人の職工を殺すやうなものだ。この問題には流石のフォードも悩み悶え苦んだのであつた。しかし幾ら悩んでも悶え苦しんでも如何ともすることが出来なかつた。彼は遂に決心した。死か生か、彼等の前に一切の事實を投げ出し、彼等の諒解と同情を得よう。若し彼等が怒つて去るなら仕方はない。更に再起を企てるまでだ。彼は斯う決心して職工一同に會社の事情一切を赤裸々に打明け、將來に對する發展的確信を披瀝した。そして出來得

るならば會社と苦樂を共にして貰ひたいが、併し諸君が去就いづれに決するかは諸君の自由の權利であるから、會社は諸君の自由の權利を尊重して何等強要は試みないと宣言した。所が、案するより産むが安かつた。彼の人格と誠實と職工に對する慈愛とに心服してゐた百餘の職工は、一人として彼の許から去らうといふものはなかつた。會社の事情に同情し、彼と共に最後まで働かうと誓つた。フォードは泣いた、感激に燃えた熱い涙が止度なく流れた。職工も泣いた、一文の給料も貰はないことも忘れてフォードの胸中に同情し、彼の高潔な人格に感激して泣かすにはゐられなかつた。斯くて危機は去り艱難は突破し、一陽來復と共にフォード自動車會社は、旭日昇天の勢ひを以て隆々と發展の一路を驀進し、僅か十數年間に世界一の自動車製造會社となつた。

彼は實際家であると共に理想家であつた。自分の利福と共に人の利福世の利福忘れなかつた。世の多くの資本家の如く自己の利福の爲めに職工の利福を犠牲にするなどは彼には到底不可能の事であつた。彼は自己の利福増進は職工の利福増進と世の中の利福増進とにある事に徹底してゐた。米國に資本家は掃くほどあるが、彼ほど思ひ

切つた職工優待を斷行するものはない。否、米國のみでなく、世界に於ける第一人者であるといつて、決して溢美の言ではない。それは彼の事實そのものが雄辯に證明してゐる。

歐洲大戰の勃發した一九一四年の一月、彼は彼の工場に働く職工の最低賃銀を一日五弗と定め、且つ八時間労働制を斷行し、更に同年の夏には使用人に對する利益分配制度を施した。彼のこの大英斷は全米の資本家のみならず、全世界の資本家が驚倒させた。

賃銀値上、八時間労働制は、勞資間に蟠る重大問題で、労働運動は歐米共この二點に向つて主張と運動とが、常に試みられてゐたといつていゝほど、然かく重大問題であつた。歐洲でも米國その他でも、十時間労働制を以て常時の最優待を短縮することとは資本家に取つて莫大なる不利益と考へられてゐた。成るべく労働時間を長くはしても短縮することは極力反對したいといふのが、一般資本家の心中であつた。彼等は何かと理窟をつけ文句を並べては、或ひは巧妙な手段によつて壓迫を加へても、時間短縮に反對してゐた。そういふ世界的傾向を無視して、フォードが率先して八時間労働

働制を断行したことは、世界の勞資界を驚かすに十分であつた。そればかりでなく、最低賃銀を五弗に決定實行したことも、驚くべき無謀として寧ろ嘲笑を以て迎へられた。それはフォードの採つた最低賃銀五弗は他の工場に於ける賃銀の二倍又は三倍に相當するものであつたからである。全米の資本家が、輕卒者と笑ひ、夢想病患者と嘲り、お調子者と罵つたのは、そこにあつた。

併し、彼の大英斷的新制度の實行は、彼が輕卒者でなく、夢想病患者でなく、お調子者でなく、實際を指導する理想家であり世界の群資本家に數歩先つた先覺者であり、先見の具眼者であつたことを、事實の上に立證された。彼が新制度を断行した翌月における成績は、從來に比し正に一萬臺多く製作されたのであつた。此論争の餘地を許さない明確なる事實は再び頑迷な世の資本家たちを吃驚させる事實でなければならなかつた。

彼の職工に對する優待は單にそれのみではない。彼の理想、目的、事業の共働者たる職工に對して、爲すべき待遇方法は、すべて到れり盡せりの萬全が實施されてゐる。無料病院、無料教育の設備は勿論、職工が職務上の過失から死んだ場合は其遺族は生

涯の生活が保證され、不具者となつた場合は、不具者に相當した勞務が與へられ賃銀に於ては從來と同額が與へられる等、職工は何等將來や生活を懸念することなくして彼の會社に勞働することの出来るやうに完備してゐる。フォードの會社に、未だ曾て勞働争議の起つたことのない誇はそこにある。

今や彼のフォード型自動車は世界の自動車界を風靡しつつあるが、尙最近彼が多年の目標とした三百弗の實用自動車の世界的提供に幕進してゐる。將來彼によつて百弗の自動車を提供せられ、自轉車の如く普及するであらうといふ想像は、恐らく意外に早く實現することはあつても、想像のみで終ることはないであらう。

體驗より得た成功秘訣

- 一、すべての希望理想は生活の一大勢力であり根源である。
- 二、事業に成功する唯一の秘訣は、最も苦しいと思ふ仕事の中へ眞一文字に幕進突撃死力を盡し、飽くまでそれに嚙り付くことである。
- 三、金といふものは、金そのものには何等の價值あるものではない。唯何事か仕事を

爲すための材料としのみ價値あるものである。

四、如何に苦しくとも金の事などに煩はされるのは事業の成功を破壊するものである。只真直に自己の希望理想の中へ自己の全精力と全努力とを打込めば、金は求めずとも自づから其處に湧き溢れて来るものである。

五、賣値を下げよ、賃銀を上げよ、その割合に應じて事業は發展して行く。

六、自分の使用人を輕蔑せず嘘を吐かず、尊敬と愛撫と誠實とを以て常に唯一の味方勞働者として待遇することは、自分の事業をより大なる成功の殿堂へ送り込む眞理である。

七、自分の爲めを考へる前に先づ世の爲め人の爲めを考へた事業でなければ、大なる成功へは導かれぬ。

八、貧窮、嘲笑、罵詈、讒謗、非難、反對の前に屈するやうでは成功のチャンピオンたる資格はない。

九、富を最後の目的とする者には富は寄り付かない。

十、より大量生産とより安價提供とは人類の文明生活における物資生産の最後の理想

であり一木道である。

教育も受けられなかつた貧民が發奮努力

遂に裁縫機械を發明して世界一となつた

3 裁縫機王 シンガー (米國)

成功の總量

今や全世界の裁縫界を征服し、文明社會に無限の利便と幸福を與へてゐるシンガー・ミシンの發明と、それによつて獲得した巨億の富と、二千五百餘種の裁縫機械を、三十萬臺近く製造販賣する、世界最大の裁縫機會社の名實を有するシンガー・ミシンの會社と、それら一切を内容とする世界的名聲と信用と利益のそれである。而も其世界的販賣力に至つては、實に驚嘆すべきもので、日本だけでも支店、出張店、代理店の數は六百五十、世界を通算すれば恐らく萬に近いであらう。

如何にして成功したか

「私が裁縫機械といふものに對して最初の注意を振向けたのは一八四〇年の終り頃で、其頃私はポストンにゐたが、ブラツヂエツトといふ人の考案したものだと言はれる裁縫機械を見たときに、その機械の製造をやつてゐたオルソン・ヘルプスといふ人が、此裁縫機械はまだ不完全で、これでは到底世界的需用を喚起するに足らぬから、更にもう一層の改良を加へて進歩したもので完全なものが出來たら、必ずや世界的需用は急速に喚起されるであらう。そして巨億の富は忽ちにして飛込んで來るだらうと語つた言葉と、此機械の發明に於ける文明生活に與ふる恩惠の莫大にして而も其頃悲惨な奴隸的生活に餘儀なくされてゐた針女の解放といふ人道的精神の跳躍と、それが私をして自ら裁縫機械の改良發明の苦海に投げ込んだ抑もの動機であつた」と裁縫王シンガー自身はその晩年に於て告白してゐるが、こは恐らく彼の偽らざる飾らざる眞の告白であらう。

裁縫機械の發明考案には、彼が手を着けるまでに、可なりの長い歴史的經過があり、血の滲むやうな先覺發明家の産の悩みが綴られて彼の苦心發明のページに接續してゐる。

裁縫機械の發明考案に着目され初めたのは十八世紀の末頃からで、随分古いものである。併し多少機械らしいものは、歐洲では一七九〇年英國のトマス・セイントの考案で、次はそれから四十年後の一八三〇年佛國のチモニエーによつて稍進歩したものが工夫され、一八四〇年には英國でアーチボルド、ニユートンの兩人によつて、も少し進歩したものが考案されたが、いづれも物にはならなかつた。米國では一八四三年にニユューヨークのハント兄弟によつて考案され、一八四六年にはホーエといふ人がハント兄弟考案のものに部分的改良を加へ、其點について特許を受けた。ミシンで特許權を得たのはそれが最初であつた。併しこれとても、單に珍らしい機械として多少世人の注目を惹いたゞけで、實用になるものでは無論なかつた。越へて一八五〇年にはウイリソンといふ人が、更に進歩したものが考案され、市場に賣り出されたけれども、これも矢張り物になる程のものではなかつた。これらはミシン發明史上に名を止めてゐる人々であるが、その他これが發明研究に心血を注ぎ、遂に不成功に終つたり、途中で斷念放棄したりした人は、何百人あつたか知れない。

斯うして最初の考案から六十年の歲月と幾多の發明家の心血を以てしても失敗を経

過した裁縫機を、改良完成するなどといふことは、不可能なことを可能の如く夢想する空想に過ぎないといふのが世間一般の裁縫機發明に與へた批評であつた。

斯の如き、殆んど絶望の時代に、「ヨシ、俺が一番こいつを完全な實用品にしてやらう」と考案研究に着手したシンガーが「彼奴も狂人の一人だ」と世間の嘲笑を買つたのは無理からぬ事であつた。況んや彼は物理學者でもなければ、機械に關する豊富な知識を有つた専門技術者でもなく、只ださういふ事に趣味を有し、裁縫機の改良完成に献身的熱心な一介の青年に過ぎなかつたのであるから、世間の嘲笑は寧ろ當然と云はなければならなかつた。

彼シンガー素より仕事に容易いものだと考へなかつた、發明考案の其の苦悶と、貧苦と、世間の嘲罵とは、當然さうした事に携はる人の、受けなければならぬ苦難であり試験である位の事は、無論百も二百も覺悟の前であつた。彼の發明的研究の出發が、彼が初めて見たブラッチエットの裁縫機にあつたことは言ふまでもない。併し彼の發明がブラッチエット考案の部分的改良に過ぎないものでなかつたことは言ふまでもない。裁縫機といふ機械的性質と用途目的に於ては同じであつたけれども、機械の

構造的考案そのものは殆んど根本的に相違したものといつてよかつた。

彼はブラッチエットの裁縫機を參考として研究を進めた。そして苦心慘憺の結果、漸く考案が出来上つた。その考案の眼目たる縫ふ部分の構造は、縫ふ布を水平にテーブルの上に置き、曲つた手の尖端に針がついてゐる、そしてテーブルの下面で布を送るものを廻轉させ、針毎に布を押へる金具があつて、それがすべて調子を揃へて作用するやうに仕組まれたものであつた。

彼は其設計圖をブラッチエット裁縫機製造をやつてゐたヘルプスと、もう一人ジーベルの二人に見せたところが、其考案は從來の如何なる考案よりも頭破抜けたものであつたので、ヘルプスもジーベルも、この考案が設計通りに甘く運轉して仕事をすれば、それこそ大成功で、完全な實用的裁縫機が實現することになるといつて嘆賞し、大いにシンガーを力づけて呉れた。然しさうして眼目の部分的考案は出来たが、さてそれを巧く調子を合せて仕事をさせるべく、どうして運轉させるかの問題が、まだ残つてゐた。

彼はそのとき、既に一切の職を抛つてゐた。多少もつてゐた貯金も一文無しに使つ

てしまつて、収入といふものは一仙もなかつた。彼は今後どうして生き、どうして研究を續けて行くべきかの重大問題に直面した。すると幸にヘルプスが同情して其工場の一部を彼の作業場として貸して呉れ、尙四十弗の金まで貸して呉れた。そしてジールは彼の助手となつて彼の成功を助け、彼と苦難を共にしようと思つた。この二人の友情に厚い援助者を得たシンガーは、勇氣百倍して機械の製造と研究に一切を忘れてしまつた。併し僅か四十弗の資本が、さう長く彼の生活を保障しよう道理がない、彼は三度々々パンを食うことは出来なかつた。バターは一匙もなかつた。彼は日に一回僅かなパンの薄片をジールと共に嚙り、バターの代りに鹽水を呑んで、夜は鼠の棲家にひとしい薄暗い屋根裏にゴロ寝をした。斯うして苦心慘憺血を吐く思ひで漸やく出来上つた機械を實際に試験してみると、一針も縫へなかつた、幾度やつても無情なる機械は冷然として一針も縫つて見せなかつた。四年の歳月をあらゆる困苦欠乏に堪へ、狂人と云はれ馬鹿と罵られながらも忍んで來た結果がこれだ。流石剛腹不撓のシンガーも、餘りに期待の裏切られ方の慘酷さに、喪神するほどがっかりせざるを得なかつた。助手のジールも、彼と長い間慘苦を共にして來ただけに、情けなくて泣か

ざるを得なかつた。

併し彼はジールと共に猛然と奮ひ起つた。これまで漕きつけて、こゝで落膽して投出す様では、とても此發明に完成の榮光を見ることは出来ない、と思ひ返し、自ら勇氣づけてからの彼は殆んど死物狂ひであつた。さうして遂に天は自ら助くる人を助けた。彼の不撓不屈の勇猛心は、彼の目的通り、彼の機械はリズムミカルな音を立て、布を縫ひ進んだ。此時のシンガー青年の狂喜と感激は、如何なる最大最級の形容詞を以ても盡し得ないものであつたことは言ふまでもない。

喜怒哀樂の去來 之れ人生の常とはいへ、斯かる人類の恩惠の偉大なる創作者に、幾多の艱難を去來させることは、餘りに過ぎた運命の惡戯でなければならぬ。彼が機械に於ける成功の歡喜は、間もなく襲ひ來つた難題障害の爲めに苦しめられることになつた。彼が發明考案の参考とした裁縫機の考案者プロツヂエツトは洋服屋であつたが、利に敏なる彼は、シンガーの機械が己れの機械に優ること遙かで、これを我手に收むれば巨萬の富易々たるものと思つた。腹黒い彼は一弗の資本も有たぬ憐れな貧乏發明家シンガーを巧みに説き伏せてその權利を買収しようと思つた。彼は、裁縫機

械などといふものは實用的に廣く世に用ゐられるものでない、殊に資本のない者の發明品の發作販賣は結局失敗に終るものである、さういふ危険を冒した末に出資者の前に權利を放棄するの愚な事を骨折つてするより、今のうちに權利を賣却した方がいくらか有利だか知れないといつて言葉巧みにシンガーを口説いたのであつた。併し彼はブルツヂエットの腹黒い企てに乗るには餘りに先見の明があつた。彼は自分の發明は發明せんが爲めの發明でもなければ、自分自身の利益のみを目的としたものでもないから、例令將來の運命が何處に何う持ち廻らされようと、自分は自分の思ふ處に進みたい、自分の發明は自分が目的とした心に副ふべく、自分自身に最後まで努力したい、御忠告は有り難く拜聴するが、權利賣渡しは絶対に御免蒙りませうとキツパリと跳ねつけた。そして彼は彼を知る友人が提供して呉れた數百弗の資金を以て、ジーベルを助手に、日夜機械の製作にすべてを忘れたのであつた。すると今度は、裁縫機の部分の特許を受けてゐたホーエといふ人物が、シンガー發明の機械は特許權侵害である、自分の考案した部分が用ひられてあると捻込み、二萬五千弗の損害賠償を要求し、若し賠償金を支拂はなければ訴訟を提起してシンガーの機械製作を中止せしむると、容

易ならぬ難題を吹かけた。これには流石のシンガーも頗る困つた。特許といふことには全然素人の彼としては、自分の發明した機械が、果してホーエの言ふ通りホーエの特許權を侵害したのかどうかを確かめることに困難であつた。といつて友人のお情けで貸して貰つた數百弗の資本で製作を始めたくらゐの貧乏の彼に、二萬五千弗といふ大枚な賠償金は鯨鯨立ちしても出來つこはなかつた。

ところが徳は孤ならず正義に友ありで、茲に彼の大障害を一掃すべく有力な味方が現はれた。それは辯護士で實業家であつたクラークといふ人であつた。クラークは特許侵害について調査した所が、ホーエの特許は、彼自身の發明でなく、ハント兄弟が發明したものを少し捻くつたもので、特許の價値のないものであつた。そこでクラークはシンガーの代理人となつてホーエと法廷に争つたが、その判決は、特許侵害を構成せずといふのであつた。シンガーは完全に勝利を得た。クラークは知人友人を説いてシンガーの爲めに資金を出し合ひ、シンガー・ミシン會社を創立し、組織的製作に取りかゝつた。無論ホーエとの間に激烈な競争が開始され、潤澤なる資本を有するホーエの爲めに、シンガーは頗る苦戦しなければならなかつたが、矢張り優れたるもの

は最後の勝利者であつた。ホーエの機械に比ぶれば値段はすつと高價であつたにも拘らず、優秀なシンガー・ミシンの爲めにホーエの機械は遂に壓倒されてしまつた。

爾來シンガー・ミシンの需用は益々増加し、聲價は愈々高まり、社運は隆々と發展し、社礎も年々強固となり、製造能力も増加し、一八六三年には製造高二萬臺を突破し、十七年後の一八八〇年には五萬臺を越え、現今に於ては勿論一十萬臺と稱せられて、而もその種類は二千五百餘種といふ驚嘆すべきものである。そうして今やシンガー・ミシンは世界を風靡し、如何なる競争者も、彼の前に立つて戦ひ得るものはない。曾て獨逸のミシン會社がシンガーの向ふを張つて世界的競争を試み、一時は兩々鎗を削つて戦つたが、獨逸のミシン會社が死物狂ひとなつて奮戦力闘したに拘はらず、却つてシンガーの爲めに征服されてしまつた。機械の堅牢と價格の低廉と實用的な點においては、獨逸製はシンガーに優つてゐた。それにも拘らず、遂に敗戦してシンガーの名を益々高からしめたのは、シンガーの巨大なる資本と競争戦術の巧妙にあつた。日本でも一頃兩者の競争戦は可なり激烈であつたが、シンガーの遣り方は思ひ切つて頭破抜けてゐた。其一端を擧げると、シンガーの本社は支店、出張店、代理

店に命じて獨逸製たると何國製たるを問はず、すべて競争性を帯びた機械は、買つた時の新品の値段でドシ／＼買ひ取らせ、其の代りに自家の機械を便宜な月賦拂で賣り込ませた。買ひ取つた他會社製のもの、悉く本社に送り、本社は地金に叩き潰してしまつた。それが日本ばかりでなく全世界に亘つての事であるから、その費用だけでも莫大なもの、一臺百圓平均としても一萬臺で百萬圓、十萬臺で一千萬圓、而もそれが一年や二年でなく、何年となく敵を征服するまで續けられたのであるから、其競争費は恐らく數億圓の巨額に達したであらう。そんな大袈裟な思ひ切つた藝當は、到底他社の企て及ぶ所でない。シンガーを征服しようと思ひ切つて居た獨逸も佛國も英國も、大戰の打撃で今や米國の敵でない。恐らく今後幾十年経つても、シンガー・ミシンを征服するものは現はれないであらう。

體驗より得た成功秘訣

一、貧に恐れず、艱難に屈せず、世間の毀譽褒貶に超然として、自己の目的に向つて勇往直進すること。

- 二、艱難來る毎に勇氣を振り起こし、失敗頓挫は成功への試練と思つて七轉八起する不屈不撓の精神。
- 三、道義的信念の無い目的事業は成功しない。少くとも最後の勝利を得るものでない。
- 四、正しくして優れたるものには必ず社會が味方する。そして有力なる直接の味方援助者は隨時隨所に現はれる。
- 五、一度び目指した自分の目的事業には、自分の魂を打込め。一心不亂は成功への障害との門扉を打ち壊す唯一の武器である。
- 六、發明的能力は天才のみの專賣特許ではない、何人も所有してゐる人間の普通能力である。
- 七、發明品を以て成功する秘訣は、儲ける事を考へるよりも、先づ世の中にその發明品の價値を知らしめる事である。

八百屋の小僧から製鐵職工となり努力奮闘

遂に世界的大製鐵會社社長となり富豪となつた

4 世界製鐵界の巨人シユワツブ (米國)

成功の總量

其日暮しの馬宿渡世の家を生、青物屋の小僧奉公から志を樹て、二十五歳にしてカーネギー・ホームステッド製鐵所の工場長となり、二十七歳にして同會社の取締役となり、三十五歳にしてその總取締役に榮進し、三十九歳にして世界未曾有の大製鐵トラスト會社ユーナムテッド・ステイール・コーポレーションの最初の總裁に推擧されて其月俸實に一百三拾萬弗 現在は世界第二の大鋼鐵會社ベツレ・ヘム製鐵會社の社長として快腕を揮ひ、世界製鐵界の巨人チャールス・シユワツブの名聲は全世界驚異の的となつてゐる。彼の富が現在どれ位あるか正確な數字は分らないが、少くとも億を以て數ふる程度に在ることは言ふまでもない。而も彼や本年正に六十二歳の圓熟の殿堂に立つた眞盛りである。今後彼の巨腕によつて作られる富が、どれだけのか

は測り知れないのであるから、成功の總量を論ずることは彼の現世活動の最後の日が暮れた後でなければならぬが、少くとも今日までに於ける彼の成功の量は、まさに斯くの通り偉大なものである。

如何にして成功したか

彼れの姓名を正確に言へばチャールス・ミハエル・シユワツプ、産地 北米ペンシルヴァニア州のウイリアムスブルグ、母から分身したのが一八六二年四月十八日。父の渡世業は馬宿、父は彼が生れて間もなく同州の小村ロレットへ彼等連れて引越し、そこでも矢張り其日暮しの細い煙を馬宿で立てゝゐた。

彼の父は無學な凡人であつた。それだけ彼の父は彼の教育については出来るだけ細い煙を節約して、學校教育を受けさせた。小學校を卒へて高等學校へ通つたが、父の収入は彼を卒業する迄學ばせるには餘りに貧弱であつた。彼は残念ながら學資が續かないために二年で學校と永久のお別れをしなければならなかつた。そして彼は父の友達の青物店へ小僧奉公にやられた。彼は小學校時代から一般の子供が嫌ふ無味乾燥な

數學が好きで、殊に機械については並々ならぬ趣味をもち研究心を燃やしてゐた。そして彼はさういふ方面に自分の一生の運命を開拓すべく私かに志を抱いてゐたのであつた。然るに憐むべし、事志と違ひ夢にも思はなかつた八百屋の小僧に遣られたので、彼としては失望落膽まさに悲觀懊惱すべき事實であらねばならぬ。無論彼は一時すべての前途の光明が消えてしまつた様に感じたが、彼はまた直に思ひ返した。

『八百屋の小僧奉公、これは俺が生きた世の中への歩み出した、第一歩の足が八百屋の店に印せられたからといつて、前途が無くなつたわけではない。次の第二步を本意な八百屋業にさへおろさなければ、即ち自分の豫ての目的の方面の何處かに踏みかければいゝのだ。』彼は斯う心に思つて、八百屋の小僧たる職務にサボらずダブらず忠實に熱心に骨身を惜まず働いた。

ところが恰もよし、此店のお得意の一人にジョーンズといふカーネギー製鐵所に勤めてゐる人があつた。ジョーンズは一部の職工長といつた格だつたので、シユワツプはジョーンズに頼んでカーネギー製鐵所の職工にして貰つた。八百屋の主人は彼が店を去ることを愛惜したけれども、友達の伴でもあり、彼の目的を自分の爲めに犠

牲にするほどの悪人ではなかつた。

シユワツプは彼の考へ通り世の中への第二步を、彼の爲めの修業場として最も適當したカーネーギー製鐵所へ踏んだので、彼の仕事に對する熱心は、多くの職工先輩の驚嘆するに値した。彼は單に與へられた仕事に熱心であるばかりでなく、製鐵方法や機械の改良研究に魂のすべてを打ち込んだのであつた。その結果はカーネーギーを驚嘆させるほどの事實となつて現はれ、銑鐵から鋼鐵を精製する方法に、驚くべき改良を施し、非常な好成績を挙げた。所長カーネーギーは「シユワツプほどに其仕事に精通せるものは、恐らく世界に人ありと雖も二人とはあるまい」と激稱し、彼を抜擢して七千人の職工長とした。時彼は二十四歳の若冠であつた。其翌年には彼の研究者案した新製鐵法によつて、從來廢物として、棄てられてゐたものから、莫大なる優良品を採取することに成功し、而も其鋼質は躍進的向上進歩したものであつた。それから三年後の二十七歳の時、總取締役が死んだので、カーネーギーは直に彼をして其後を襲はしめ、年俸五萬弗を與へ、尙且つ特に彼を此大會社の出資者の一人に加へ、利益配當として毎年五萬弗を與へた。これは後にも前にもない大破格の優待であつた。

斯くて彼は二十七歳の白面の一青年の身で取締役となつたが越えて三十五歳の時更に昇つて總取締役となり、世界的大製鐵會社の總指揮を與へられ、存分の抱負經綸を行ふ地位となつたが、いづれの國の事業界にもある様に、その快手腕に惚れて誘惑の手が彼の身邊に集つた。彼の名聲はその時既に歐洲にまで喧傳されてゐたので、英國の或製鐵大會社は、年俸百萬弗を出すから、二年間彼を貸して貰ひたいとカーネーギーに申込んだ。モルガン製鐵會社の社長モルガンは年俸百三十萬弗を出すから來て貰ひたいと彼に懇請したほどであつた。併し彼は百萬弗や百三十萬弗の年俸に助平根性を起こしてカーネーギーの信任と知遇とに赤んべいをするほど汚ない根性を持つてゐなかつた。彼はそれらの誘惑には振向きもせず、五萬弗の年俸に甘んじ、ホームステッドの總取締として、日夜激務に扶掌した。總て彼の年俸は一躍一百萬弗を與へられることになつた。

彼の手腕は全米は勿論、歐洲にまで驚嘆され、彼の名聲は世界的となつたがそのうちに、全米の大資本家によつて資本金十億弗のユーナイテッド・ステイール・コーポレ

ーションといふ世界未曾有の鋼鐵大トラストが出現し、その最初の總裁としてチャールスシユワツプが推舉され、勿驚年俸壹百三拾萬弗、時に彼れは漸く三十九歳に手が届いたばかりであつた。僅か三十九歳の若さで、全米富豪の信任を得、満場一致で資本金十億弗の世界最大のトラストの總裁に推舉されるといふに至つては、驚くべき事實といふ外はない。

其頃、ベツレヘム製鐵會社といふのがあつた。此會社は舊設會社であつたにも拘はらず、經營が良くないために、事業は年々不振に陥り、缺損續きで五十弗全額拂込の株が二十五弗に下落し、破産の運命に迫つてゐた。彼は事業界に雄飛するには、他から掣肘干渉を受けない獨立の地位に立たなければ、とて思ふ存分の腕は振へないと思つゝ、ゐたので、カーネギーの援助を得て、密かに其會社を買収して置いたのであつた。併し彼はカーネギーの恩顧もあり、全米大富豪連の満場一致の推舉である以上、一旦はトラスト總裁の椅子にかなければならない。その方が、彼が將來世界的に雄飛するにも都合だつたので、彼はベツレヘム會社の方は買収したまゝで、トラスト總裁として三年間彼れ獨特の快腕を振つた。そして事業が世界的に確實なる進展

を見た所で、彼はスバリと總裁を辭し、半死半生のベツレヘム製鐵會社の社長となつた。

また二十七や八の青二才で大會社の總取締となり、四十にも満たぬ若冠の、普通なら精々課長級なところに一躍して世界最大トラストの總裁といふ未曾有の榮職に飛上つた前代未聞の迅速な出世振りに、全米の膽を奪ひ血を湧かせ、これからどんな世界的大活躍をやるかと、歐米大資本家等が刮目して居た真最中に、忽然としてトラスト總裁の榮職を而も弊履の如く抛ち、半死半生の貧乏會社ベツレヘムの社長に納まつた破天荒の不意打の行動は、一般資本家其他の人々の豫想してゐなかつただけに、その驚きと評判は大したものであつた。

「鋼鐵大トラスト總裁を辭めてベツレヘムの貧乏會社の社長になるなんて、まるで飛行機から飛降りた様な放れ業だが、一體シユワツプといふ男、どんな氣であんな思ひ切つた事をやつたのだらう。あの男の事だから、何か自信のない事をやる氣遣ひはないが、或ひは例の黄金魔と云はれるモルガンと意見の衝突をやつたのではないだらうか。それにしても、それでないにしても、とて、彼の男の遺る事はまつたく端倪すべから

ざるものだ。』
 これが當時一般の人たちが、摩天樓の頂邊から後ろ飛びをした様なシユワツプの放
 れ業に對して加へた評判であつた。

併しシユワツプは、世間の毀譽褒貶には耳を藉さなかつた。馬鹿と云はうと、狂人と
 言はうと、言ふ者は何とでも云へ、俺は自分の目的とする所信する所に驀然に突進す
 るばかりだ。いくら世界一の大トラストの總裁だらうが、自分の信する通り、自分の
 抱負經綸通りに充分に思ひ切つて腕が揮へないやうな事では、名譽は名譽か知らぬ
 が、眞男子の本懐ではないのだ。貧乏でも裸一貫でも、何者の容嘴もなく、何人の掣
 肘も受けないで、自分の手足を動かすやうに自由自在にやれるのでなければ、少くも
 も俺の眞の事業ではないのだ。今に見て居れ、世間が輕蔑して居るこのベツレヘムの
 貧乏會社が、どんなものになるか。その時世間が呀と驚くのは痛快至極だ。彼れシユ
 ワツプは斯う思ひ斯う信じてベツレヘムの貧乏會社の社長室にドツカリと腰を下した
 のであつた。

そして彼は、ベツレヘム會社の仕事を産み出す會社内部の組織制度の根本的改革を
 斷行した。彼は早速十五名の工場技術委員を任命した。そして其委員には一切の情實
 を排し、眞に手腕あるものを抜擢した。随つて手腕ありと認めたるものは平職工であ
 らうと、日傭人夫であらうと、差別なく抜擢して委員の重職に据えた。そして月俸を
 ウンと奮發し、且つ製鋼方法並に機械製作上に、あらゆる新工夫、新發明、新改良を
 案出すべく命じた。此の貧乏なベツレヘム製鐵會社を、世界一の大會社にするか否か、
 少くとも其製鋼方法に於て、その製品の優良に於て、その機械製作の技術と結果とに
 おいて、ベツレヘム製鐵會社を世界製鋼界の第一線におくか否かは、一に據つて諸君
 十五名の双肩にあるのだ……彼は斯う云つて十五名の工場技術委員を激勵した。且つ
 一般の職工に對しても、その待遇を一變し、思ひ切つた優待好遇を以てした。
 この思ひ切つた、到底普通の資本家には鉢鉢立ちしても出来ない改革の大英斷に對
 しては、彼等十五名の工場技術委員は、驚喜と感激の外はなかつた。殊にその社長は
 世界の製鐵界のナボレオンと謂はれた巨人である。この巨人を社長として、而も直接
 社長と接觸して、而も此の未曾有の優待の下に働くことは、彼等として、利害得失問
 題以上の或るものに打たれざるを得なかつた。

彼等は全身を熱い涙に溶けさすほどの高度の感激を以て働いた。工場の労働時間はカーネギー製鐵所同様八時間制であつたにも拘はらず、彼等は朝七時に出勤して、夜は八時九時十時、時には十二時を過ぐるまで我家へ歸るのを忘れて、獻身的に働いた。社長シユワツプが魂のすべてをベツレヘム會社に打込んだ如く、彼の部下一同は魂のすべてを自分達の與へられた仕事に打込んだ。

その結果が悪からう筈はない。半死半生の會社は、氣絶して居た者が息吹き返したやうに生々潑潑となつて甦つた。會社の製鋼方法や機械製作上の進歩した改良案は、ドシ／＼技術委員の熱心なる研究によつて提供され、その成績は着々と擧がつた。シユワツプの手に移るまでの會社の成績は、年々欠損々々又欠損を續けてゐたのが、彼の巨腕によつて經營されるやうになつてからは、その年末に於ける決算は、莫大なる収益状態を示した。しかし彼は日本の資本家のやうに、その利益の大部分を重役やその他株主が占め従業員に對しては、ホンの申譯ばかりの微少な賞與金を與へるやうな先の見えない我利主義の男ではなかつた。彼は彼が最初に言つた様に、ベツレヘム貧乏會社を盛大にするか否かは、社長その他の少數の重役の方でなく、工場技術委員

初め全従業員の手に在ることをよく知つてゐた。そしてその會社を復起させる實力者たる従業員を優待することが、結局資本家それ自身の利益であることを知り過ぎるほどによく知つてゐた。彼は年末決算に於ても、全利益の三分の二を従業員に與へ會社の利益分配としては三分の一しか取らなかつた。

彼は工場技術委員のみでなく、平職工にしても日傭入夫にしても、苟くも熱心な研究をする者には、惜まず研究の費用を與へ、便宜を與へた。彼が如何に研究考案に熱心であつたかは、たつた一つの考案に對して一千五百萬弗を費したといふ一事でも首肯されるであらう。

斯うして新たなる組織制度、新たなる改良考案に全力を注いだ結果は、その製品の實質において、その値段において、他の會社の製品を壓倒し、事業は日に日に進展して、曾て二十五弗といふ全拂込五十弗の半値にまで下落した株式が、七百弗の相場を呼ぶに至つたのである。彼の會社の發展振りが想像されるであらう。

かうなると、かつて彼のトラスト總裁辭職を摩天樓から飛び降りたやうな危険、寧ろ彼れの事業と名聲の惨死を思つた人たちも始めて、彼の眞意を悟ることが出來た。

成るほどこれだから彼がトラストの總裁といふ名譽な椅子を擲つたのだと分つて且つ彼の深遠遠謀と、彼の手腕が如何に同業間に怒るべきものかを沁々と思はせた。彼が歐米の同業者、而かも彼の何億何十倍の大資本を擁する大會社を敵として戦ひ、巨人の如き歩を進めてゐるうちに、彼れの驚くべき手腕を發揮する大機會と、彼れの事業を大躍進させる絶好の大機會とが、忽然として彼を襲ふた。それは一九一四年に起つて大戦争であつた。八月に戦争の火蓋が切られて、一ヶ月後の十月には英國陸軍大臣キツチナー元帥から、至急電信を以て、倫敦において會見したしと申込んで来た。その會見の目的が何であるかは、無論明敏なる彼に分らない筈はなかつた。

彼は直に旅装を整へ、ホワイト・スター會社のオリムピック號に乗つて倫敦に向つた。英國陸軍省におけるキツチナー元帥の彼との會見は最も鄭重を極めたものであつた。その會見の目的が、軍需用品製造引受であつたことは、無論言ふまでもない。キツチナー元帥は彼に對して、幾らか危んだ心持で問ふた。

「向ふ一ケ年間に砲彈一百万發の製造を引受けて貰へませうか?。」

従は言下に答へた

「十日間を以てお間に合せませう!」

數百萬の獨逸同盟軍に怯ともしないキツチナー元帥も此の即答には呀と驚かされた。一百万發の砲彈だ、一ケ年間の日子を以ても果して何うだらうかと危んで居た位だ、それになつた十日間で間に合せるといふに至つては、豫想に反することの大きかつただけ、その驚きは大きかつた。

「十日間ですか? 注文は砲彈一百万發ですよ! 一百万發の砲彈を僅か十日間に間に合せ下さることが可能ですか、實際において!」

キツチナー元帥も斯う念を押さずには居られなかつた。すると彼の頬には氣持のよい微笑が浮んだ。

「仰せの通り、御注文は正に砲彈一百万發です。兎に角閣下の方では、一百万發の砲彈が、より早く提供されることに御不平はない筈だと考へます。一百万發位の砲彈を十日間で製造することの出来ないやうな私なら、閣下の御招電に應じて態々ロンドンまで遣つて來やしません。」

何といふ痛快な言葉であらう。實に彼の眞面と何人も追隨を許さない彼の快腕とが、躍如として現はれてゐるではないか。無論彼は約束通り十日間で一百万發の砲彈を間に合せた。

次に彼は英國海軍大臣フイツシャー卿と會見した。其時フイツシャー卿は彼に潜航艇二十五隻の建造を注文する考へであつた。當時、英國海軍の最も必要としたのは潜航艇であつた。現に五十隻はあつたが、獨逸の潜航艇が暴威を揮つて歐洲の海面に神出鬼没し、聯合軍の海軍が散々な目に遭はされるので、之に對抗する必要上、どうしても潜航艇の数を増加しなければならなかつた。そこでフイツシャー卿は、彼に問ふた。

『二十隻の潜航艇、出來期間はどれ位かゝるでせうか？』

彼は直に答へた。

『特に支出を惜まず急がすならば、九ヶ月間に完成してお渡しいたします。』

『何ツ？ 九ヶ月？』

『左様、九ヶ月間です！』

彼の此答は陸軍省でキツチナー元帥を驚かした以上にフイツシャー卿を驚かした。物は潜航艇である。戦争をする潜航艇である。玩具の潜航艇や漁船ではない。而もそれを二十五隻建造するとすれば、どんな建造能力を以てしても一年以内に出來る筈はない。二ヶ年と云へば一年半位で出來ないかとも云へるが、一年どころか僅々九ヶ月間に完成してお渡しすると言はれたのでは、殆んど啞然として二の句が次げない。世界製鐵業のナポレオンと言はれ、且つ自らも許してゐる彼にしても、二十五隻の潜航艇が僅か九ヶ月間に完成するといふことは、フイツシャー卿には、一寸信じ切れなかつた。そこで當時世界に報道されて有名であつたフイツシャー卿對シユワツブの賭が起つた。『宜しい、では斯うしませう。九ヶ月の期日より遅れたら、一週間を延びる毎に一隻につき十五萬弗宛私が支拂へませう。若し又、期日より早く出來たら同じく一週間毎に一隻につき十五萬弗宛を反對に貴下の方からもらへませう。』

『承知致しました。』

潜航艇二十五隻九ヶ月間完成の契約は斯ういふ條件によつて成立した。シユワツブが約束通り九ヶ月間に完成出來なくて、假りに一週間延びたとすると、彼はフイツシャ

一卿に對して、一隻十五萬弗合計三百七十五萬弗を支拂はなければならぬ。その反對に一週間早く完成すれば建造費以外にそれだけの金額が彼の懐中へ飛び込む。この賭は、彼としては會社が潰れるか否かの、即ち彼と彼の會社の生命を賭けた大賭けでなければならなかつた。

彼はフイシャー卿との會見が終つて、海軍省の門を出るや、直ちに、優秀なる技術者を有する職工八百名の備入と材料の買入と、建造着手との暗號電信を、ベツレヘム會社へ向けて發した。そして彼が英國政府から二億弗以上の注文を提げて米國へ歸り、會社に到着した時は、勿驚、潜航艇二十五隻の龍骨が工場にちやんと据付けられてゐたのであつた。

彼は全力を擧げて建造工事を急がせた。そして結果は約束の九ヶ月より一ヶ月も早く完成した。彼はフイツシャー卿から四百九十萬弗の賭金を受取つた。併しその四百九十萬弗は全部全職工に分け與へ、自分は一弗も取らなかつた。さういふ所に彼の眞面目があるではないか。

軍需品引受けは英國のみではなく、佛國からも伊國からも引受けた。兎に角聯合軍

から引受けた注文は四億弗を突破し、英佛兩軍へ重砲一萬九千門を供給し、其他聯合軍が使用した全砲彈の七分の一は實に彼の指揮の下にベツレヘム製鋼會社の工場において製造されたものであつた。

斯うした彼れの實力手腕は、誰が何といつても米國內は素より、世界において彼の右に出づるは勿論、彼に肩を並べ得るものはなかつた。彼の遣る事は一々世人の意思に出で、其結果は一々世人を呀と言はせなければおかなかつた。米國が大戦に参加するや、彼は忽ち選ばれて米國海軍省造船所の所長に任せられた。米國參戰後米國海軍造船所が、驚嘆すべき大規模の造船計畫を樹て、而もそれを法螺でなく懸値でなく、實際に着々實行して世界を驚倒させたのは、一に所長彼シユワツプの快腕であつた。大戦終了後彼は再びベツレヘム製鐵會社の社長となり、現に彼は其社長として縦横に自由自在に彼一流の快腕を揮ひ、世界の製鋼界に巨人の歩みを續けてゐる。而も彼の會社ベツレヘムは、ユーナイテッド・ステイール・コーポレーションを除けば世界第一の製鐵社で、カーネギー製鐵所を凌駕してゐる。即ち彼の製鐵所は世界第二位の大會社である。これがペンシルヴァニア州の片田舎の馬宿屋の小作に生れた一貧兒の

努力奮闘の結果であるといふに至つては、何人と雖も、人の一心といふものがどんなに偉大な結果を來たすものかを思はずにはゐられないであらう。

體驗より得た成功秘訣

- 一、純なる少年時代に最も強く自分が惹付けられ、最も強い興味趣味を感じ、最も自分の得意の表はれた所に終生の目的を樹つることであり、
- 二、一旦目的を樹立した以上、如何に境遇が變化しても、如何なる困難に遭つても、斷じて最初の目的を變更せず、驀然に其目的に向つて押し進んで行くことである。
- 三、自分の仕事に對しては、其結果の利益が自分に與へられないにしても、魂のすべてを打つ込まなければならぬ。
- 四、目的を達するためには、自分の事業をより良く健實により發展せしむるための研究考案には、全財産を棒に振つても注ぎ込み、出し惜みをしてはならぬ。
- 五、雇傭人に對しては、能ふ限り思ひ切つて優待、時に自分の全財産を投げ出してもやらなければならぬ。

六、人を使用する場合は、小僧人足でも自分の事業を成功させて呉れる分擔者であることを常に忘れてはならない。

七、知遇に對しては利害得失を超越してそれに酬ひなければならぬ。

八、天は自ら助くる者を助け自ら助けない者には一瞥も與へない。

九、依頼心を起さず、飽くまで自力獨行し、自己の目的には必成の確信をもたなければならぬ。

十、自國一を目標にして居たのでは自國一にはなれない。最初から世界の第一人者、世界一の事業たらしむる目標と確信とを以て驀進しなければ、自國の第一位をさへ占むることは出来ない。

坑夫とまでなつて勞働の體驗を嘗め臥薪嘗膽

遂に全力を以て獨逸を支配する大富豪となつた

5 世界無類の實業王スチンネス (獨逸)

成功の總量

二十四歳から五十四歳の死に至るまでの三十年間に收獲し得た彼の成功の總量は、八十億金貨マルクといふ驚嘆すべき巨資を擁し、全獨逸に於ける鐵王であり、石炭王であり、鐵道王であり、造船王であり、新聞王であり、製紙王、製藥王であり、木材王、土木王であり、電氣王であり、自動車王であり、旅館の王者であり、そして其巨大なる財力金力を以て大戦後の獨逸政界財界、自由自在に操縦し、賠償金問題におけるドーゾ案の履行は一に彼の手によつてのみ可能性が認められたほど、それほど彼は獨逸を支配する偉大なる力であつた。足一度び獨逸の地を踏めば、スチンネスの雰圍氣を呼吸せずしては、獨逸國內では生きてゐることが出来ないといはれたほど、それほど彼の事業は蜘蛛の巢の如く全獨逸に根が張つてゐた。随つて彼の大戦後の獨逸に於ける陰然たる大勢力は、内閣の支配者であり、大統領の支配者であり、財初金力のカイゼルであつた。

如何にして成功したか

財力金力のカイゼル！ この一語が語る客が、如何に偉大なるものであるかは、

恐らく讀者の何人も充分に想像し得る所であらうと思ふが、斯くの如き殆んど超人的とも云ふべき大成功が、何うして得られたか、それが第一に讀者の興味を惹く最大なるものでなければならぬ。そして筆者も亦、彼の成功を語るに當つてそれを説明することに最も興味を感じる。

彼も亦獨逸プロイセンの片田舎に生れた一貧兒であつた……と書き出した方が讀者の興味性に強い感激を興へるに相違ないことは筆者も百も承知だが、事實はさうでなくて彼は堂々たる富豪の家に生れ、お坊ちゃんとして育つた幸運兒であつた。プロイセンはデュツセルドルフ縣、有名なライン河の支流洋々として行く彼方、エツセン市から七哩を距るミユールハイム市に一二を争ふ富豪として知られたスチンネス家、それが彼の生家であり、一八七〇年二月の十二日、それが彼の生れた日であり、フーゴー・スチンネスそれが彼の姓名である。

諸君が、獨逸の地圖を展じて、ミユールハイム市が圖上那邊に在るかを知らんとするときは、諸君は必ずや獨逸心臟と謂はれる獨逸産業の樞要地ルールの一點にそれを見出すであらう。彼がその産業の樞要地に生れたことは、彼をして將來事業として全獨

逸に快腕を揮ふに至らしめた、感化的原因の一部を示すものであつたことは争はれない。

彼の祖父は事業経営家として、稀に見る手腕をもつた人物で、彼の家の富は一に祖父の力によつて贏ち得られたものであつた。然し彼の父は商人で、祖父の血を享けた子としては、寧ろ不肖の子たる誇りを免かれない平々凡々の人物であつた。彼の父は彼を商人たらしむべく彼を教養せんとしたが、彼は父の意思に従つてミユールハイム市の一商人として終生するには、餘りに祖父の遺傳分量が多かつた。彼は小中學を終へた後、父の勤めによつて高等の商業學校に入學したが、彼は商人たるべき學校へ學ぶことは少しも感心しなかつた。併し兎に角、父の命令通り、高等商業學校だけは卒業したけれども、父の家業を後繼することはどうしても出来なかつた。

彼はとう／＼父の家を飛び出してしまつた。そしてルール炭坑の坑夫に身を投じた。そして彼れ終日汗と脂と粉炭とにまみれながら、一般の坑夫と同様に十餘時間の過激な労働に従來した。

苟もミユールハイム市で一二を争ふ富豪の坊様ともあらう身が、成るに事をかいて

炭坑夫になつて地獄入りするとは、何たる心得違ひの大たわけだらうと罵倒してはいけない。彼は父の子ではあつたが、其天稟の才能は祖父マチャス・スチンネスの遺傳を享けてゐた。即ち彼は、將來事實家として世に大成したいといふ野心が、既に中學時代から滿ち溢れてゐた。しかし、彼は事業家として成功するには自分から其真相に通曉することが必要だと考へた、資本家が労働者を遇するに奴僕視するは決して資本家の利益を大ならしむるものでない、少くも今後の資本家事業家は、其實際の仕事遣る労働者そのものと共に働き、共に眞劍になるのでなければ駄目だ。労働の仕事、生活が凡そどんなものであるかを知ることが、事業家として第一に必要な問題で、事業そのものゝ有利であるや否やを知らなければならない。彼は必要の事柄である。それを眞實に知るには自らの體驗、それに越した事はない。彼はそれを實行すべくルール炭坑の坑夫生活にはいつたのであつた。即ち彼の坑夫生活は、彼が事業家たらしむる修養であり研究であり基礎工事だつたのである。

炭坑夫生活は約十ヶ月ばかりで終つた。それは坑夫生活の實情を充分に體驗し知悉し得たからであつた。次に彼はベルリンの鑛山専門學校に入學し、金鑛、鐵鑛、亞鉛

鑛、炭鑛、油田等の専門學術を學ぶと共に、それらの科學的經營方法をも學んだ。三年にして鑛山學校を卒業し、祖父の經營してゐる鑛山に入つて經營法の實際を研究した。彼が鑛山専門學校に入學した時は十九歳であつた。

斯うして彼は、坑夫の實生活を體驗し鑛山に關する専門學術を修め、尙ほ其經營法を理論と實際とにおいて究め、最早やこれで十分鑛山事業を獨力で經營し得るといふ確信がついたので、彼は父から五万マルクの資金を借り、いよく獨立して鑛山業界に飛び出した。そして彼は例の有名なクルツプ會社の經營者であつた獨逸鑛業界の第一人者と謂はれたチツセンと提携して活動を開始した。それは彼が下度二十四歳の時であつた。讀者は茲において一個の疑問に逢着するであらう。即ち彼は祖父の下に走らずして何故赤の他人のチツセンの下に走つたか、何故祖父と提携せずしてチツセンと提携し、かの問題である。普通の人から考へれば、彼の祖父は現に鑛山業を經營し、獨逸鑛業界では相當名を知られた、老練家であり、斯道の達人である。祖父の爲めには彼は愛孫である。彼が祖父の下に走つたならば、祖父は彼の爲めにあらゆる教養と援助とを與へるであらうことは間違ひない。随つて彼としては、その初陣において、

肉身の祖父の下に走り祖父と提携する方が有利であるべきは言ふまでもない。然るに、その肉身の祖父に往ずして、赤の他人のチツセンに走り提携したといふのは、甚だ諒解に苦しむ所の様であるが、彼は可愛がられる子は旅する事の必要を自覺してゐた。祖父の許に走ることは、一見成功するに時間と苦勞とを經濟にする様に見えて、實は大成の器たり得ない。即ち祖父の愛の爲めに誤られ、祖父に對する肉身の依頼心の爲めに自ら誤ることの必然なることを知つてゐた。そこで彼は自ら大成するにより有利なる赤の他人のチツセンの許に走つたのであつた。彼がチツセンの許に走つたのは、その理由ばかりでなかつた。祖父に鑛山事業家として知られてゐたけれども、チツセンに比ぶれば問題にならなかつた。何といつてもチツセンと云へば、當時獨逸の鑛業界王であり、鑛山家としては第一人者であつた。だから彼スチンネスが鑛山界に踏出す踏臺としては、チツセン以上の有利なものではなかつた。小さな者を利用するよりは、より大きなものを利用した方が、より有利で、より成功が速い秘訣を知つてゐたからであつた。

果せるかなスチンネスは、それから十年も経たないうちに、彼の鑛山家としての名

聲は全獨逸に謳はれるに至つた。そして彼がその地位まで漕ぎつけたとき、彼は初めてチツセンとの提携を解いて純獨立の踏臺の上に突立つた。而もその時、彼は未だ三十五歳の若輩であつたが、その鑛山事業家として、實力は、チツセンの壘を摩し、今一步でチツセンの鑛山王冠を奪ふといふ所まで成功してゐたのであつた。富豪の子に生れた身分であつたにせよ、五萬マルクの資金があつたにせよ、僅か二十四歳の青年二歳が、僅か十年やそこらで、獨逸の鑛山王と肩を並ぶるまでに成功したといふのは、何といつても驚くべき高速度の成功といはなければならぬ。

併し彼は、鑛山事業にこれだけの成功を贏ち得たからといつて、大成者となりすますほどの小さい人物ではなかつた。彼の最後の目的は、鑛山事業を振り出しに、全獨逸を一人で脊負つて立つ實業の霸王たらんとするにあつた。若し彼れが、その自己の最後の目的を發表したならば、世間は恐らく、ドン・キホーテ扱ひをしたであらうが、彼は事實それを最後の目的とし、且つその可能なることを確信して動かなかつた。彼は次に石炭坑の經營を遣り初め、そして其次に製鐵界に乗り出した。彼が炭坑事業に手を伸ばしておいて製鐵事業に乗り出したといふのは、流石に彼の事業家たる所

で、製鐵事業にはなくてはならぬものは第一に石炭である。随つてその石炭を他から購買すると、自己經營の炭坑から供給するのでは、製鐵事業上の利益に莫大なる關係を有すること言ふ迄もない。而も彼は、それだけでは手を收めなかつた。次に彼は造船業に着手し、之れ亦、鑛山、製鐵事業と共に、何等の危険なく成功し、鑛山王、製鐵王、石炭王たると共に造船王たる地位を收めた。斯うなると彼の事業の手はそれからそれと伸び、鐵道、製紙、製藥、木材、土木、自動車、電氣、新聞、ホテルと津浪の押寄せるやうにその事業界に押し進んだ。それほどあらゆる方面に手を擴げながら、一として失敗するものなく、遣れば成功、遣れば成功、全くトントン拍子の成功々々又成功で、眞に天馬空を行くの概があつた。

獨逸國內、いづれの市、いづれの町、いづれもの地方へ行つても、スチンネスの手の伸びてゐない所はなかつた。彼の手の伸びない所といふならば、それは獨逸國外に去るの外はない。新聞だけでも、彼の經營下にあつたのは六十四新聞あつた。獨逸國內その六十四新聞の及ばない所はないのだから、彼の雰圍氣からのがれて且つ獨逸國內に生きることは一時間でも不可能であつたといふことが嘘でも法螺でもないことが

首肯されるであらう。

斯う述べて來ると、讀者は、恐らく、彼の生活がどんなに豪奢なものだらうか、彼の風采がどんなに堂々たるものだらうかといふことを、直に想像するであらうが、世界の富豪大資本家中、彼ほど所謂富豪生活大資本家生活の裏を行つた生活をするものなく、彼ほど風采堂々の逆を行つた風采の持主であるものはない。日本では、風采の頗るあがらぬことを田舎の村長といふが、スチンネスの風采と來たら、とても日本の田舎の村長さんなどの足許にも及ばぬ。彼が汽車の下等室にチヨコナンと坐り込んで居る所、彼がホテルの階段をコツ／＼と上つて行く姿、彼がホテルの食堂で食事をして居る所、彼が事務を執り、訪問者に面接して居る所、その他彼の姿を發見する如何なる場合でも、圓太郎馬車の御者か家族の六七人も抱えた安月給のボロ會社員か、その以上にはどう高く見積つても見えない。スチンネスを知らなかつた外國の一新聞記者がベルリンに特派され、本社の命で、彼の經營してゐるエスブラナード・ホテルにスチンネスを訪問した。丁度スチンネスが泊つて居たので面會しようといふボーイの返事で、應接で待つてゐた。暫くすると圓太郎馬車の御者見たいなづんぐりした親爺

がチヨコ／＼と這入つて來た、そして突如手を出して握手しながら「わしがスチンネス、何か御用で……」と云つた。記者先生その風采が想像とあまりに懸隔れてゐたので、いきなり握手した手を引き「君戲談ぢやないよ、僕は大實業家のスチンネス氏に會ひに來たんだ。君見たいな男に會ひに來たんぢやないよ」とブツと噴飯した。すると彼は「あ、さうか、そんな立派なスチンネスに會ひたいのか。では左様なら……」ドン／＼出て行つてしまつた。そのあとでボーイに文句を云ふと、「あの方が貴下がお會ひになりたいと仰有つたスチンネスさんです」と言はれて、暫し開いた口が塞がらなかつたといふ話がある。そんな喜劇はいくらもあるが、それほど彼の風采は圓太郎馬車の御者以上には出でない貧弱なものであつた。

事業家といふものは、一つの事業を經營しても可なり多忙なものである。泥して彼の如く他の資本家の十人分も二十人分も一人で經營して居つては、多忙を通り越した多忙で、東奔西走、年百年中汽車の中で暮してゐるといつてよい。だから彼に會はうと思つたら、何日間か汽車で追ひ廻さなければ會へないものと初から覺悟してかゝらなければならなかつた。彼は毎日平均十八時間宛働いてゐたといふ。以上彼の多忙が

どんなものであつたか、想像し得られよう。

そして彼は、汽車に乗つても一等や二等には決して乗らない、必ずいつも三等の赤切符で済まし込んでゐる。全國到處、自分の經營してゐるホテルがあつて、泊る時はそのホテルに泊るが、決して上等の室へは泊らぬ、最下等の室へ寝る。食事はボーイやコックたちと同じ食堂で、矢張りボーイやコックたちと粗末な食物に舌鼓を打つて喜んでゐる。服といつたら何十年前に買ったのか分らぬ様な羊羹色の黒服、靴は禿げチヨロケの大古靴、靴は何度も修繕した古ぼけた兵隊靴、鐵側鐵鎖の時計をブラ下げて、時代物の山高帽をチヨコナンと頭に戴けて済ましてゐる。これが獨逸の事業界を一人で脊負つて立つ金力カイゼル、内閣を一人で盛つたり壊したりする巨人フーゴ・スチンネスだとは、誰が目にも見えない。ヤレ別荘だ、妾宅だ、避暑だ避暑だ湯治だど、贅の澤をやつて労働者や貧民を蟲ケラ扱ひにする日本の富豪や資本家の豪奢な生活、堂々王侯を凌ぐ風采を見なれて居る日本人たちには、彼の生活や風采は、一寸想像するに困難であらう。

一九二二年の一月に、佛國が賠償問題で獨逸の産業の心臓たるルール地方に對し軍

事占領を行つた。此時彼もクルツプ會社の社長と共に佛軍の爲めに捕はれて投獄された。彼は佛軍の此無法なる處置に對して、非常に憤慨し、釋放されるや忽ち消極的抵抗即ち無抵抗主義抵抗を案出し、ルール地方は勿論全獨逸國民に實行させ、散々佛軍を苦しめ、佛國を存分惱まし、遂に佛軍をしてルールを撤退するの己むなきに至らしめた。

彼は金力カイゼル、實業カイゼルの名を恣にするほどの大成功を得たけれども、某國の資本家のやうに、國家や國民がどうなつても自分さへ儲かればといつた風の非國家非國民的な考へはもたなかつた。彼の事業が全獨逸を蔽ふて居たと同様に、戦後の彼は獨逸を救ひ獨逸民を救済することに全力を挙げ全智囊を傾けて、外に對し内に對し、日夜經綸畫策に没頭盡瘁してゐたのであつたが、惜むべし、天此巨人に獨逸救済の大事業を完成させる時間を與へなかつたのは、暗夜の獨逸及び獨逸國民に取つては、唯一の頼みにして居た煌々としてゐた燈明臺の火が忽然として消え去つたやうなものであつた。『スチンネス死す！』之れ一九二二年四月十日ベルリン發の合同通信が、この獨逸の巨人の死を世界に傳へた特電であつた。

體驗から得た成功秘訣

- 一、自己の最大の天分と信する所に目的を樹立することは成功の秘訣である。
- 二、一旦樹立した目的に對しては、またその目的を遂行する一切の手段方法については徹底的に研究し、十二分の確信を得た所で、初めて實際に着手することは成功の秘訣である。
- 三、一度び着手したらば、如何なる盤根錯節に遭ふとも不屈不撓たることは、成功の秘訣である。
- 四、事業に對して労働者を參與させることは事業成功の秘訣である。
- 五、その事業を託するに十分の信頼をなし得る人物を求むること。其人物を獲るまでは如何なる有利有望な事業と雖も斷じて手を着けないこと。十二分を選び、十二分に研究し、十二分の信頼を置き得る人物を獲たらば、如何なる事業と雖も悉く其者に託することは、あらゆる事業に成功する秘訣である。
- 六、余は事業經營法としてトラスト式經營法を採用したが、余のトラスト法は米國の

水平的トラスト法でなく、垂直的トラスト法であつた。米國の水平的トラスト法は各トラスト間の競争を惹起し、其弊害甚大であるが、垂直的トラスト法は、それらの弊害を惹起する空隙がなく、事業經營法として最も理想的であることを體驗によつて自得した。

月給十二弗の小店員から叩き上げて

世界的八富豪となつた

6 石油トラスト王ロツクフェラー (米國)

成功の總量

月十二弗の安給料の小年店員から叩き上げ、獨立した二十六歳から、後半生六十餘年間に築き上げた成功の總量は、三十億弗近い巨富と、スタンダード石油會社の創設と、其過半数の株を所有する大株主で且、同社の社長たる地位と、米國石油業大トラストの宰相たる地位實權と、世界の學界に偉大なる貢獻を齎らしつゝあるロツクフェラー研究所の設立と、世界的八富豪にして世界的大實業家であり、且つ世界的大慈善家

たる地位と名聲と信用と実績との夫れである、

如何にして成功したか

この驚くべき成功の總量を一見しても、直に何人の腦裡にも閃くのは、彼は如何にして成功したかの問題である。いくら米國であつても米國が人間の國である以上、また彼が人間から生れた人間である以上、この偉大なる成功が、忽然として天から降つたものでなく、地から湧いたものでないことは明白であり、彼が粒々辛苦幾難、骨を刻み、肉を裂いて、さうして築き上げ、叩き上げた集積であることは言ふ迄もない。然らば彼は、如何に努力し、如何に奮闘し、如何に削骨削肉の惨苦を嘗めて大寶冠を贏ち得たか、之を聞かんとするに讀者が多量の興味を有すると同様に、筆者も亦無限の興味を覺ゆるものである。

世の成功者の多くが、華やかな都會の出身でなく、自然美の惠豊かな寒村僻地の出身であるが如く、ジョン・ダビソン・ロツクフエラー彼も亦矢張りそれで、米國ニニューヨーク州の花の香と美しい水とを以て知られた平和な一小村チオガの地において

初めて現世の空氣に觸れたのであつた。そしてそれはまさに一八三九年の夏もなればの七月八日であつた。

彼の父ウイリアム・ユー・ロツクフエラーは、事業好きで、いろいろの事業に携はり、そのために幼い彼をつれ一家を擧げて、随分あちこちと流浪的生活を送つた。その間多少成功的結果を得たこともあれば、その日の生活にも困るほどの失敗を招いたこともあつた、がどちらかと云へば蓄へ得た金よりも、失つた金、負債の方が遙かに多かつた。随つて彼は彼の父がオハイオ州のクリーブランドに落つくまでは、碌に小學校へ通ふさへも出来なかつた。父が最後の場所として腰を下したクリーブランドにおいて、十四歳にして始めて學校へ通ふことが出来た。父ウイリアムは、我が子が二十一歳になれば、與ふる考へで一千弗、常に別途に貯蓄してゐたけれども、決して富有なる境遇ではなかつた。随つて彼は、豊かな家の子供たちの様に、ボンヤリ學校へ行つてボンヤリ毎日遊び暮すといふ樂な贅澤なことは出来なかつた、彼は學校から歸ると父の業務の手助けをさせられた。

殊に彼の両親は、子供の家庭教育といふことには、頗る眞面目で嚴格であつた。特

に母の愛兒に對する態度は、寧ろ餘りに古風に餘りに嚴肅すぎるほどだつた。彼には一人の弟があつたが、彼等兄弟が、少しでも母の命に背く行爲があれば、彼女は何等假借するところなく棒の鞭を加へて譴責した。彼も弟も、彼女の監督下にある間は、何百度何千度となく、母の鞭を頂戴するの光榮に浴せしめられた。この母の嚴格なる監督と鞭撻とは、その當時にあつては、寧ろ情けない冷酷な筈のやうに恨めしく思ふこともあつたけれども、彼が活社會に出るやうになつてからは、それがどれほど役立つたか知れなかつた。彼ら亦、その時になつて始めて彼女の棒の鞭の家庭教育の有難味に沁々と感じ、感謝の念に堪へなかつた。彼は寢床に入る前の祈禱において、先づ「神よ、慈愛深き我母と父とに幸福を與へ給へ」と祈らぬことはなかつた。そして彼はいつの夜の祈禱にも父母の安全と幸福のみを祈り、自らの事については一言も一寸も祈つたことはなかつたといふ。

彼の母がその愛兒に對し、如何に嚴格秋毫も苟もしない慈愛の棒の鞭を揮つたかを知るべき一つ二の事實を紹介しよう。彼の家から餘り遠くない所に湖があつた。その湖は風光明媚の湖水として、世に知られたものであつたが、冬になると湖水は結

氷して、子供達のスケート遊戯を試みるには最もふさはしく思はれた。併し此の湖水の結氷は、あまり厚くないのと、所々に極めて薄い所があつて、危険を思はせるものがあつた。そこで彼の母は、その氷上に遊びに行くことは固く禁じてゐた。ところが彼ジョンは或る冬の夜、弟のウイリアムを伴つて、母に内密で、近所の多くの小供達が嬉々としてスケート遊びに夢中になつてゐる湖水へ遊びに行つた。一旦行つてしまつて多くの子供達の中へ入れば、彼等も矢張り人の子であり子供である。もう母の戒めも忘れてしまつて、夢中になつて遊んで居た、と突然、彼方で雷ならぬ子供の悲鳴が、彼等の耳を劈いた。彼は弟と共に第一番に駈けて行つて見ると、一人の子供が薄氷を踏み破つて水中に落ち、まさに溺死しようとしてゐた。彼等は持つて居た棒を下して、それにつかまらせ、寄つて集つて引あげ、危い一人の生命を助けた。この突發的事件は一同の子供達に恐怖心を起させ、皆ゾロ／＼と我家へ足を向けた、ジョンとウイリアムも我家の方へ歸つたが、母の禁に違反したといふ科は免かれぬにしても、兎に角尊い人命を助けたのだから、差引勘定、恐らく棒の鞭を頂戴しなくて済むだらうと安心して居た。翌朝になつて助けられた子供の親が、彼の家へお禮に來た。それ

で始めて彼等が前夜母の禁を破つて湖水へ行つたことが露顯した。母の棒の鞭は唸りを生じて彼と弟の身體へ飛んだ。彼は、人命救助の善行によつて差引勘定して貰はうと、力めなければ、一も二もなく彼等の考への間違つてゐること、即ち人命救助は賞するに餘りある善行美事であるに相違ないけれども、母の禁を犯したといふ罪は免れない、且つその不良行爲を偶然の善行によつて差引勘定しようとするのは、善惡を同日に論ずるもので、根本的に間違つてゐる、悪事は善事の如何なるものを以てするも償却さるべき性質のものでないと説破され、棒の鞭は容赦なく痛い目を彼等の肉體と精神とに與へた。

或はまた彼の、母の禁じたいたづらをしたといふ科によつて、イヤといふほど棒の鞭を頂戴させられた揚句、そのいたづらは彼のしたものでなかつたことが明白になつた。彼はこの冤罪を何うして呉れるかと、母に逆捻ぢを喰はせた。ところが母は平然自若として、「ジョンよ、決して心配するな。今の鞭はこの次の分に繰越して置く。」と。これには流石のジョンも開いた口が塞がらなかつたが、一面において、その時の母の自若として動ぜざる態度に畏敬の念を一段と増さざるを得なかつたといふ。彼は

後日此事に關し「母が眞に我子を愛するの念がなかつたら、その過失を私から突込まれた時に、泰然自若たる態度は恐らく不可能であつたであらう。狼狽しつゝ陳謝したであらう。併し母は過失であつても何であつても、眞に我子を善良ならしめたとする至愛至情の外なかつたからこそ、泰然自若たる態度をとつて、反つて私をして畏敬の念を増さしめたのである」と人に語つた。實に彼の母は「鞭を手放すことは愛を極道に手放すものだ」子供を鞭つことに躊躇するのは子供を善良ならしむるに躊躇するのである」といふ信念の下に、愛兒の爲めに棒の鞭を手放さなかつた。それで見ても、彼の母の家庭教育がどんなものであつたか、窺はれるであらう。

斯ういふ嚴格な家庭教育を受けつゝ、彼は十六歳の時高等學校（日本で云へば中學校）を卒業し、次でクリーブランドの商業學校へ入學した、両親は最初大學に彼を送るつもりであつたが、彼の希望によつて商業學校へ入れたのであつた。彼は商業簿記その他商業に必要な諸學科を教へられたのであつたが、彼は商業といふものは學校教育を長く受けることが最善にしてより優れた商業家たり得るものでないことを自覺したので、數ヶ月間で、學校をやめてしまつた。そして彼は實際に於て商業を研究すべ

く決心し、就職口を求めて、クリーブランドの街から街を、幾日もくさまよひ歩いた。併し、彼を直に店員として使つてあげませうと言つて呉れる商店はなかつた。それにも懲りずに、街から街の商店を、殆んど片つ端から訪問してゐるうちに、「明日の午餐頃もう一度来て見て呉れ」といふ店が一軒あつた。彼は大いに喜んだ、併し又心配した。明日行つた結果不採用となつたら……と思ふと、甚だ頼りなく思はれたのであつたが、明日行つた結果は彼が心配したほどもなく快く採用して呉れた。但し給料の事については、店の主人は一言も言はなかつた。彼も亦別にその事を気にしなかつた。彼の心は只だ商店の實務に携はることが出来るやうになつたといふ嬉しさのみに燃えてゐた。

其年の暮に九月以來四ヶ月分の給料だといつて五拾弗與へられた。一ヶ月十二弗五十仙、頗る安い給料であつたが、彼は不服を言ふ所か、何しろ自分が實社會に出て、自分の勞働によつて始めて得た金であるから、世馴れた人の一萬弗二萬弗にも比すべき嬉しさと誇りとを感じた。その店は雜穀類の卸賣仲買と穀物類の運輸とを取扱ふ店で、ヒユウイッド・タツトル商會といふのであつたが、彼は帳簿掛であつたにも拘は

らず、卸賣、仲買、運送の方面まで研究を怠らなかつた。

翌年彼の給料は月二十五弗づつになつた。其翌年は帳簿方の主任となり、年俸七百弗に昇給した。年俸七百弗といへば、可なり高給の様だが、當時彼の地位を世間並に言ふならば、二千弗の年俸が至當であつた。高給どころか寧ろ薄給であつた。しかし彼は年俸二千弗三千弗與へられるよりも、彼に取りて有利な事があつた。それは其店は雜穀類の卸賣と仲買業と運送業とを兼ねたものであつたから、その取引範圍は、普通商店の如く偏して居らず、極めて廣汎で、あらゆる方面に涉つてゐたので、商業取引を研究修業する上においては、年俸の二千弗や三千弗には代へられぬ莫大なる利益であつた。

丁度其頃、彼の勤めてゐた商會にちよいとやつて来るクリーブランドの商人で英國人クラークといふ敏腕の男があつた。彼は此クラークの敏腕振りを見て、親しくして置けば、將來不利な事はない、彼の力に待つ事もあるかも知れない、よしんば彼と事を共にする事がないにしても、商業上の事について何か得る所があると思つたので、彼は特に親密にしてゐた。所が或日クラークが、自分は商賣を計畫してゐるが資

金が二千弗しかない、もう二千弗なくてはやれないので、誰か適當な人で二千弗出資してくれる共同者はないかと捜してゐるといふことを彼に話した。彼は渡りに舟だと早速自分が二千弗出資して共同で開業しようと思つた。クラークも彼の人物を頼もしく思つてゐたので、話は一も二もなく纏まつた。併しロツクフエラーには、薄給のうちから貯蓄したものが僅か八百弗 かなかつた。二百弗位は何うでも都合つくとして、あと一千弗だけが問題であつた。彼は早速父に一千弗の借用を申込んだ、父は彼等が二十一歳になれば一千弗宛與へる考へてゐたのであつたが、彼はまたその二十一歳になつてゐなかつたので、父は二十一歳になるまでは無條件で貸すことは出来ない、年一割の利息を拂ふならば貸して遣らうといつた。彼は年一割の利息で一千弗を借り、二千弗にしてクラークと共同事業を始めた。無論今迄勤めて居た店の方はやめた。此時彼が十八歳、クラークは少し年上の二十一歳、二人共まだ青年中の青年であつた。

斯うして、まだ乳臭い二人の青年によつてクラーク・ロツクフエラー商會が出来た。營業は彼が勤めて居たヒュウイッド・タツトル商會と同じ様な穀物類の販賣と

運送業であつたので、彼に取つては、ダツトル商會で實地研究したことが直に役立つ、こんな好都合なことはなかつた。そこで彼等は業務を分擔し、クラークは販賣仕入に長じて居たのでその方面を受持ち、ロツクフエラーは財政と帳簿とを受持ち、二人は一生懸命に奮闘した。無論事業は彼等の期待した通り順調に發展し、更に一千弗増資の必要が起つた。この増資における資金調達に財政を受持つたロツクフエラーの仕事なので、彼は土地の一銀行へ行つて頭取に面會し、一切の事情を赤裸々に話し、二千弗の貸出しを相談した。彼の考へでは、まあ十中八九までは駄目だらうと思つてゐた、すると頭取は彼の話を聞き、彼の提示した出荷帳と倉庫の受取證をスーツと一覽して『宜しい。二千弗無擔保でお貸しませう。』と言つた。此時の彼の意外の感と嬉しさが、およそどんなものであつたかは、恐らく讀者の想像し得る所であらう。而もこれは彼等が開業した其年のうちのこと、即ち彼が十八歳の時だつたのである。さあ斯うなると、彼等はその努力の能ふ限りの努力を試みようといふことになり、ロツクフエラーもクラーク同様外へ出て販路の擴張に馬力をかけ、オハイオ、インディアナ二州の廣い範圍に亘つて白熱的奔走を續けた。その結果は、實に驚くべきも

ので、其一年間における總売上高は五拾萬弗の巨額に達した。僅か四千弗の資金で、十八と二十一の二人の年の力で、開業初年に五拾萬弗の売上成績を得たといふことは、空前にして恐らくは絶後であらう。

斯うして事業が益々發展して行くに従つて、資本の必要も多々益々となつた。彼は最初無擔保で二千弗貸して呉れ、銀行からも、屢々借りた。また父からも屢々借りた。父は必ず一割の利息を取つたばかりでなく、突然貸金の返済を請求した。彼は最初は大いに狼狽したが、二度三度となるに従つて、今日請求されて今日返済するだけの腕が出来た。父が自分の愛子たる彼に金を融通するに、必ず年一割の利息を取つたり、突然貸金を請求をしたりしたといふのは、金銭は親子でも他人根性からではなかつた。我子だからといつて利息を取らなかつたり、安くしたり貸し放して置くといふのは、彼をより敏腕な商業家たらしむるに有害であると考へたからで、つまり愛すればこそ年一割の高利を取つたり、突然に貸金返済を迫つたりしたのであつた。さうして一旦請求して返させても、父は一週間も立てば再び三度び快く貸し與へてゐた。又父はさうして彼の商業家としての手腕の進歩を試験してゐたのであつた。

89

クラ、ク・ロツクフエラー商會は非常な勢を以て發展の一路を辿つて、日に月に繁榮していった。所が間もなく、彼を終生の大事業に結び付ける機會と幸福とが來た。それは當時米國に石油熱が盛んになつた事であつた、油田を一つ掘り當てれば、巨萬の富は數年にして成り、巨億の大富豪たることは、まるで坂路を下るやうな易々たるものとされた。併しその反面には、一つ失敗すれば巨萬の富も瞬く間に飛んでしまふので、石油事業は一種の投機事業と見做されるに至つた。油田の搜索發見に浮身を籠すことは、勿論多くの危険性があつて、迂濶に手出しは出来なかつたが、石油の精製事業は、採出されたものを精製するのだから、危険性のない確實な有利事業であつた。機を見ることに俊敏なるロツクフエラーは、これに目を着けた。穀類の販賣や運送業が商業として有利であることは、現にこれ迄やつて來た事實でも明かだが、新たに起こつて來た新産業の石油の將來有望なのに比べたら問題にならない。石油といふ不思議なる地中の産物は、將來永遠に盡くる時はないであらう。さうして石油の需用は到底穀類などの比でないであらう。而も此石油の有利なことは、最初の生産事業が、自然の手によつて地下に於て行はれることで、穀類の如く、最初から人力を待たなけ

ればならぬものでない。今の所一般に石油に關する知識と經驗とが充分でない爲め、油田の經營は危険性があるか、採り出されたものを精製することは少しも危険がないので、彼は共同者のクラークを説いて、従來の穀類販賣事業を廢業し、石油精製事業に乗り換へることにした。

併し石油事業となると、穀類販賣とちがつて多大の資金を要するので、ジェームス・リチャードクラーク、サムエル・アンドリュース等と組合を作り、その方に専門の技術を有するアンドリュースが工場方面の監督に當り、他は販賣方面に活動することになつた。

然るに、此の最初の試みは不練の爲めもあつたか成績は思はしくなく、共同者多數の意見で、組合を解散し、石油工場は競賣に附するといふことになつた。けれども若きロツクフェラーだけは、石油事業の將來有望なことを確信して、獨力でやらうと決心し、七萬二千五百弗に入札して買取つた。クラークは彼が餘り高價に買つたのを心配したが、彼は平氣であつた。無論彼は自分にはそんな金はなかつたけれども、例の銀行の頭取は彼の相談に右から左と七萬二千五百弗を無擔保で貸し出して呉れた。工場

場を買ひ取つた彼はアンドリュースと共同し、ロツクフェラー・アンドリュース會社を創立し、アンドリュースは矢張り工場監督を擔任し、彼は販賣方面に活動した。此時彼は二十六歳であつた。

事業は着々好成绩を擧げて行つたが、石油精製事業が、比較的容易な事業で、且つ油由經營と違つて、危険性のないことが、大分世間に知られ、同業者が非常に多くなつた。爲めに供給過多となり、精製石油は市場に溢れ、價格は段々下落し、多くの石油精製事業者は、今や倒産の大厄難に逢着した。

彼は之を以て寧ろ自分の爲めには絶好の機會だと考へた。彼はまさに破産に瀕してゐる諸會社を合同し、一大會社を創立し、資金を潤澤にして、販路を擴張すれば、生産方面の調節は自由に出来るし、一方市場の方面も自由に調節することが出来る考へ、彼等のロツクフェラー・アンドリュース會社に、ウイリアム・ロツクフェラー會社、ハークネス・フラグラー會社等を合同して、ロツクフェラー・アンドリュース・フラグラー會社を組織し、次いで資本金一百万弗のスタンダード會社を設立し、越へて一八七二年には更に多くの希望者を入れて資本金を二百五十萬弗に増加し、二年後の一

八七四年には更に三百五十萬弗に増資し、事業の進展するに従ひ、増資又増資を行ひ、販路を世界的に擴張し、遂に二億圓の資金を有する世界一の大會社たらしめ、今日に及んでゐる。

彼が米國石油界を壓倒して、世界的石油王となつたのは、彼がより優良品をより廉價に提供するといふ大量生産最低價販賣主義を以て戰つて來た所に負ふ所多大なるは言ふを待たないが、一々樽や罐に詰めて輸送する不經濟を除くために、非常な遠距離にある市場に、ポンプで石油を送る輸送管の敷設といふ、とても素晴らしい大事業を敢行し、石油輸送車、石油輸送船を造つて、輸送上に革命的躍進政策をとつたことにあるといはれてゐる。

そして尙彼は、原油の副産物を餘す所なく利用することを忘れなかつた。西洋蠟燭、ワセリンその他二百餘種に及ぶスタンダード會社の製品は、皆悉くそれである。彼は一時鐵鑛業に莫大な資本を投下し、全米を驚かせたことがある。それは、石油そのものとは何等關係はなかつたけれども、世界製鐵界に王者の如く君臨してゐるピツバーグ大製鐵所の所有者カーネーギーが、王者的專制態度を以て鐵價の下落を阻

止し、國內のみでなく世界各國の多くの需用者を苦しめてゐた構に憤慨し、カーネーギーの鼻ツ柱を叩き折り、その專制的振舞に一大痛棒を喰はせ、鐵價を正當な價格に引下げやうといふのが、抑もの動機であつた。そこで彼は米國西北部にある大鉄鑛山を買収し、其鑛石を輸送するため多數の大汽船を建造し、グレート・レーキの湖上に浮べ、ドシ／＼鑛石を送り出した、それが爲めに鐵價はドシ／＼下落し、カーネーギーがいくら頑張つても騒いでも、如何ともすることが出來ず、とう／＼腹なるカーネーギーをして兜を脱がせてしまつた。カーネーギーとしては、鐵價の下落は、自分の會社の利益の上に莫大なる影響があつたので、之れを阻止したのは、營業上必要の態度であつたけれども、その餘りに自衛に專にして、全世界の人類の生活を脅やかすに冷淡であつた事が、彼ロツクフェラーをして激憤せしめたのであつた。

斯うした彼の人道的行動は、全米國民は勿論、世界各國の好感と賞讃とを得て、彼の石油業を彌が上にも發展させる結果を來たした。彼の富は大戰前既二十億弗を突破し、カーネーギーに次ぐ世界第二の大富豪となつてゐた。

電氣が非常の發達をした爲めに、石油の需用は大激減を、たし、石油ランプは電燈

の爲めにドシ／＼驅逐され、一時は流石の石油王ロックフェラーも、大打撃を蒙らざるを得なかつた。併し彼の時代は、また新たな形を以て現はれて来た。それは自動車航空機等の異常なる發達であつた。これらの燃料は石油を更に特製したガソリンである。また海軍が石炭のみでなく、石油を燃料として使用するに至つた傾向も、彼の石油業をして、再び得意の場面に活躍せしむるに至らしめた。

かくて功成り名遂げた彼は、五十六歳の時にスタンダート會社を隠退し、その後は専ら世界的慈善事業、文化事業、文化事業、社會事業に、その有り餘る資本を投下し、人類の福祉増進に多大の貢献を齎らしつゝある。世界の學界の爲めに盡さんとするロックフェラー研究所、カーネギーの研究所と共に、世界の二大研究所であり、世界の學者は、これによつてどれだけの恩恵を蒙つてゐるか分らない。彼がそれらの人類愛的事業に投じた金は、米國始め世界に互つて三億弗を下るまいと言はれてゐる。

大正十二年九月一日の關東大震災に、東京帝國大學の醫學化學研究室が、藥品の發火爆發によつて、有らゆる研究材料を全部灰燼に歸し、東大醫學化學復活は、今後数十年しなければ不可能であらうとまでいはれ、日本醫學界の大打撃となつたとき、彼は日

本醫學救濟の爲め、北京のロックフェラー研究所を日本の醫學界の爲めに開放提供し、且つその研究費、實驗費、留學費、生活費等、それに要する一切の費用までも負擔して呉れた。日本の醫學化學はこれが爲めに漸やく救はれることが出来た。

嗚呼、ジョン・ダビイソン・ロツクフェラー、彼は世界の石油王であり、大富豪であり、大實業家であると共に、人類文化の擁護者でなければならぬ。

最後に一言して置かなければならないのは、世の立志傳的人物の多くと同様、彼も亦敬虔なる信仰家であつた事である。丁度彼が十八歳の時であつた。彼が日曜日に精神の慰安を求めてゐた教會が、僅か二千弗の借金が拂へない爲めに、債權者の手によつて處分されなければならぬ運命に陥つた。或日曜日の説教が終つてから、牧師はその悲しむべき一切の事情を、信者の前に發表した。併し信者の中一人として之が救濟について發言する者はなかつた。只黙然として聞いてゐるのみで、果ては一人立ち二人立ちしてゾロ／＼歸りかけた。

彼は奮然として、教會の入口に駆け出し、歸らうとする信者を遮り、吾々の靈の慰安所たる此教會が、今や僅か二千弗の借金返済不能の爲め、一債權者の爲めに蹂躪さ

れんとして居るではないか、然るに、それに對して諸君の中一人として之が救済について發言する者なく、黙々として立ち去らんとするは何事であるか、諸君の魂に慰安を與ふる靈場を、諸君は二千弗を以て賣り渡さんとするか、果して然らば、諸君の靈、諸君の魂は、二千弗に値しないと云はねばならない、たつた二千弗にも値しない諸君の魂、諸君一人の魂は何程に値するか、私は諸君の見らるゝ通り一個黄口の青年に過ぎないけれども、吾々の魂の競賣されんとする此重大事件に對しては、黙視することが出来ない。私は何とかしても諸君に訴へて教會の遭難、吾々の魂の競賣といふ大侮辱の救はねばならない。諸君今直ちに私の發議に賛成して下さい、そして直ちに寄附の金額を申出て下さい。諸君の中若し一人でも、不賛成であるといふ者があつたら、それは自らの魂への叛逆であり、神に對する叛逆者であると、熱烈そのものゝ如き大雄辯を振つた。即座に一千弗ばかりの寄附が集つた。彼はその後日毎演説を繰返し、遂に二千弗の寄附金を集むることに成功し、教會の借金を拂ひ、借金の證文は教會員一同の面前で灰にしにしてしまつた。

體驗から得た成功秘訣

一、幸運は決して急いではならない。幸運は必ず來る時が來なければ來ない。幸運が來れば即ち成功する。幸運を急ぐから職業を度々代へて、遂ひには何處にも目的を達し得ないことになる。幸運は必ず急がない人へのみ來るものである。

二、より廣いより確實な途を選べ、そしてその途が眞個に正しい途であるか否かを研究せよ。廣くとも確實であつても、眞個に正しくない途であつたら、決して成功するものでない。

三、事業を始める前に、先づ自分の志す成功に向つて、その事業が眞直ぐに明らかな途であるか何うかを確かめよ。

四、決して仕事を變へるな、目的を變更するな、成功するまで同へ處を掘つて行け、一つの仕事に執着せよ、多少の失敗蹉跌があつても失望するな、元氣を挫くな、勇氣を失ふな。進め、進め、驀然に進め。

五、奇や投機を決して考へるな。

- 六、小成に安んぜぬならば、小さい目的に自分の努力を空費してはならぬ。
- 七、富を得るには、金持になるには、貯蓄せよ、節儉を行へ、如何なる場合も、どんなに苦しくとも、何程かを別にして貯蓄しておけ、眞の富はそれから生ずる、事業の資本は決して大なる富を作るものではない。
- 八、資本は如何に大きくとも、事業の失敗と共に無くなるけれども、別にした貯蓄は決して無くならぬ。
- 九、事業の資本については、蹉跌の場合も恢復出来るだけの準備をしておけ、それは信用でよい、何故かなら、蹉跌は如何なる人如何なる事業にも必ず絶対に來るものだからである。
- 十、事業界に於ける成功には、奇蹟といふものは絶対にない。
- 十一、永遠の成功、贏ち得るためには、自分自身を先づ信頼出来る人にする事である。そこに滾々として酌めども盡きない無限の資本があり、そこに努力への報酬が存する。
- 十二、商賣は自然に展開する機会を注視せよ、そしてその機を決して逃してはならぬ。

十三、金錢の奴隷となるな、金錢を己れの奴隷にして驅使せよ。金錢の奴隷となるものに大なる成功は來らぬ。何故か、それは金錢といふ死物に驅使され束縛されるからである。

十四、事業は自分の爲めより、先づ世の爲め人の爲めに行ふことに出發せよ。より世の爲めより人の爲めになることによつて、より大なる報酬が來る、自分の爲めにのみする事業は成功せぬ、大なる報酬は來ない。

平凡な一機械技師で爆發藥の發明
其富 一千八百萬

7 ノーベル賞金 創設者ノーベル (瑞典)

成功の總量

二十二歳から六十三歳までの二十一年間に得たる成功の總量は、ニトログリセリンを基調とするダイナマイト、ニトロコツトン、プラスチックセラチン、紐狀火藥等の爆發藥發明の完成、これによりて得たる名譽とそれら爆發藥の製造によりて得たる一

千八百萬圓の巨富と、その巨富全部を投げ出して有名なるノーベル賞金の創設と、それら一切によりて得たる永遠不朽の名譽である。

如何にして成功したか

専門的知識をもたない人には、ニトログリセリンとはどんなものであるか知らない人が多からう、またダイナマイトにせよ、ニトロコックトンにせよ、プラスチックゼラチンにせよ、紐状火薬にせよ、どうして造るか、何を原料として作られるか、恐らくは知らない人の方が多からう。併し爆發薬の偉力がどんなものであるかを知らぬ人はあるまい。何萬噸の超弩級戦艦でも爆薬に遭つては一瞬間に破壊されてしまふ。人力では何うすることも出来ない大岩石でも、爆發薬の前には鐵槌下の煎餅ほどの抵抗力もない。その驚くべく恐るべき爆發薬が、近世産業に齎らした進歩と利益、鐵道港灣その他いろいろの文明的施設工事に齎らした恩恵と利益、随つて世界人類の文明生活の向上進歩と福利増進に貢献したことは、實に無限である。尤も一面には之が戦争の如き大慘劇に利用せらるゝ結果、酸鼻の歴史を作つてはゐるが、それが爲めに爆發薬

が人類幸福の上に齎らした大功績を傷づくるものではない。而もこの偉大なる爆發薬が、不世出の大學者大化學者の手によつて發明されたものでなく、而も化學には門外漢たる一個微にたる瑞典機械技師アルフレッド・ノーベルの手によつて發明されたものであると聞いては、何人かその意外なるに驚かぬものがあらう。

アルフレッド・バアナード・ノーベル、これが爆薬王と世に稱へられ、ノーベル賞によつて世界に名高い爆薬發明者たるノーベルの名である。彼は今から九十二年前の一八三三年北歐瑞典の首都ストックホルムに生れた。

彼の父は機械技師で、同市の或る會社に勤めてゐた。父はさうした月給生活者ではあつたが、會社には可なり重用されてゐたので、生活は中等の生活で、彼を教育するに困ることはなかつた。その點は彼として幸福であつた。

彼は中學卒業後露都のペテルスブルグ大學の工科に入學し、父の意に従つて機械學を研究した。父は蛙の子は蛙といふ考へでもなかつたであらうが、彼を自分と同様機械技師にする考へであつた。彼は比較的柔順な性質だつたし、機械學が全然嫌いでもなかつたので、父の言ふまゝに機械技師たるべく學んだのであつた。ところが彼は、

學で機械學を修めながら、機械技師たるには化學の素養の必要なことを感じ、化學書を繙いたが、或る時ニトログリセリンが爆發性を持つに違ひない事を考へた。そして其考へは次第に彼を爆發藥研究に導いていつた。彼は巨大な岩石や土壤を爆破する火藥が發明されたならば、いろいろの困難な施設工事にどれだけ恩恵を與へるか知れないと思つた。そしてニトログリセリン 爆發性がありさうな事が腦裡に芽生えてからは、爆發藥の發明は十分の可能性あることを信じた。一八五五年、彼は二十二歳でベテルスブルグ工科大学を卒業し、父の許に歸つて機械技師となつたが、彼の心は常に爆發藥の研究に振り向いてゐた。

ところがその頃佛蘭西陸軍のピクトー將軍は、銃丸の彈着距離と速度を増加するには、従來の火藥以上強烈な爆發藥を發明せねばならぬといふ見地から、新爆發藥の研究に取りかゝつたといふことが報道された。この報道はノーベルに對して電撃の如き大刺戟を與へた。彼は自分の研究自分の發明が、ピクトー將軍に横取りされたやうな感じがした。彼はもう躊躇してゐられなくなつた。彼はピクトー將軍に先んじて此發明を完成しなければならぬと決心した。

彼は兩親に考へを打あけて許しを請ふたが、父も母も最初は賛成しなかつた。「お前は大學まで行つて機械學を専門に修め、現に機械技師といふ職があり、機械の方の研究なら兎に角、爆發藥といへば化學だ、専門違ひだから、成功の程も疑はしいから、まあそんな事は思ひ止まつたらどうか」といつた具合であつたが、彼は何と言つてもさかなかつたので、兩親も、それほど熱心ならばといふので彼の欲するまゝに任せることにした。彼は早速父に願つて、母屋から少し離れた庭内に研究室を建て、もらつた。母室の一室を研究室に充て、もいゝわけだが、何しろ爆發藥の研究で、いつ何時研究室中に藥品が爆發しないとも限らぬ、さういふ際に母屋を爆破する危険があつたから、研究室として別に建てたわけであつた。研究室といへば大したものゝ様だけれど、實は物置小屋見たいな、極めて貧弱なバラック建のものに過ぎなかつた。

その小やかな研究室に立籠つたノーベルの終日終夜の友は硝酸や硫酸や強硫酸などの、異臭鼻をつく激藥であつた。そして彼の心を撈はり慰めて呉れるものも、矢張りそれらの激藥よりなかつた。

最初の彼は、爆發藥の發明を、幾分安く見くびつてゐた傾きがあつた。さう簡單容

易といふほどには行かぬにしても、一年以内には大體完成するに違ひないと思つてゐた。ところが半年と過ぎ一年と研究を重ねても、完成どころか、彼の期待は悉く裏切られ、何等の曙光も認めることが出来なかつた。彼の被服は硝酸や硫酸で、焼け焦げや穴だらけになつた。彼の手や顔には、それらの激薬の飛沫で、火傷の疵がいくつも出来た。殊に手は火傷の爲めに繃帯の除れることはなかつた。一年経つても何等の光りも認むることの出来なかつた。厳肅なる事實によつて、彼は爆發薬の研究が、實に容易ならぬ大業であることに始めて覺醒したのであつた。併し彼は、自分の研究が、不可能の方に進んで居るのではなくて、發明の殿堂へ向つて、遅々ではあるが一步步進みつゝあるのだといふことは信じて疑はなかつた。

如何なる發明家も、その完成までの研究苦心中に經驗するものは、周囲の嘲笑である。完成がおくれるればおくれるほど親兄弟親戚からまでも嘲笑されるのが、古今幾多の發明家の常である。ノーベルも亦、矢張りそれを免れない發明家の一人であつた。最初彼に共鳴し、彼の研究に心から賛成した人たちも、一年経つても二年経つても、發明のハの字にも達しないのを見ては、嘲笑冷笑を浴せた。『柄にもない事はやめて、

おとなしく機械技師で會社にでも勤める方がいゝのだ。彼奴は下手の横好きだ、何年経つたところで所詮失敗より他にあるものか』といった言葉は、彼の兩親に向つてさへ發せられた。親戚などは親戚であるだけに遠慮がない、それだけ露骨に彼の兩親に彼を嘲笑した事を言つた。兩親としては、それを聞かされるのが何より辛かつた。母は時折、所詮成功の見込みのない事なら、もう好加減にして止めたら何うかとま、彼の耳に投込んだのであつた。しかし彼は誰が何と言つて罵り嘲つても、周囲の人々の毀譽褒貶には耳を藉さなかつた。彼は、そんな事の爲めに費す心を、研究の方に費やした。

北國に生れ育つた人は、常に寒氣や雪やその他彼等の生存生活を脅かす自然の力と不斷の闘ひを續けてゐるから、南國人の様に快活な温かみには少ないが、意志の強いことは、とても南國人の及ぶ所でない。警戒し用心しつゝ、注意深く進んで行くので、南國人の如き壯快味はないが、その黙々として目的の一途に不斷の努力を續けて行くところ、は、眞に百折不撓であり、萬難不屈である。彼も亦その北國人特有の寡言沈着、黙々として不屈不撓、鐵の如き石の如き意志を以て爆發の研究、魂ぞ打込んだ。寢食

を忘れてといふ言葉は、彼に最も當筈つた言葉であつた。彼は寝ることを忘れ、朝になつたのを日が暮れるのかと間違へ、母に笑はれることが屢々であつた。食事時になつても、母が呼びに行ななければ、彼は終日でも食事を忘れた。三度も四度も行つて急ぎ立てなければ、彼は研究室から出て來なかつた。食事中母が何かと話しかけても、彼の返事は多く頓珍漢であつた。彼の方から話しかけるときは、世間の事でもなければ家庭の事もなく、一々研究が完成したら、世界の人類は如何にその偉大なる恩恵を蒙るか、人類の文明的建設事業は如何に進展するか知れないといふ事に關することばかりであつた。

併し彼の研究は、依然として光明的な結果を齎らさなかつた。いくら骨を刻み肉を削る辛苦を重ねても爆發しさうな幻すらも現はれなかつた。二年経つた、三年経つた、四年も過ぎ、五年の歳月は、彼の研究や苦心と無關心に流れ去つた。それでも矢張り何等得る所はなかつた。

かうなると親戚やその他のおせつかいばかりでなく、彼にとつては唯一の理解者であり同情者であり、擁護者であつて呉れべき両親さへも、露骨に激烈に反對して來た。

外間の毀譽褒貶に耳を藉さない彼も、現在両親に激烈な反對をされるやうになつては、いくら何でも煩悶せざるを得なかつた。さうでなくてさへも、暗く蔭影の如くなりつゝなつた彼の心は、更に一層暗くならざるを得なかつた。併し更に考へを別すれば、いくら両親が激烈に反對して研究放擲を主張するからといつて、それに屈伏するやうでは、どんな事にせよ到底目的を達することは出來ない。今自分は五年間の研究に得た所のものは何もないけれども、曙光は既に地平線に近づいてゐるのかも知れない。もう一息といふ所まで漕ぎつけてゐるのかも知れない。彼はさう考へると何人がどんな迫害を以て妨害しようと反對しようと、研究を放擲する氣にはなれなかつた。『遣る！ 遣る！ 飽くまで研究を續ける。誰が何と云つても構はぬ。僅かの期間に完成したいと、功を急ぐから、煩悶が起こつたり、失望に傾いたりするのだ。一生研究を續け、生の最後の日に完成する悠々たる覺悟を以てやれば、必ず成功するに違ひない。嗚呼、おれは餘り功を急ぎ過ぎてゐたのだ』

彼は斯う心に叫び決心した。そして依然研究室に閉ぢ籠り、黙々石の如く壁の如く研究を續けた。

彼は、五年間幾百回となくニトログリセリンの爆発を試み、悉くそれが失敗に終つたにも拘はらず、彼はニトログリセリン以外のものに研究を進める氣にはなれなかつた。彼は依然としてニトログリセリンに執着した。けれども試験の結果は、依然として失敗の連続であつた。茲において彼は不圖考へた。

「ニトログリセリンは爆発性をもつてゐるけれども、これを爆発に導く導火線が不完全なためではないだらうか、導火線をもつと研究したら、必らずニトログリセリンを爆発させることが出来るに違ひなからう」

斯う考へた彼は、今度は導火線の研究に没頭し、いろいろ薬品を變へた雷管を作つては試して見た。が、矢張り彼の期待を失望させる結果ばかりが彼の前に示された。最後に彼は硫酸水銀を装填した雷管を作つて試験して見た。彼はそれに火をつけて、雷管の引火作用がどうだらうかと思ふ間もあらず、轟然たる大音響と共にニトログリセリンは爆発し、卓子も戸柵もそこらの器物も悉く跳ね飛ばし、天井は吹き飛ばされ、爆破された研究室は濛々たる煙に満たされ、その煙は吹き抜けになつた屋根から、火災の様に立ち昇つた。彼は無論爆発と同時に打倒れ氣絶したのであつた。

その時ならぬ大爆音に、母やその他家人は吃驚して戸外に飛び出した。近所の人たちも驚いて屋外に飛び出して見た。するとノーベルの研究室の屋根や窓から白煙濛々と溢れ出て、爆破されて吹き飛ばされたいろいろの物が、そこらちう散亂し、無残な光景を呈し、ノーベルの研究室に驚くべき大事變が突發したことを語つてゐた。母はもう死んでしまつたものと思つた。するとノーベルは顔も手も血塗みれになつてノックと這ひ出して來た。母やその他の人たちは直ぐに駆け寄つた。負傷したノーベルは突如立ち上つて

「愉快々々、成功々々、爆薬成功……」

連呼しつゝ、踊り廻つた。血塗れになつた彼の顔には無限の歡喜が溢れてゐた。そして彼は母と言はず誰といはず、相手の見さかひもなく抱きついた。彼の胸中や察すべしである。

彼は斯うして遂に爆発薬ダイナマイトの發明に成功した。而もそれは、彼が研究室に立籠つて六年目であつた。不屈不撓の鐵石心を以て六年間、世間のあらゆる嘲笑と數百回の失敗とに堪へ忍んだ結果の賜であつた。

彼は直ちに瑞典政府の特許を受け、製造販賣を始めた。それは一八六四年であつた。此報一度び傳はるや、自國內ばかりでなく、英、佛、獨、米、澳、露その外、世界各国からの注文は、實に莫大なるものであつた。

次に彼はニトログリセリンに硅藻土又は木炭末を混じて小銃彈の火薬に使用し、射距離を著るしく増加することに成功し、佛、西ビクトー將軍の先鞭をつけてしまつた。次に彼はニトログリセリンをより強力なる爆發性を有するニトロコソットの形に導くことに成功し、これによつて強力爆藥プラスチックセラチンの發明を完成し、一八七五年政府の特許を得た。このプラスチックセラチンはダイナマイトより遙かに強度な爆藥である。

その翌々年即一八七七年、彼は更に第四の發明に成功した。それはニトログリセリンとニトロコソットを同量に混ぜた無煙火薬であつた。そして彼はこの無煙火薬から紐狀火薬即ちフルダイを發明した。

彼は斯くてダイナマイトを始め、數種の爆發藥の發明に成功し、世界の火薬史上に不朽の名を遺すに至つたのであるが、彼はそれらの爆藥に對しては常に改良研究を加

へ、益々完全なものにすることを忘れなかつた。

そして彼は爆藥製造所をスコットランドのアルマイルに設け、その需用は年々増加し、遂に一千八百萬圓の富豪となり、世に爆藥王と呼ばれるに至つた。

世界の激賞は受ける、巨萬の富は出来る、精神的にも物質的にも充分に酬ひられた彼としては、こんな幸福なことはない筈である。一機械技師を以て終るべかり、彼が、六年間削肉削骨の艱難に打勝つた結果の報酬と思へば、功成り名遂げて富豪となつた彼の晩年、何等の不平不満もなく煩悶懊惱もない筈でなければならぬ。ところが彼を晩年にして苦しめることが出来あがつた。それは彼の發明した爆發藥が、彼が使用の目的とした方面に使はれるばかりでなく、彼が夢想だもしなかつた意外の悲しむべき方面に盛んに使用される様になつた事である。

彼が最初の動機は、人類が自然を征服して文化建設の事業に貢献せんとするにあつた。鑛山やトンネルや石材切り出し港灣の構築、その他あらゆる文化的平和的の事業、人類の文明的福利増進に資せんとするのが、最初の彼の目的であり最後の彼の目的であつた。然るに、彼の發明した爆藥は、それらにも偉大なる貢獻をして居ること勿論

であるが、一方これが戦争に使用されて、戦争の惨禍を無限に拡大し深刻にした。この彼の発明の目的に反した結果は、彼の心をして晩年になつて非常に苦しめた。自分が斯かる恐ろしい驚くべき偉力を有する爆発薬を發明しなかつたない、戦争の惨禍はこれほどまでに拡大され増量されはしなかつたであらうと思へば、彼の心はその戦争惨劇の責任者であるかの如く感ぜられた。爆薬の發明が近代戦争の惨禍を驚くべく擴大深刻ならしめた事は事實である。しかしそれは爆薬そのもの、罪でもなければ、爆薬發明者の罪でもない、況やノーベルの如く平和的文化的建設事業に貢献せんとする目的のみにおいて發明したものにあつては、何等その責任を有するものでない。戦争に爆薬を使用するの罪は、使用するもの、罪であり、戦争の罪であり、戦争の如き惨虐を敢てするほどに野蠻性を脱し得ない人類そのもの、罪である。併し彼ノーベルは、さうは思つても、兎にも角にも自分の發明した爆薬が使用されることによつて戦争の惨虐性が驚くべく深められたといふ事實に對しては、絶對無責任を思ふわけには行かなかつた。そこに彼の眞面目があり、彼の純眞さがあり、そこに平和愛好の神の如き彼が見出される。

彼は遂にこれを悲しむの餘り、死前數日、全財産一千八百萬圓を投げ出してノーベル財團を組織させ、その利息によつて國の如何人種の如何を論せず(一)物理、(二)化學、(三)醫學又は生理學、(四)文學、(五)軍備の廢止縮小又は世界同胞主義世界平和主義等に特に功勞あつた人々に對し、各部一人八萬圓宛の賞金を贈ることにした。各部一人宛であるから、毎年五人は受賞し得るわけである。有名なるノーベル賞といふのは即ちこれである。さうして彼は一八九六年十二月十日、サン・レモの別荘において、六十三歳を一期として眠るが如き大往生を遂げたのであつた。

ノーベル賞金は一九〇一年から實施され、毎年審査選奨され、今年は二十五年目である。受賞者の審査権は物理化學、醫學又は生理學の科學賞と文學賞の四種は、瑞典のアカデミーが有し、平和賞だけは諾威の議會が審査決定する規定になつてゐる。

體驗から得た成功秘訣

一、發明は先づその發明が人類の平和的文化的福利増進にどれだけの價值あるものかを考へなければならぬ。

- 二、その發明が齎らす人類の幸福と不幸とを比較して 不幸が多いか幸福と不幸とが相半ばするものは、發明せぬがよい。
- 三、發明の成功は、只鐵石の如き強固なる意志と不斷の研究心である。
- 四、心に浮んだことは、どんな小さな事でも必ず數回乃至數十回實驗を試みる必要である。發明の成功は多く期待してゐた事よりは期待してゐなかつた偶然の些事に光明を發見する場合が多い。
- 五、發明は、完成後も常に改良進歩させることを忘れてはならぬ。
- 七、發明は急いでではない。
- 八、金錢や名譽や、さういつた發明以外のものを最初から目的としては大發明は出來ない。
- 九、周圍や世間の毀譽褒貶に煩はされてはならぬ。
- 十、より優れたる發明にはより大なる報酬が求めずして與へられる。

煉瓦工の一貧兒から發奮して世界最大の
デパートメントストアを創設した

8 デパートメントストア王ワナメーカー(米國)

成功の總量

一八三八年七月十一日、フィラデルフィア市の貧しい煉瓦工の總領の甚六に生れ、發奮努力、一九二二年死に至る八十六歳までに築き上げた彼の成功の總量は、商店經營上の新制度デパートメントストアの創始と、世界最大のデパートメントストアと、數億弗の巨富と、世界的大實業家たる地位と名聲と實力と、ホワード及びペンシルヴァニア二大學の名譽法學博士の名譽ある學位の贈與と、それら一切によりて得たるあらゆる名譽とのそれである。

如何にして成功したか

デパートメントストア、之を日本語に譯すれば『百貨店』とか『雜貨店』と云ふべきものだが、この商店經營上の新制度が、如何に近代民衆の要求に適應したものは、今更言ふまでもなく、讀者は日本に於ける三越、白木屋其他のデパートメントストアによつて疾くに御承知の事である。尤も日本には今や三越、白木屋、松屋、松坂屋等幾多のデパートメントストアが出来たが、これらを歐米のそれに比ぶれば、まだ小規模なお話にならぬもので、殊に米國のジョン・ワナメーカーのデパートメントストアと云へば、飛行機までも陳列して賣つてゐるといふ素晴らしいもので、三越や白木屋などは、とても足許にも及ばない世界第一のデパートメントストアである。而もこの、商店經營上の新制度たるデパートメントストアが、フィラデルフィア市の其日暮しの貧しい煉瓦工の小作、而も碌すつぼう教育も受けない一貧兒によつて創始發明されたものだと聞いては、何人かその意外なるに驚かぬものがあらう。いでや諸君、彼れが如何に發奮し、如何に努力奮闘して、この偉大なる世界的大成功を贏ち得たかを物語らう。

一八三八年、新緑萌えて天帝の熱手伸び人々を熱暑苦に喘がせる七月の十一日 米

國フィアデルフィア市の貧しい煉瓦工の家に始めて一人の子供が生れた。これが本篇の主人公たるジョン・ワナメーカーである。彼のあとには引續いて六人の弟妹が生れた。彼はまさに甚六と呼べるべき總領であつた。彼の生地については、フィラデルフィア市であるといふ人と、フィラデルフィア州の南部地方の或る僻村に生れたといふ人があるが、村であらうと市であらうと、彼の價値には殆ど何等の關係もないのであるから、茲にはフィラデルフィア市としておく。只だ彼の祖先はペンシルヴァニアの草分けをしたウイリアム・ペンと時代を同うして、米國に移住して來た佛蘭西舊教徒の一人であつたこと、即ちわがジョン・ワナメーカーは佛蘭西人の血をひいてゐることだけは知つておく必要がある。何故かなら、彼の性格には隔世遺傳的にこの祖先の佛蘭西人的色彩が極めて濃厚に流れてゐるからである。

貧しい家庭に生れたもの、一般に共通した不幸は、學校教育を碌に受けられない嘆きであるが、彼も亦世の常の貧兒と同様に、小學校さへも碌に受けられなかつた。そして煉瓦の土練りや、型取りや、運搬や、その他父の雜役に朝から晩までコキ使はれた。弟たちは六人もあつたけれど、幼い彼等にはそんな手助けは無論出来なかつたの

で、父の助手としての勞働は彼一人が背負はなければならなかつた。

併し彼は決してそれに不平を言はなかつた。不満面一つすることはなかつた。父も母も彼の柔順さと骨惜しみをせず手助けをする孝心深さには、涙ぐましい目で見られないではゐられなかつた。

丁度彼が十三歳の最終日、即ちクリスマスの前日であつた。彼は両親の許しを得てファイアデルファイア市の大通りへ出かけた。其日は前夜からの雪降りで、四五寸も積つてゐた。彼にはその寒さを防ぐべき外套も無論なかつた、襟巻も手袋もなかつた。只だ古ぼけた鍔のある帽子が彼の頭の寒さを降り來る雪を防ぐだけで、手先の寒さを防いで呉れるものは彼のポケットよりなかつた。大通りは賑かであつた。店といふ店は裝飾を競ひ、より多くのお客を吸ひ集せようと努力してゐた。彼の貧弱な見すばらしい服装は大通りの輝きわたつた店々にくらべて、餘りにかけはなれたコントラストであつた。

彼は寒さも忘れ、兩手は左右のポケットに深く突込み店から店を一軒一軒覗いて行つた。彼のポケットには、平生父の手助けをして時折貰つた價かな小使錢を溜めた。

少しばかりの金があつた。彼はそれで母へのクリスマスの贈物を買はうといふのであつた。ポケットに深く突込んだ彼の手には確かりとその貴重な金が握りしめられてあつた。

彼は途或る貴金屬店の店先に紅紫とりくに飾られた寶石や指環や時計に吸ひ付けられるやうに惹付けられた。彼は最初目についた指環を買つた。それをポケットにして尙ほ珍らしげに四邊を見廻はしてゐると、母がかねてから欲しがつてゐた髪飾りのピンが目についた。彼はこれこそ母を喜ばすべき好個の贈物だと思つたので、

「番頭さん、今買った指環と此へヤピンと取り換へて貰ふわけにはいかないでせうか？」ときいた。

「それはいけません。一旦賣つてしまつたものを取り換へる譯にはいけません。ピンが欲しかつたら別にピンの代金をお拂ひなさい。」番頭はにべもなく拒絶した。といふのはへヤピンは新流行品で指環の方は店曝しのもてあまし物だつた。ピンの方はいくらでも賣れるが、指環の方は背負込みになつてしまふか分らないものであつた。番頭が彼の要求を拒絶した理由はそこにあつた。

彼は悄然として其店を出た。そして彼はトボくと我家に歸る途すがら思つた。

「何といふ思ひ遣りのない店だらう。一旦買った物でも、他にそれ以上氣に入つたものがあつて、それと取り換へたいと客が希望したときに、それを拒絶するのは、お客は氣持のわるい不満な買物をしなければならぬ。人は誰でも、これが良いと思つても、それ以上氣に入つたものを發見することがある。それが例令お客の輕卒であつたとしても、さういふ時に、取換へて貰へないとしたら、これほど不愉快なものはない。不愉快に買物をさせる商店——それが商店としての満足な行爲であらうか？ 否、どんなお客に對しても不平不満を抱かせない店、不正な品物を絶対に取扱はない店、どんな人でも安心して氣持よく買物の出来る店、氣に入らぬ品はいつ何時でも取換へる店、それでなければ眞實に顧客に満足を與へる商店ではない。自分は商人とならう、そしてさういふ立派な商店を経営しよう！」

世界第一の理想的商店と稱せらるゝ彼のデパートメントストアの新制度は、既に此時に芽生へたのであつた。

そこで彼はクリスマスが済むと直ぐに兩親の許しを得てファイラデルフィア市のマー

ケット街にあるトロットマン・ヘイスといふ出版會社の走り小僧に備はれ、週給一弗二十五仙、約二圓五拾錢を貰つた。これが彼が自分の労働によつて得た最初の収入であつた。

間もなく彼の父はとても遣り切れないといふので、インデアナ州に移住したが、インデアナ州の鳥も矢張り白くはなかつた。長年住み馴れた土地でさへ、うまく行かないのが、知らぬ土地に行つたからといつて、さう濡手で粟を掴むやうなボロい事のあるべき道理のないことを悟つて、再びファイラデルフィア市に舞ひ戻つて來た。

彼も無論、緒だつたので、今度はパークレイ街のタワーホール商會といふ店に小職員として雇はれた。この店は退職陸軍大佐ベンネットといふ人の經營であつたが、主人は軍人上りだけに、軍隊式に厳格な所もあつたが、極めて物の分つた、理解も同情もある、人を見る明のある人であつた。この時は週給一弗五十仙で、出版會社に居た時より二十五仙高給であつた。

彼は、自分が寝ても覺ても忘られない、過ぎしクリスマスの前日の買物の事から感得した『お客に不満を抱かせない店』を此主人の店は實現すべく主人に説いて、氣に

入らぬ品は何時でも取換へることにして、叮嚀に親切に、何處までも顧客の利益を本位とした遣り方をした。他の店員は矢張り、従来の習慣から、どうしてもワナメーカーほど、それに徹底することが出来なかつたけれども、彼はお客を待遇するに彼の能ふ全力を傾けた。ジョンの名は早くもお客の頭に泌み込んで、一度買物に来たお客は二度も三度もやつて来た、そしてジョンの手から買ふことを樂みのやうにして来た。若し彼の姿が店に見えないと「ジョンは居ませんか」と聞くほどに、彼の信用は顧客間に高まり愛せられた。主人のペンネットは、彼が將來偉大なる商人になるべき素質あることを早くも看破し、ジョンに對する待遇は他の店員とは著るしく違つてゐた。そしてジョンの自慢と彼の將來偉大なる商人になることを人に語つてゐた。後にはタワーホール商會の主人の自慢の十八番といへばジョンの自慢話をする事だと顧客間に言はれたほどであつた。

彼は瘦せこけた色の青白いヒヨロ／＼した體格の持主であつたので、ペンネット大佐は、彼の健康を心配し、醫師に健康診断をしてもらつたが、醫師もペンネット大佐と同様の診断を下した。そこで主人と醫師の勧めに従つてミネソタ地方へ轉地療養した。その費用は全部主人のペンネット大佐が出して呉れた。半歳ばかりの療養は、彼の健康をすつかり恢復させたので、フィラデルフィア市に戻り、タワーホール商會の店に愛嬌と誠實な商ひ振りを再び顧客に見せるやうになつた。

彼は日本の若い人たちにあり勝たぬ無神論の宗徒ではなかつた。宗教なんか老人になつてからでなければ要らないものだといふ様な宗教心の稀薄な男ではなかつた。多忙な店務に従事しながらも、日曜日／＼は教會に通つて神の前にぬかづき、靈の洗濯をするのが彼の日曜日における何よりも重大なる爲すべき事であつた。轉地療養から歸つてからは、フィラデルフィア市の基督教青年會の書記となつて、教會と信者の爲めに盡力する所多大なるもので、彼はその方面においても、多くの尊敬と信認とが與へられた。

一八六一年即ち彼が二十二歳の時、平生から給料の中から勤儉貯蓄をしてゐた金が一千九百弗(約三千八百圓)になつたので、彼は彼の妻の弟のナサン・プランと共同して、フィラデルフィア市の第五街のマーケット通り六番地にワナメーカー・プラン

商會といふ小さな小賣店を開いて獨立した。それは丁度一八六一年の四月八日、日曜日の朝の六時で、時や恰も奴隸解放問題に起因した南北戦争の真最中、南軍のブルガード將軍が、北軍のサムター城を包圍總攻撃をしようとする九十四時間前であつた。そしてこのワナメーカー・ブラウン商會となつた家は、元ワシントンの住んだことのある家で、ロバート・モリスだの、ロード・ホーエだの、ベネディクト・アーノルドだのといつた當時の多くの名士たちが、常に出入した由緒ある歴史的光榮ある家であつた。米國獨立の殊勳者ワシントンの住んださういふ由緒ある歴史的光榮をもつた家に、彼の商戰の獨立旗が翻へつたといふことは、何といふ奇しき因縁であらう。彼の將來に於ける大成功は、既に此時のこの奇しき因縁に占はれてゐたものゝやうに思はれるではないか。

開業當日の賣上高は僅かに二十四弗六十七仙しかなかつた。そして其年の總賣上高は二萬四千三百六十七弗であつた。一年間の賣上高としては、決して驚くべきものではないことは勿論であるが、資金僅か一千九百弗で、これだけの賣上成績を得たのは、決して小さいものではない、まさに異常の成績といはなければならぬ。彼は店頭にて

ヨコナンと坐つて、這入つて來るお客に賣るばかりの怠けた商人ではなかつた。彼は品物の配達は自分で手押車で熱心に配達して歩いた。

南北戦争が益々酷くなるや、彼は軍人となつて出征を志願したが、健康の點で採用されなかつた。といつて彼の人道心と愛國の純情は、そのまゝにして止まらしめなかつた。彼は青年會の同志に語つて、赤十字軍を組織し、南北兩軍の傷病者を救護した。彼が出征軍人を志願して不合格となつた理由は、彼が患つてゐた肺結核であつた。彼の蒼白な顔色と、ヒヨロ／＼した瘦せこけた體格とは、誰が目にも軍人として戰場の激烈な戰鬥動作に堪ゆべくは思はれなかつた。醫師も只管彼に靜養を勧めてやまなかつた。そして彼は恐らく長生は出來ないだらうと豫言した。けれども彼が自己のすべてを忘れて傷病者救護に働いた結果は、肺結核から彼をすつかり解放してしまつた。そして彼の長生不能を豫言した醫師よりも、ウンとすつと長生した。

彼が傷病者救護事業に盡してゐる戦時中は、義弟のブラウンと愛妻とが店の方に努力し、彼に後顧の憂なからしめてゐた。戦が終ると再び彼は商業に不斷の努力を續けた。

ワナメーカー・ブラウン商會は綿布の小賣商店であつた。彼が何故一布小賣商を選んだかそれは綿布が最も販路の廣く、商賣の呼吸や顧客待遇上の諸研究をするには、販路の廣い需用者の多いものが最も好都合だと思つたからであつた。

彼は開業以來八年間、一日の休みもなく不休不斷の努力を續けた。彼の健康が屢々危くなつたのも、その危険になつた健康が恢復されたのも、一に彼のその不眠不休の努力奮闘の爲めであつた。さうして彼れは米國第一流の綿布小賣商人たる地位を贏ち得たのであつた。

斯くて着々成功の花道を辿つたワナメーカーは、米國繁華の最大都會たるニューヨークに向つて、堂々たる發展を試みた。それは一八九七年の九月のことで、ニューヨーク市中でも繁華の中心土一合一升と謂はれるブロードウェイの第八街から第九街へかけて、十四階の廣大なるビルディングを建築し、デパートメントストアとして開業した。ニューヨークには今でこそ三十階、四十階の高層建物はザラにあるが、當時にあつては、十階以上の高層建築物は、商店としては殆んどなかつた。その丁度一年前の九月、矢張り第八街から第九街に互つてスチュワード商會といふ大商店が開かれ、

市民を驚かしたが、ワナメーカーのデパートメントストアは、それにも増して市民を呀と驚かせた。そしてデパートメントストアと銘打つただけに、一度此店に這入れば、どんな品物でもないものはないと云はれるほど、有らゆる種類のあらゆる商品が陳列されてある。開店當時はまだ飛行機は發達してゐなかつたから、そんなものこそなかつたが、その他のものは、どんな大きな機械でも自動車でも陳列された。その後航空機が發達してからは飛行機、飛行船も陳列され、今日ではフォード自動車會社製造の飛行機も自動車も、この大デパートメントストアに陳列されて賣られてゐる。そして店内の商品はすべてウールウオース式に均一販賣法である。均一販賣法は無論ウールウオースで學んだもので、ウールウオースが均一販賣法を發明したのは一八七八年で、一八〇〇年頃は、ウールウオースの均一販賣法と云へば、全米に響き渡つてゐたほど有名になつてゐたので、ワナメーカーはウールウオースの販賣法が、確かに進歩した新時代に適應した、彼の商店經營上の主義に一致したものと認めた所から、採用したものである。併し、ビルディングを建築したのはワナメーカーの市が先で、ウールウオースは彼より遅るゝこと二十一年の一八一八年であつた。

前記有名なスチュワード商會は、ワナメーカーの管理下に置かれることになつた。そして此大デパートメントストア開店式の當日には、費用を惜まず大々的に盛んな催しを斷行し、大藏大臣を主賓とし、内外の貴顯名士數千名を招待し、ニューヨークの市民の度膽を抜いた。この盛大未曾有の開店式が、商店繁榮策トであつたことは言ふまでもない。

彼は更に、郷里フライデルフィア市の舊店舗の跡に、全部花崗石を以て地上十二階地下三階の大ビルディングを新築し、一九〇一年盛大なる開店式を行つた、此時はタフト大統領を主賓として各國務大臣、各州知事、上下兩院議員、その他全米の名士數千人を招待した。式場において、ワナメーカーの健康を祝し、乾盃の音頭を取つたのがタフト大統領であつたことは言ふまでもない。貧乏煉瓦工の小作が、大統領から健康を祝され乾盃の音頭を取られようとは、恐らく何人と雖も想像し得なかつたことであらう。否恐らくワナメーカー彼自身としても豫想しなかつたことであらう。そして此店には一萬二千の従業員が、朝九時から夕五時まで、ワナメーカーの分身として目の廻るやうな顧客應接にいそしんでゐる。ニューヨークにおける、またフライデルフィ

ア市における、大デパートメントストアには輪奐の美を盡した廣大な休憩室があり、その他の設備も至れり盡せりで、お客の居心地買心地は素敵だといはれる。そして店内には到る所、裝飾として古今の名畫が掲げられ、その數六百以上であるといふ。店内に掲げられた名畫が、單に店内裝飾といふ意味のみならば、必ずしも古今の名畫たるを要しない、兎に角、店内を裝飾するに足るだけのものではあはれ、わけだが、彼が店内の裝飾にも古今の名畫を掲げてゐるといふのは、單なる商略以外、彼が美術ファンであり、美術蒐集家たるを示すものである。否、事實彼は有名な美術蒐集家で、リンドハーストの別荘には、古來の名畫が數多く蒐められてあつたが、一九〇七年火災に罹つて烏有に歸したのは惜みても餘りあることであつた。無論彼は多年の苦心が一朝の火燭に亡びてしまつたので大いに落膽したが、更に其後熱心に蒐集し、今では米國でも指折りの美術蒐集家の一人に數へられてゐる。

ニューヨークのデパートメントストアの七階にある彼の室には、有名なミハエル・マンカクソンの『ピラトの前に在るクリスト』と『十字架上のクリスト』の二名畫が掲げられてゐるが、この名畫は非常の珍品で、何人もまたこの二名畫に對して相場を

つけたことがない、否、つけ手がないと云はれてゐるほど、有名な、立派な、得難い、高價な名畫である。以て彼の美術蒐集ファン振りが窺はれるであらう。

彼は、名畫の蒐集熱心であるばかりでない。いろんな器物に對しても蒐集癖があつて、日本で云へば骨董癖ともいふべきだが彼の古器物蒐集癖は、日本人のそれは聊が趣きを異にしてゐる。米國の過去に現はれた偉大なる人物に關係あるものとか、その他米國以外でも人格的に偉大であつた人物に關係あるものとかに限つたもので、つまりらぬ缺け茶碗に萬金を投じたり、愚にもつかない石ころに千金を投げ出したるりするやうなことはしない。彼が私室に使用してゐる椅子はジョン・ハンコックの腰掛けてゐたものであり、机はゼームス・マデイスンの使つてゐたものであるといふ風で、この二人は共に米國獨立史になくはならぬ偉人であるが、彼がさういつたものを蒐集するのは、彼に言はせると、單に偉人の使用したものに憧憬をもつとか、價値ある骨董品だからといふのではなくて、その器物を蒐集し日々それを愛用することによつて人格の修養をするためといふ。彼の室にクリストの古名畫の掲げられてゐる所以がこれで了解されるであらう。

そして又、この美術や記念物蒐集に現はれた彼の高い人格と宗教的信仰とは、彼が成功して、その財力の許す限り、印度、支那、朝鮮等に基督教青年會館を建てたのが、米國人一流の自家廣告や偽善からでないことが首肯されるであらう。

彼が如何に敬虔なクリスチャンであり、その信仰が偽善的でないかを語る、美しい有名な物語がある。それは一九〇〇年の中頃であつた。二人の若い女が彼の店で萬引をして捕まり、彼の室へ引立てられて來た。二人の乙女はホンの出來心でやつたのだから勘辯して下さいと哀願した。彼は姓名を問ふたが、乙女はどうかそれだけは聞かないで赦して下さいと泣いた。二人の顔には後悔と改心の色が溢れてゐた。彼は二人の乙女の罪を飽くまで追窮しようとはしなかつた。又た聞いて呉れるたといふ姓名も敢て聞かうともしなかつた。そして突如椅子から起つて、『さあ、こちらへおいでなさい、あなた方の罪が赦されるように、三人で祈りませう』といつて可憐な乙女たちの爲めに神への祈りを捧げた。その時の乙女たちの感激と彼に對する尊敬崇拜の念が、どんなものであつたかは、説明するまでもなく諸君にお解りであらう。彼はこの可憐な二人の乙女を引取つて基督教婦人ホームに置き、店員として職業を興へ、慈父の如

く彼等も撈はり教養してやつた。斯ういふ崇高な神の如き行爲が、日本のさういふ様な地位に在る人たちに出来るだらうか。筆者は之を思ふ度に、ワナメーカーの爪の垢を煎じて、日本のさういふ地位の人たちに飲してやつたらと思ふ。

彼が一個の商人とは云へ、飽くまで人道主義の人格者であることは、歐洲戦争の際に於ける彼の行爲が明かに物語る。狂暴なる獨軍の爲めに白耳義が蹂躪されるや、彼は獨力を以て二艘の般に、食糧品、衣類、醫藥其他救護材料を満載して贈つた。この血あり涙ある人道的行爲は、當の白耳義國民は素より、世界の人々を感激せしめた所であつた。後に佛國政府はその義舉を表彰するにレジョン・ド・ノールの勳章を以てし、ホワード及びペンシルヴァニア兩大學からはエル・エル・デー即ち名譽法學博士の名譽ある學位を贈つて、彼の崇高なる人道的行爲を永く記念した。

彼は一昨年即ち一九二三年、八十六歳の高齡を以て平和に此世を去つたが、彼の八十六年の生涯は、所謂奮闘努力の立志的生涯であつたが、彼は決して苦んで不愉快な働き方をしなかつた、「愉快に働く」之れが彼の全生涯を通じた標語であつた。そして彼はこのモットーの通りに毎日朝は八時から夕方六時七時乃至八九時まで、愉快

に働いて倦まなかつた。彼は常に多くの店員に言つて居た「人間愉快に働けば決して仕事に倦む事はない」と、まさしく眞理を喝破した體驗上の名言で、而もこれは彼にして始めて言ひ得ることである。

自分が愉快に働くことを怠らなかつたと同時に、「お客を愉快に安心させて買物をさせる」といふことには、より以上心を砕いた。彼は商店の理想的經營は理想的店員の養成にある、店員をより良く養成しないで、商店をより良く經營せんとするのは、より良き種を蒔かずしてより良き收穫を得んとするに等しい愚であるといつて居た。そして彼れは店員養成の爲め商業貿易大學を創設した。日本の實業家で之を學んでゐるのは星製菓會社の社長 星一である、彼の星商業學校は、彼の店員養成の機關で、ワナメーカーの商業貿易大學に範をとつたものである。

彼はまた顧客の心を愉快にするために、彼の店では午前九後の始業時間になると、約三十分間に亘つて美妙なるバイブオルガンの演奏が行はれる。これは朝の氣持如何によつて人は其日一日の氣持が左右されるといふところから、彼の店に集ひ来る多くの顧客として、其日一日愉快な晴々した氣持を持たせようといふ、何處までも顧客を

念としたものである。だからワナメーカーの店へ買物に行く人たちは、その朝の音楽を聴いて終日の愉快な氣持を得ようと、潮の如く押寄せ、毎朝その時間には二三萬以上のお客が雲集するといふ。この朝の音楽演奏は、顧客の爲めではあるが、一面においては従業員の心を愉快ならしめ、其日々々々を愉快に従業させることに多大の効果をすることは勿論である。

彼は、さうしてお客を大切に親切に取扱ふと同時に従業員待遇に於ても、到れり盡せりである。普通一般の商店では、店員の健康問題について積極的施設を行ふといふことはやらないものだが、彼は「健康は幸福の最大なるものであり、一切の幸福は健康より生れる」といふ主義から、毎日始業前店員全部を集めて肉體操練を行ふこと日課としてゐる。そして彼は言ふ「店員の不健康は店員夫れ自身に不幸であり不愉快であるのみでなく、多くの顧客に對して不快なる感じを與ふるものである」と、その見識の凡ならざることが分るではないか。

歐洲大戰の起つた一九一四年には、七八兩月の暑中期間は、日曜日のみでなく土曜日もをも休にし、一週二日間の休養日を與ふる思ひ切つた新制度を採用した。月に一

日か二日の所謂公休日できさへも惜しがる日本の商店經營者に、こんな思ひ切つた店員待遇が一月でも眞似が出来たらうか。

又彼の店には従業員の爲めの講演會も開かれる。あらゆる種類の俱樂部もある。靈の洗濯をするための教會もある。老朽者や廢疾者の爲めには恩給制度がある。一度彼の店の従業員となつたものは、一生生活難に喘ぐことのない様な到れり盡せりの制度になつてゐる。

斯くて營々として不斷の努力によつて築き上げられた彼のデパートメントストアは世界の三個所にある。即ちニューヨークとフィアデルフィアとロンドンである。そしてその各店の建築費は約一千二百五十萬弗(約二千五百萬圓)で、一年の賣上高は勿論驚實に五億弗といふ素晴らしいものである。米國にも歐洲各國にもデパートメントストアは掃くほどあるが、ワナメーカーのデパートメントストアに比肩し得るものは一つもない。まさに世界一の大デパートメントストアであり、彼がデパートメントストア王として世界に期待せらるゝ所以である。

世界で一番最初に電燈を設備したのはワナメーカーの店で、即ち一八七八年のクリ

スマスの日の晩であつた。それに見ても、彼の經營が如何に進歩主義であるかが讀まれるであらう。

體驗から得た成功秘訣

- 一、廣告費を惜んではならない。廣告費を惜む様では決して商店は繁榮しない。
- 二、併しその廣告には次の三つを實行せねばならない。即ち(一)實證し得ない事はどんな事でも決して印刷してはならない。(二)すべて消費者の見地から考へなければならぬ。(三)そして又永久的な友情を傷ける様な方法においては決して販賣してはならない。
- 三、「商業は平和なり」といふ事を基調としなければならぬ。
- 四、如何にしたならば、自分の店舗、顧客の爲めに愉快な場所とすることが出来るかを考へなければならぬ。
- 五、商店を繁榮させるには左の十項を正しく實行せねばならない。
 - (一)決して廣告に嘘を吐かぬこと。即ち告は眞實の報告でなければならぬこと。
 - (二)決して誰にも不平不満を抱かせないこと。
 - (三)絶対に不正品や不正な取扱ひをせぬこと。
 - (四)出来るだけ値段を安くすること。
 - (五)お客の氣に入らぬ品は何時でも取り換へること。また喜んで返金すること。
 - (六)盲目でも子供でも安心して買物の出来るやうにすること。
 - (七)素見客に對して無禮な態度や不親切を絶対にせぬこと。
 - (八)店にはいつて来た客に對して、買物を強いる様なことを絶対にせむこと。
 - (九)店員たるとお客たるとを問はず、自分の店で犯罪した者に對しては、出来るだけ寛恕すること。
 - (十)客を愛顧すると同時に自己の店員を愛すること。

自分の商店を自分の爲めの商店と思つてはならぬ。購買者の爲めの商店として經營しなければならぬ。

商品の仕入に際しては、情實に煩はされてはならない。情實に煩はされると、不正品粗悪品を顧客に賣るやうなことが出来る。

- 八、愉快に働く主義を以て、常に如何なる仕事に對しても愉快に働くことが、成功の重大なる要素である。愉快に働けば決して仕事に倦むことはない。
- 九、自分が先づ愉快でなければ、顧客を愉快にさせることは出来ない。
- 十、日員の不健康は店員夫れ自らの不幸であるばかりでなく、多くの顧客に對して不愉快なる感じを起させるものであり、商店の莫大なる損失である。
- 十一、朝の愉快は一日の愉快を作る。
- 十二、敬虔なる宗教心なき者は成功しない。
- 十三、人道的ならざる者 成功しない。

腰辨銀行員から削骨削肉の惨苦を嘗め
コダックフィルム寫眞機を發明し巨億の富を作つた

9 寫眞機界の大王イーストマン (米國)

成功の總量

二十歳ちよつと出たばかりの腰辨銀行員から七十二歳の今日まで贏ち得た成功の總

量は、寫眞乾板及びフィルム並にコダック・フィルム寫眞機の發明と、寫眞機の民衆化即ち寫眞機を輕便安價なものに改造して趣味娛樂實用品化し今日の世界的流行と利便を齎らした功績と、世界最大の寫眞機製造會社たる紐育ロチェスター市に於ける彼を社長とするイーストマン・コダック社、同市コダック街十數町の間の全部を占むる寫眞機製造工場としての世界一の大工場と、數億弗の巨富と、發明家として又事業家としての世界的名聲と地位と實力。

如何にして成功したか

寫眞機が贅澤品であつた時代は過ぎて、今や娛樂と趣味と實用とを兼ねた一日用品と化した時代になつた。文化に於て歐米に後ること一步も二歩もである我日本においてすら、寫眞機を贅澤品視する者は、餘程の丁醫でない限り無くなつた。小學兒童でさへも、日曜野外の行樂には、小さい寫眞機をバチ／＼やつて、天晴寫眞通になり濟ましてゐるといふ有様、素人寫眞の流行は日本のみでなく、世界的流行である。そして苟も寫眞機をいぢくる程の者だつたら、コダックを知らない者はない。コダック。

フィルム寫眞機がどんなものかを知らぬ野暮天はない。そして寫眞は専門の知識や経験がなくても、どんな素人にでも容易く撮影も現像も出来ることを知らぬものはない。ところが二十年前までは、寫眞の撮影は専門の知識経験がなければ出来なかつた。寫眞機も今日の様に安價なものでなくて、一臺數十圓數百圓の高價を拂はなければ得られなかつた。随つて素人が之を趣味娛樂としてやるにしても、先づ光學上の専門知識から寫眞撮影に關する専門知識から養成してからでなければならなかつた。随つて素人で寫眞機を捻くることは贅澤道樂ブルジョア道樂とされてゐた。それが今日の如き手軽な安價な一般的普遍的なものになつたのは、一に乾板の發明者であり、フィルムの發明者であり、コダック・イーストマンのお蔭である。

寫眞が専門家の手から解放されて民衆の手に渡され、ブルジョア道樂から民衆娛樂となり、誰にでも買へて誰にでも撮影出来るやうになり、一般的實用品化したことは、寫眞機界の大進歩であると共に、世界人類の文化生活をどれだけ幸福にしたか分らぬ。而もその寫眞機界の恩人であり、世界人類の一大恩人が、嘗ては銀行の腰辨であつたジョージ・イーストマンであると聞いては、何人も驚嘆せずにはゐられないであらう。

さうして彼が、この寫眞機の民衆化的發明によつて、今や世界の寫眞機界の大王となり、前述の如き大成功者として時めいてゐると聞いては、更に驚異の目を見はらすにはゐられまい。而も微々たる一介の貧窮兒、銀行の腰辨が世界寫眞機界の大王とまで成功は如何にして贏ち得られたか。これは諸君が何を爲さんとするにも貴重なる參考として興味ある問題でなければならぬ。筆者茲に彼ジョージ・イーストマンが如何にして成功したかを語る、亦徒事ではあるまい。

今を距る七十一年前の一八五四年は夏も半ばの七月十二日、米國ニューヨーク州オネイダ地方のウオータービルに住んでゐた實業教育に先見の明をもつたイーストマンといふ一人の子供が生れた。その名をジョージといつて、これを本篇の主人公ジョージ・イーストマン其人である。

彼が二歳の時、父は一家を擧げてロチェスター市に移り、そこで商業専門學校を起したが、當時はまだ商業の學校教育などといふことは、殆んど顧みられない時代で、商人となるには小僧から叩き上げなければとても眞の商業の呼吸は分らない、學費での教育などは机上の空理空論で、實際の役には立つものではないと思はれてゐた。随つ

て彼の父が角萬難を排して起こした商業専門學も微々として振はず、入學者も極めて少なくなかつた。併し彼の父は非常に意志の強固な人で、その持論る「青年が實業界に身を投ずるには、どうしても先づ學校で一通り商業に關する一切の理論と實際を學、基礎的訓練と教養を経なければ、眞箇の進歩した商業家にはなれない、從來の小僧奉公などは最早舊式商業入門で、今後の社會には役に立たない」といふのを頑として曲げず、困苦缺乏に堪へ、臥薪嘗膽の慘苦を忍びつゝ學校の發展を期してゐたが、艱難遂に彼を殺したか、開校して幾年も経たない一八六〇年に苟の病が因となつて忽然他界してしまつた。

後に遺されたのはまだやつと六歳になつたばかりの幼いジョージと彼の母とで、而も遺産といふものは何もなかつた。女と子供では學校の經營などは、到底不可能なことで、殊に一弗の遺産もないとすれば尙更のこと、其日食つて行くことさへも出來ないといふ悲惨さ。さうゆう事情で、折角父の遺業となつた學校も廢校する外はなかつた。そして彼等母子は親切な父の知友同情によつて、辛と其日の生活を續けて行くことの出來たとは何たる情ない事であらう。

その日の生活が辛とである境遇として、子供の教育が満足に出來やう道理はない。ジョージは母の苦心慘膽によつて十四歳までは學校へ行けたが、それ以上は鹹鋒立ちしても出來なかつた。父がその持論を死守して商業専門學校を苦心經營した結果は、その遺兒が商業専門教育どころか、小學教育すらも満足に受けられないといふ皮肉な事實を出來した。

彼は學校をやめると直に或る保險會社のボーイに雇はれ、一週三弗の給金を貰ふた。母が女の手で働いて得た収入では、とても母子二人の生活を支へることが出來なかつたので、彼さうして得た僅かの給料を母に拜げて家計を助けたのであつた。母は彼にその中の分を割いて彼の小使として與へたが、彼はそれを一仙も無駄には費さなかつた。その金は貰はないものとして其都度銀行へ貯金した。塵も積れば山、最初の一年間に溜つた金高は三十七弗五十仙（七拾五圓）といふ意外な高であつた。

彼には所謂勤人根性といふものがなかつた。人の見る所と否とによつて行ひに裏表をつけるやうなズボラ根性は持ち合せてゐなかつた。彼の勤勉と誠實と技能とは早くも市役に見出され、地位はズンズン進められ、年俸六百弗となり、遂に其保險會社

の姉妹會社たる銀行の簿記係主任年俸一千弗に拔擢された。

ところが、彼の勤勉は應て健康を蝕むことになつた。休暇を得て轉地療養でもしなければ、彼は早晩斃れなければならない徴候が著るしくなつた。重役も同僚も頻りに煙霞療養を勧めたので、彼も愈々意を決して休暇を得、サント・ドミンゴ島へ行くことにきめた。

その事を親友の機械技師に話すと、旅行するならば是非寫眞機を携へたまへ、寫眞機持つての旅行は、どれだけ君の旅情を慰め、健康の恢復を早からしむるに役立つか知れないと頻りに寫眞機携帶を勧めてくれた。彼は寫眞機には、從來あまり注意を振り向けたことはなかつたけれども、さう勧められて見ると、如何にも轉地療養には、最も都合のいい、ふさはしい携帶品らしく思はれた。

あゝ、好い景色だ、こんな景色を畫に描いて置いたら、寫眞に撮つて置いたらと思ふことは能くある。親しい人と記念寫眞を撮つておく、旅行したときの風物を撮影して後日の思出にする、珍らしい物や現象、寫眞にとつておいたらばと思ふやうな事はよくある、さういふ場合に寫眞機があれば大層便利だ、それを考へると實に重寶至極な

また有用なものだ。彼は斯う考へると異常に寫眞機に興味が湧いて、早速寫眞機に關する書籍などを買つて、一通りの知識を作つた。そして撮影の實際技術は市内の寫眞屋へ行つて教はつた。

彼は寫眞機を携へて豫定通りサント・ドミンゴへ轉地し景色を二三枚とつて見た。如何にもやつて見ると趣味の多い、旅行などには持つて來いものだといふことが初めて分つた。轉地から歸つて、その寫眞を出して見ると、當時の愉快だつた氣持や情景がまざざくと目の前に現はれ、そのときの愉快さが、それを見るたびに繰返されて樂しかつた。彼はいよいよ寫眞に面白味を感じた。

併し、彼が面白いうちにも困つたのは、その技術の難かしい事であつた。現像や焼付の面倒で厄介なことであつた。よほど熟練しなければ完全なものは出來ないことだつた。折角撮つた寫眞も、現像や焼付けが拙いために、水泡に歸することが多いことであつた。撮影にも矢張り光學上の知識がなければ、只の素人に到底出來ないことであつた。

彼は、寫眞機のそれらの缺點から、何とかして、寫眞機をこんな面倒臭くない、も

つと手軽な便利な、どな素人にも利用して楽しむことの出来るものにする方法はな
いか、これだけ出来たものを是れ以上に改良することは決して不可能の事ではない筈
だと考へた。彼はこの自己の體驗から、寫真機の改良といふことに心を注ぎはじめた。
研究の順序として、寫真に關する知識をより多く得ることが必要なもので、彼はその
財政の許す限り、寫真に關する書籍や雑誌を買つた。そして銀行から歸ると、一步も
外出せず、それを讀んだり考へたりした。

すると、或る寫真雜誌に、英國でゼラチンを用ひて乾板を作ることに成功した者の
あることが載つてゐた。彼はそれを讀んで、或る重大なヒントを與へられた様な氣が
した。今日では種板といへば乾板以外にないものと誰でも思つて居るが、其頃までは
乾板といふものはなかつた、すべて濕板で、その製作の煩はしい手數つたらなかつた。
原料は同じ硝酸銀やコロヂウムや硝子板であつたけれども、その製作上と取扱ひ上
の面倒は、到底今日の乾板の比でなかつた。それだけでも寫真機を取扱ふに面倒があ
り厄介があり苦痛があり、却々素人の手に負へなかつた。今日では濕板といつても知
らない人が多からうが、乾板といふ名稱は、その頃の濕板に對してつけられたものに

過ぎない。そして濕板の不便な非實用なことは、イーストマンばかりでなく、寫真機
を取扱ふ専門家からして充分に感じて、その改良發明については、諸國の専門家に
つて苦心慘憺されて居つた。

雜誌の記事にヒントを得たイーストマンは、いよく乾板製作を思ひ立ち、銀行か
ら歸ると、近所に借りた小さな研究室用の家に立籠つて一心不乱に研究し没頭した。
寫真機を取扱つた經驗をもつた人なら、寫真乾板などの製作や現象などの研究が、決
して難いものでないことを御存じであらう。普通の光線の下では絶對に出来ないの
で、どんな暑い夏の日でも開け放してやるわけには行かない。四方悉く閉め切つて赤
色のランプか電燈の下でやらなければならぬ。冬はまだいゝとしても蒸されるやうな
夏の日などは、とても堪つたものではない、氣の弱い暑がりやは五分間もそんな所へ
居たら忽ち卒倒してしまふ。殊に寫真に用ゆる藥品には惡臭臭をつくものが多いから、
蒸されるのと暗いのと惡臭とで大抵の者は一時間と我慢が出来ない。イーストマンは
さういふ地獄の責苦みみたいな苦しみを嘗めながら、毎日一室に籠つて研究に耽つた。
而もそれが、終日銀行の煩雜な頭を酷使する簿記の執務をやつて、その上にやるのだ

から、普通尋常の努力では續かない。イーストマンは、そんな事は些しも苦にしなかつた。彼の心は苦しいとか辛いといふことよりも、乾板製作への成功といふ未來の樂みのみに奪はれてゐた。彼は研究實驗に夢中になつて、寢るのを忘れて徹夜することさへ毎週幾度となくあつた。

彼の母は杖とも柱とも頼むたつた一人息子の彼に萬一の事があつてはと心配して、研究をやめたらどうか、是非やりたいといふのなら、強いて止めはしないが、もすこし無理をしないやうに、毎夜十時までとか十一時まで位にして寢ることにはしてはどうか、そして日曜日くらいは休んで、何處かへ遊びに行つて氣晴しをやつたらどうか頻りに勧めた。彼の友人も彼の健康を憂いて何かと忠告して呉れるのであつたが、彼は頑としてそれ等の勸告や注意を受け入れなかつた。依然として十二時、一時、二時、三時、或は徹夜を續けた。日曜日などは、銀行が休みで終日研究が出来るので、彼としては最も樂しい一日であつた。遊びに出かけるより、眞暗な實驗室に蒸されるやうな苦しさの中に惡臭を放つ薬品をいぢくつてゐた方が、どれだけ樂しく愉快だつたか知れなかつた。斯うした刻苦努力の結果は遂に空しくなかつた。削骨削肉の苦心慘憺

は遂に彼を成功。彼岸に導いた。時は一八八〇年、秋風をよくと身に沁む十月の半ば頃、彼は遂に『イーストマン式寫眞乾板』の製作に成功した。その時彼は二十六歳の青年であつた。

此の成功の月桂冠を贏ち得るまでの彼の苦心は、實に死の危険を冒したのであつた。連日連夜の苦心。睡眠不足とは、彼を幽霊見たいに瘦せこけさせてしまつた。彼が朝になつて銀行へ出かける時の姿は、生きた血の通つてゐる、而も血氣旺んな青年の姿とは見えなかつた。冥路の風に吹かれて迷ひ出て來た幽霊——それが當時の彼の姿に對する好個の形容であつた。銀行でもイーストマンの事を『生きた屍』といふ譚名がついてゐた。

『あ、生きた屍がやつて來た。昨夜もまだ死ななかつたと見える』
彼が朝出勤する姿を見て、口の悪い同僚は斯う云つて嘲り笑つた。併、彼が數年間の嘲笑と冷罵とに堪へ忍んだ結果は、見事イーストマン式の寫眞乾板に成功した。さうなる。曩に嘲笑した連中は、意外なのに驚き、今度稱讚聲を浴せかけた。勝てば官軍敗くれば之れ賊、どこの國でも世間といふものほど好加減な、勝手なものはない。

彼は此時、世間の毀譽褒貶に神経を悩ますことの如何に馬鹿らしい事であるかを泌々と感じた。

何しろ乾板は従來の濕板とちがつて、感光度が強くて、取扱ひが簡便で、素人にも自由に使用出来るので、濕板製作者や寫真屋などは大打撃であつたが、世間一般の評判と需用とは大したもので、イーストマン式寫真乾板の聲價は一舉にして寫真界を風靡し、注文殺到の盛況を呈し、到底自宅における小規模の製作では、注文に應じきれなくなつた。

そこで彼は、その翌年即ち一八八一年銀行を辭職し、イーストマン乾板製作會社を起こし、ロチエスター市のコダック街に小さな工場を建て、友人のヘンリーストロングと共同して經營した。銀行の重役は、彼の辭職を惜んだけれど、彼發明と彼の前途を考へると、喜んで彼の辭職に賛成しないわけには行かなかつた。重役は彼の前途を祝福して辭表を快く受理した。

彼の工場は日を逐ふて盛大になり、乾板の賣行は日に多くなつて、毎月五千弗以上の賣行を見るに至つた。手狭な工場では製作が間に合はなくなつた。彼はヘンリ

イーストロングと相談して、工場擴張を計畫した。そして當さに擴張工事に取つかゝらうとする時、俄然乾板の賣行がピタリと止まつた。注文はバツタリ無くなつて、そしてイーストマン式乾板の非常な不評判が高まつた。これには流石のイーストマンも呀と驚いた。其原因は時日を経ると感光度が鈍くなつて役に立たなくなることであつた。實驗して見ると、確かにそれに違ひなかつた。二三月もすると非常に感光度が衰え、半年も経てば全く感光度が無くなる事が判つた。これでは不評判になるのは無理はなかつた。

ウンと賣るつもりで仕入れた商人たちは、ドシ／＼買戻しを請求して來た。感光度のなくなつた賣物にならぬものを引取らぬといふわけには行かない。彼は悉くそれを買戻さなければならなかつた。そればかりでなく、既製品が倉庫には一ぱい詰まつてゐた。それも悉く一文にもならぬ廢物になつてしまつた。彼は、それが爲めに今迄得た利益の悉くを失つてしまつたばかりでなく、従來贏ち得た信用と名譽とは一朝にして消え失せてしまつた。イーストマン式寫真乾板の名聲は煙の如く霧の如く消えてしまつた。彼は職工を全部解雇し、工場を閉鎖する外はなかつた。彼の心痛や想ふべし

である。

社會の毀譽褒貶は、極端から極端に走るのが常である。イーストマン式寫眞乾板の不評判は、その好評が多かつただけ高かつた。その反動的な不評判は、彼の名譽を一朝にして粉碎してしまつた。閉鎖された彼の工場は幾月経つても廢墟の如く空しく風雨に曝されるのみであつた。

彼は自分の研究がまだ不完全であつたことを悟つた。そしてもつと寫眞に關する専門的研究を要することを感じた。そこで彼は意を決して英國に渡り、ニユーカッスル寫眞研究所に一研究生として入所し、専門的に研究をやり直した。彼は化學光學のイロハからやり始めた。そして彼は自分の乾板を科學的に最密に研究して、た。すると彼は成る程感光性が鈍くなる筈だといふことが分つた。彼の乾板製作上には、まだ欠けてゐるものゝあることが發見された。

斯うして欠點を發見した彼は、もう完全な感光性の鈍くならない乾板に成功することを確信した。それは要るべかりし藥品の欠けて居たものを加へるだけに過ぎないからである。ニユーカッスル寫眞研究所に於ける彼は、非常の勇氣と努力を以て、科學

的に本式に研究を積んだ。もうその時の彼の心には、曾て工場を閉鎖した當時の瘡痕はなくなつてゐた。唯だ、前途に輝く光明だけが、彼の心を躍らせ力づけてゐるばかりであつた。

聽て彼は感光性の鈍くならない完全な乾板を製作することに成功した。彼はそれを土産としてニユーカッスル寫眞研究所を去つて故郷へ歸つた。それは一八八三年の初夏六月であつた。

郷里ロチエスターにおける彼の評判は、相變らず散々なものであつた。山カンがとう／＼逃げ出してしまつたといふ評判は、聞きたくもない彼の耳へ、ひつきりなしに引かゝつて來た。

併し、再びロチエスターに歸つた彼は、數ヶ月前人知れずロチエスターを去つた時の彼ではなかつた。今に見る、絶対に感光性の無くならない完全な乾板、製作して吃驚さして見せるから……といふ心が焔の如く燃えてゐたので、そんな不評判は、却つて彼に取つては、來るべき痛快味を、強くさせる材料としか思はれなかつた。

彼は早速以前の職工を雇ひ戻し、工場を開いて製作を始め、完全な乾板を賣り出し

た。併し一旦極端に不評判を招いた爲め、完全乾板の信用と聲價を得ることは、容易ではなかつた。今度は完全だから、何年経つても感光性は絶対に鈍くも薄くもならないからといったところで、最初に懲りた世間の人は、前の記憶が先入主になつてゐるため、容易に信じて呉れなかつた。彼はそれを信用させ、名譽を回復するには、非常の苦慘を嘗めなければならなかつた。

彼は廣告に實驗に、いろ／＼の手段方法を以て世界の信用を得んと努めた。その結果は再び信用と好評を博し、以前に優る盛況を呈するに至り、彼もホツと一息つくことが出来た。

ところが、天の試練はまだ／＼彼に寛大ではなかつた。彼が苦心慘憺に投げ込まれる艱難が彼を襲ふた。それは乾板製作の競争者が雨後の筍の如く續々現はれた爲め、販路がそれらの競争者によつて蠶食され、彼の乾板の賣行が激減するに至つた事であつた。

これには彼も一寸面食はざるを得なかつた。已むを得ない。製品の優秀と價格の低廉とを以て競争に應じて行く外はなかつた。彼はさうして一方に於ては營業の生命を

つなぎ、他の一方においては、更により新しい乾板の發明を企たした。

彼は現在の乾板の欠點が何處にあるかを深く研究した。以前の濕板時代に比較すれば、非常に便利化されてゐることは確かであるが、材料として硝子を用ひることは、破損の恐れがあり、持ち運びに重量があり、大量の運搬には運賃を多く要する。もし之れをもつと軽量なものにし、且つ破損の恐れのないものにする事が出来るならば、乾板は更に一層便利重寶なものになるに違ひないと考へた。そして彼はフィルム製乾板を思ひついた。

そこで彼は、早速セルロイドの研究を始めた。今度は最初の研究ほど骨が折れなかつた。只だ硝子をセルロイドに換へるだけのことであつたので、比較的大した苦心もなくして成功することが出来た。これならばどんな競争者に對しても對抗して、十分勝利を得ることが出来ると確信した。彼は之れに成功するや、從來の社名をイーストマン乾板フィルム會社と改め、製作販賣をやり始めた。世間はアツと驚いた。そうしてすつかり感心してしまつた。需用は到底硝子製の乾板の比でなかつた。注文は忽ち津浪の如く押し寄せ、工場は擴張に次ぐに擴張を以てしなければならなかつた。彼

の得意や想ふべしである。

彼の第二次の發明たるフィルム乾板、彼が考へた通り天下無敵であつた、硝子製の乾板では、龐大な資本力と巧妙な宣傳販賣術を以て彼に對抗し、彼の乾板の賣行に大打撃を與へたが、フィルム乾板に對しては、如何ともすることが出来なかつた。フィルム乾板は從來の硝子製のものに比べて、更に一段文化的のものであつた。その需用の多いことは驚嘆すべきものであつた。

それだけ彼の事業は發展した。彼の名聲は世界的に喧傳されるに至つた。彼は精神的に酬ひられたばかりでなく、物質的にも酬ひられるやうになつて、彼の生活にはよほどの裕が出来た。

しかし彼の發明的向上心は、フィルム乾板に成功したのみでは満足出来なかつた。彼は寫機械そのもの、改良發明に頭を振ふた。

乾板ばかりが進歩しても、改良されても、寫眞機械そのものが舊態依然たるものであつたら、折角進歩した乾板も、充分の効用を發揮することが出来ない。從來は機械の方が進んでゐて、乾板の方が後れてゐた。併し今や乾板はフィルムにまで進歩したが、

機械は依然として改良されてゐない。即ち機械の方が後れてゐる。

乾板が携帯に便利になつても、素人でも取扱ひ自由となつても、機械があんな大きなものではないけない。大きな靴に入れた重たいものを擔いで、あの不細工な三脚を持つて歩くなどは、厄介千萬である。旅行や散歩などは、最も輕装を必要とする。いくら寫眞が旅行や散歩、趣味多いものにして、あんな太い重いものでは、荷厄介になつて、却つて旅行や散歩の趣味を欠いてしまふ。金持が贅澤にいちくるのなら、從者を連れて、それに擔かせて歩くのもよからうが、一般民衆の趣味娛樂實用化するには、もつと輕便なものでなければいけない。光學の何たるかを知らぬヅブの素人でも、即座にパチンと撮影し得るものでなければ、寫眞機として理想的でない。さういふ理想的な輕便至極のものに改良するのが、自分のこれからの仕事でなければならぬ。彼は斯う考へて、機械の改良發明に研究の心をひそめたのであつた。

ところが、イーストマンと同様に、從來の機械が不便至極のものであることから、密かに之が改良發明に苦心してゐた男があつた。それはウイリアム・ウォーカーといふ技師であつた。それを聞き知つたイーストマンは、ウォーカーを訪問して、其力し

て研究してはどっかと提議した。ウオーカーも、發明に苦心するほどの人物であつたから、質の悪い男ではなかつた。寧ろ同志の現はれたことを大いに喜び、即座に提携研究の約束は成立した。

イーストマンとウオーカーは、イーストマンの研究所で、毎日毎夜額を鳩めて研究に餘念なかつた。

彼等は幾度か考案して、幾度か失敗した。而もそれは二回や三回五回ではなかつた。數十回考案して數十回失敗した。イーストマンも執念深い男であつたが相棒のウオーカーもイーストマンに劣らぬ熱心な執念深い男であつた。彼等は、そうして數十回失敗しても、落膽の顔色一つ見せなかつた。彼等はその失敗が一步步々成功に近づきつゝあることを自信せずにはゐられなかつた。

『また失敗か。宜しいこれで成功への階級を一つ昇つたね。』

『さうだ、一歩だけ成功が近づいたんだ。』

失敗の度毎兩人の間に交はされた言葉はこれであつた。

苦心慘憺のうちに一年は経つた。削骨削肉の研究のうちに二年経つた。失敗刻苦の

うちに三年経つた。

『社長はまた何か發明に取りかゝつてゐるらしいが、まだ成功しないのかな、もうその話を聞いてから滿三年になるではないか。』

『さうよ。結局何かしら又アツと驚かせるものを發明するだらうが、好加減待たせるではないか。』

『再たニューカッスルに逃げ出すやうな事になりはせぬかね。』

などと職工間に噂されてゐるうちに、三年は突破して二た月三月と、時は遠慮なく流れて行つた。

出来た！ 完成した！ 星霜四年の苦心慘憺の結果、漸やく非常に輕便 機械の完

成に成功した。有名なコダック・フィルム寫真機がそれであつた。彼等二人は相擁して祝福した。

茲に於てイーストマンは寫真機械製作工場を増設し、その社名をイーストマン・コダック會社と改め、工場において製作し、一八八八年市場に賣出した。其時の廣告文が『ボタンを押して下さい、後は皆私共が致します』といふのであつた。この氣の

利いた洒落た簡勁な文句、世人の心を捕へてしまつた。殊に従來の寫真が、不便で高價で素人には取扱へなかつたのに比し、この機械はどんな素人にも、女子供にも寫せる簡便な小型で、而も其價格は従來の何分の一何十分の一しかしないといふ理想的なものであるから、その賣出しの結果の悪からう筈はない。フィルム乾板以上に世間の賞讃を博し、いくら製作しても注文の間に合はないといふ素晴らしい景氣であつた。一八九二年コダック・フィルム寫真機、巻フィルム乾板、その他すべて彼の發明は特許を得た。特許權を得てからは、機械においても、乾板においても天下無敵、彼の獨舞臺であつた。

彼はまた考へた。機械にせよ乾板にせよ、より優れたものを、より安價に賣るには、諸材料を一々他から仰いでゐたのではない。すべてを自分の工場で製作しなければ徹底的でない。そこで彼は會社の大増資大擴張を行ひ、コダック街十數町の土地を買収し、そこに廣大なる工場を建て、更に一方にはコダック研究所を設立し、理化學専門大家を招聘し、寫真に關する一切の研究を始め、向上の一路を驀進して、イーストマン・コダック會社の製品は益々聲價を高め、事業は日に月に繁榮し、世界最大

の寫真機乾板製作會社の名を擅まにするに至つた。

一九一九年、彼は會社の株六百萬弗(壹千二百萬圓)を會社の使用人全體に分配し、工場労働者に對しては、毎年一百万弗の利益分配を行ふ従業員優待制度を設けた。従業員一同は彼の優遇に感激して、その従業能率は著るしく高まり、社運は隆盛へ隆盛の一路を直進向上しつゝある。

彼は今や世界最大の寫真機フィルム乾板製作會社の社長であつて、世界寫真機界の大王と稱へられ、巨億の富を擁する富豪であり、米國實業界の重鎮として内外の信用と名聲とを背負ひきれないほど背負つてゐる。そして世界は彼の爲めにコダック化されてゐる。

彼は本年古稀を過ぐる三歳、全頭白髪を頂いて居るが、まだ獨身者である。それでゐて彼は曾一度も夫人を迎へたこともなければ、迎へやうと思つて見たこともないといふ。彼が七十二歳の今日まで獨身であるといふのは、父に早く別れて兄弟も、老ひたる母一人を守りつゝ、發明に没頭して他を顧みる違がなかつた結果、妻を迎ふる時期を通り越してしまつたのである。随つて彼は異性に對しては、世の常の富豪や

實業家のやうに餘り興味をもたない。彼の唯一の趣味は音楽と狩獵と旅行である。

體驗から得た成功の秘訣

- 一、發明力と發明の機會は何人にも均等に與へられてゐる。唯その力の發揮とその機會を擱むことの如何にある。
- 二、先づその發明が社會に齎らす福利の大きさを考へなければならぬ。そしてそれは果し正しい福利であるや否やを考へなければならぬ。
- 三、發明 専門家でなければ出來ないものではない。否、多くは門外漢によつて發明されるものが多い。
- 四、一旦思ひ立つたことは、萬難を排して直進せねばならぬ。
- 五、世間の毀譽褒貶に煩はされることは發明を不成功に終らしむる原因である。
- 六、一度發明に成功したのも、常に不斷の研究改良が必要であり、より以上のものに着眼することが肝腎である。
- 七、いつも失敗の度毎に最初から遣り直す覺悟でなければ途中で挫折する。

八、最初から金錢問題を考へるな、さうでないと成功を急ぎ、却つて成功を後くし、或は遂に失敗に終る。

九、一つのもの、發明に成功したら、それに關するすべてのものに研究心を向け、種類の全く異つたものに向けてはいけない。

十、人間の考へ得る事で不可能のものはない。不可能と思はるゝことは、まだそれを可能にすることを知らないからである。研究すれば、必ず途は發見される。

十一、常に人に世に一步先んずることを考へることが必要である。すべての發明はそこに芽ぐみそこに成功の途が開ける。

十二、競争者が現はれても、決して焦燥つてはならない。却つて落着いて、それ以上に頭抜けることを靜かに深く強く研究者慮しなければならぬ。焦燥は却つて競争に敗北する。

貧しい石鹼製造販賣人から廣告術一方で
巨富を作り大實業家となつた

10 チュウイングガム王リグラー（米國）

成功の總量

三十一歳から六十二歳の今日まで三十一一年間に得た成功の總量は、一ケ年におけるチュウイングガムの製産高九十億乃至百億、これを製産するシカゴ、ブルックリン、シドニー、及びロンドンに於ける四大工場、世界十八ヶ國におけるチュウイングガムの賣高一ケ年四千萬弗乃至五千萬弗、これによつて收獲した巨萬の富、世界的大實業家たる名聲と地位と信用。

如何にして成功したか

リグラーのチュウイングガムといへば世界に誰知らぬものはないほど今日では有名になつてゐる。日本でも一頃は素晴らしい勢で流行した。今日では當時ほどではないが、

チュウイングガムの名は誰でも熟知してゐる。あの奇抜斬新な廣告振りと、あの圓錐形の帽子を冠つた西洋のお伽噺の本の挿畫にある妖精見たいな變てこれんな人形の商標は、チュウイングガムの名と共に、誰でもよく記憶してゐる。チュウイングガムはあの變てこれんなマークで世界中を飛び廻つて、世界中の人々の口に這入つて。リグラーに前述の成功の譽に北叟笑みをさせてゐる。

唯これだけなら驚かぬかも知れぬが、チュウイングガムといふお菓子は、リグラーが發明したもので何でもない、その以前からあつたもので、而も誰一人振向い見ざるものもないまでに廢れてしまつてゐたものを、石鹼行商であつた貧乏なリグラーが、石鹼を賣る手段に使つて巧く當つたのが抑もであると聞いたなら、誰だつて驚かすにはゐられないだらう。リグラー彼自身だつて、最初から今日の成功を收獲させる福の神であらうとは思はなかつたのであるから、その廢れ菓子の奇しき出世物語はいよく興味あるものになつて来る。そこで筆者は、例によつて、リグラーが如何にしてチュウイングガム王となるまでに成功したかを物語らう。

リグラー、彼の名はウイリアム、即ちウイリヤム・リグラーである。彼は最初からの

米國人でなく、父の時代に英國から歸化した米人で、米人としては新參の方である。父は石鹼製造家で餘り富裕ではなかつた。つまり英國を食ひ詰めて新世界の米國に旅鳥となつて渡り、遂々尻を据えて歸化したものである。彼は十人兄弟の中の一人であつたといふから、彼の父も亦貧乏子澤山黨のチャキ／＼であつたのである。他の八人の兄弟については詳らかでないが、兎にも角にも、その子澤山の中の一人の彼が、メキ／＼と成功して世界的大實業家になつた事實から云へば、子は子寶野にも山にも産みつけて置けといふ諺も、満更子澤山の貧乏人を巧く胡魔化して嬉しがらせる政策的諺とばかりも言へないわけで、彼の父も亦冥すべしである。他の八人がぐ／＼たらべてあつたりありつゝあるにしても、彼一人の大成を以て充分差引勘定して餘りある。彼の少年時代は頗る腕白で、毎週一度や二度教師から摘み出しの嚴罰に處せられなうな事を、平氣で言つたり爲たりした。いくらアメリカの先生だつて、十や十一の鼻垂れ餓鬼に先生の尊嚴を冒瀆されては、山蚯蚓の様な疳癢筋を前額に隆起させて室外

に摘み出す位の藝當はやらざるを得なかつたであらう。

さういふわけで、先生の方でも、眞半御免蒙りたかつたし、彼の方でも先生の尊嚴を冒瀆するたんびに一週に何度となく摘み出されたり退場を命せられたりしては、ウンザリせざるを得なかつた。彼は糞面白くもなくなつて十一の時に、サラリと學校の方はやめてしまつた。そして十三歳の時から、父の製造する石鹼の販賣行商をやり始めた。

人の天分は何處にあるか分らぬもので、學校では頗る評判が宜しくなかつたが、石鹼の行商人としての彼は、十三歳の子供にも似合はず、ナカ／＼味な手腕を見せて、どうかすると大人でも呀と驚かされるほどの、鮮やかな手際を見せることがあつたので、父も彼の商才については多少將來に期待する所があつた。彼がもすこし大きくなつたら、確かに自分の片腕になつて商賣を繁昌させるだらうと、私に楽しみにしてゐた。

石鹼の製造販賣業には、いつの世にも競争者が多い。今日でも同業者が掃いて棄てるほどあつて、鎬を削つて競争してゐるが、五十年前のその頃も矢張り競争者が多く

て、販賣には鎬を削つて戦はなければならなかつた。

この激甚なる競争の戦場に立つては、リグレーも學校で先生の尊嚴を冒瀆して教師を回ますやうなわけにはいかなかつた。うつかりすると自分の方が回まされ、戦況甚だ面白くないことが屢々あつた。つまり悪戦苦闘せざるを得なかつた。

彼もいつまでも十三歳ではなかつた。年數を経て年齢が多くなるに従つて、戦術も巧くなつた。彼は競争に打勝つ戦術として景品付販賣法を案出した。今日でこそ景品付といつた所で、珍らしくも何ともなく平凡陳腐に屬してゐるが、當時は景品を附けるなどといふことはなかつた。それほど智慧が無かつたといへばそれまでだが、唯々一本押しに商品そのものだけで競争戦をやつてゐた。そこへ景品付といふ破天荒珍無類の販賣法をやりに出したので、リグレーの石鹼は多くの競争者を壓倒して盛んに賣れるやうになつた。

ところが景品付販賣法は、リグレーの專賣特許にするわけには行かなかつたので、そのうちに、彼の遣り方の好いを見て、同業者が續々眞似をやり出した。爲めに折角案出した競争戦術も最初ほど効目がなくなつた。同業者がいづれも彼と同様に景

品附にするやうになつてからは、景品附にしない前と五十歩百歩になつた。

此に於て、リグレーは方向轉換をして新たな戦術を案出しなければならぬことになつたが、その時フト思ひついたのはチウインガムであつた。この菓子はすつと前からあつたものであるけれども、一般の嗜好に投じなかつたものか、それとも考案者の販賣方法が拙劣であつた爲めか、あまり流行したことがなかつた。そして當時は、そんなものは誰一人顧みるものもないまでに廢れてしまつてゐたものであつた。

彼はチウインガムを、普通の菓子とちよつと趣のちがつた處のあるだけに面白いものだと思つた。こんな妙な風變りの菓子は、今は誰も知らない迄に廢れてしまつてゐるけれども、利用の如何によつては、普通有りふれた物より却つて人々の好奇心を喚ぶるかも知れないと思つた。

そこで彼は、従來の景品を中止して、チウインガムを景品とすることを遣り始めた。すると不思議なことには、賣行の思はしくなかつた石鹼が賣れ出して來た。これは面白いと思つて尙繼續して廣告をやつて見ると、益々石鹼の賣行がよくなつて、後には最初パラソルだのハンケチだのパン粉だのを景品にして盛んに賣れた頃よりは、却つ

て賣上高が多くなつた。彼は廣告の方法が宜しきを得たといふよりは、變てこれんな
 チウインガムが當つたのだと思つた。

彼は石鹼の如き競争者の多い物の製造販賣をやるよりは、寧ろチウインガムを専門
 に製造販賣した方が、遙かに骨が折れなくて競争者が少くて有利に違ひない、そして
 將來世界的に發展する餘地のあるものだと思つた。それには別に確乎とした理由はな
 かつたけれども、彼はそう思つたのであつた。機を見るに敏なる彼は、早速石鹼製
 販賣をやめて、チウインガムの専門製造販賣をやり始めた。時に彼は三十一歳であ
 つた。

讀者は恐らく彼は數千數萬の資金をもつて事業に着手したのであらうと思ふが、實
 は勿驚たつた三十弗しかなかつた。日本の金にして僅か六十圓が、彼が其時持つて
 ゐた全資本金だつたのである。

彼は僅かな資金で開業した關係上、どうしても、資金の運轉回数を多くする必要
 があつたので、彼はチウインガムを賣るべく、廣告に心を砕いた。毎日毎夜『どう
 いふ廣告をしたら世間の人の心をチウインガムに捕へ込むことが出来るか』を一生

懸命考へた。

最初はいくら彼が瘦せ細るほど心を砕いて考案しても、ナカ／＼巧みな廣告は出來
 なかつた。これならと思つてやつた廣告も、案外効果のないことも度々あつた。これ
 ではまだ充分でないけれども仕方がないと思つてやつた廣告が、意外に反響を呼んだ
 こともあつた。

さうして一心不亂に活動した結果、チウインガムの賣行も大分よくなつて、この
 調子ではいよく物になるわいと思つてゐる矢先、類焼を食つて工場は全焼になつて
 しまつた。

裸一貫になつても彼は少しも失望しなかつた。焼けて仕舞つたものは仕方がない、
 これからまた新規再直したと、ニコ／＼しながら再熱心に遣り始めた。一年二年と
 經つうちに前の損害を取り返し、賣行も盛んになつて來た、ヤレ／＼、それで辛と損
 の取り返しがついたわいと、吻とした時に又もや火の惡魔は彼の工場を焼き彼の全財
 産を灰にしてしまつた。二度も火災で全焼になると、大抵の者は勇氣がなくなつて再
 び蹶起する氣はなくなるものだが、彼は少しも失望も落膽も自暴自棄にもならなかつ

た。矢張り第一歩から踏み直すことに躊躇しなかつた。

或時はまた商賣上大失敗を招いたこともあつた。若い彼れ、商賣に深刻な體驗をもたない彼は、注文にまかせて商品を發送してゐた。第一回の送荷に對する代金の決済が未了であつても、請求されるまゝに送つてゐた。ところが、さういふ取引者の中には、多量の商品を送らせておきながら、代金を支拂はないものがあつた。その一部分のみを支拂つて大部分の代金を踏倒したり、夜逃げしたり、何だ彼だと口實を設けて支拂を延期したりするものが少くなかつた。少資本を以て經營し而かも二回も火災で全焼けになつてゐる彼としては、それは彼の幸福を全部拭ひ去らるるにひとしい大打撃であつた。品物は賣つて仕舞つて代金は拂はぬ、そんな横着者は今日の世の中にも無數にあるやうに、その時代にも尠くなかつた。彼はその無經驗から、第一回の代金支拂が完了しない間に第二回の注文を送つてはならぬといふ商賣上の秘訣呼吸を知らなかつた過失と言ひながら、この横着者のために彼はどれほど苦しめられたか知れなかつた。

斯ういふ苦い經驗を嘗めさせられて彼は始めて悟つた。彼は爾來、第一回送品の代

金が決済されなければ、どんな商人に對しても第二回の注文は發送しない憲法を設けた。それからは、さういつた横着な泥棒見たいな狡猾い商人にしてやられることはなくなつた。併し第一回の送品は、一定限度まではハガキ一枚でドシ／＼送つた。それは一見危険な遣り方のやうだけれども、彼にはそれだけの理由と商略があつた。

「例へば百箱のチユウインガムを送つたとしても、それだけのものを一人で食つてしまふものはない、商人の注文であつたら、必ずそれを賣るに違ひない、賣れば多くの人の手に渡り、多くの人の口にはいる。それは結局チユウインガムの廣告によい宣傳によるのであるから、假令百箱の代金をその商人が支拂はなかつたにせよ、それを廣告費に投じたものと思へば何でもない。さういふこのためにチユウインガムの販路は益々擴くなり、確實な商人の千箱二千箱、注文を呼ぶことになる」といふのである。如何にもリグレーの面目を躍如たらしむる放膽な遣り方であるが、確かに商賣上の眞理が含まれてゐる。

果せるかな彼の考へた通りであつた。手紙一本の注文によつて、未知の商人に對しても、ドシ／＼一定數量のチユウインガムを送つてゐる中には、それなりけりに代金

を送らぬものもあつたが、それが廣告になつて、確實な注文者が盛んに殖えていつた。さうして今日の世界的大發展を齎らしたのであつた。

チュウイングガムは何う研究しても工夫しても結局チュウイングガムである。チュウイングガム以上に一步も半歩も出づるものでない。そこで彼は、廣告術を以て賣る外はなかつた。だから彼は二六時中考へることは『より有効な廣告』といふことばかりであつた。そして彼は廣告一方でチュウイングガムを世界に賣り擴めた。

今日彼が廣告費に投じてゐる金額は、前に莫大なるもので、世界の十八ヶ國語においてする廣告費は三十萬弗以上である。都會における電燈廣告費だけでも一ヶ年十萬弗以上を費してゐる。注文荷を送るときはすべて廣告費に投ずる、廣告の爲めに送るといふ氣持で送る。彼が廣告といふことに、とんなに思ひ切つたことをやるかは、七百萬の家庭にチュウイングガムを送つたといふ一事を見ても分るが、その反響は實に驚くべきもので、その廣告に使つたチュウイングガムの數十倍の注文が殺到したといふことである。

そして彼が最初案出した景品附販賣法は、チュウイングガム専門になつても、矢張り

應用して、その注文數量により、梯子とかランプとか、陳列臺とか珈琲挽きとかパラスルとか、いろいろの種類の景品を添附して賣り出した。

日本で最近菓子製造家として成功したのは森永製菓會社であるが、その遣り口はリグリーのチュウイングガム販賣政策に似てゐる點が多い。これは恐らくリグリーを學んだものであらうと思はれる。併しリグリーの世界的なと奇抜のとに比ぶれば、森永などはまだ問題にならない。

リグリーは天真爛漫まるで子供のやうで、樂天主義で、活動家で、運動好きで、疑惑とか恐怖とかをもたない、怒つたり困つた顔をしたりすることのない、いつも微笑をもつた愉快な氣持のよい無邪氣な男であるが、賣にかけては、決して油斷をしない。油斷は失敗の原因であるとして、いつも緊張した心をもつて商賣をやつてゐる。

彼についてはいろいろ面白い逸話があるが、そのうちに斯ういふのがある。彼は嘗て世界漫遊を思ひ立つたことがある。世界週遊の切符を買つて伊太利まで行つたが、漫遊旅行なるもの、單調と惰氣とは死ぬほど苦痛だといつて、世界週遊の切符を棄て、大急ぎでロンドンに引返し、新しい廣告の策戦に耽つたといふ。如何にも彼の眞面目

が現はれてゐて面白いではないか。

また嘗てカリホルニヤに遊んだ時に、三百萬弗の大金を惜氣もなく投げ出して、カタリナ島を買入れたが、これは何もカタリナ島に野心があつたわけではなかつた。そんな思ひ切つた事をしてそれをチュウイングムの廣告にする考へであつた。果せるかな彼の豫期した通りに、これが新聞に傳へられて大變な評判になり、チュウイングムの賣高は非常に多くなり、カタリナ島に投じた三百萬弗の數倍の利益を得たといふ。實業家中には運動好きの人は可なり多いが、それは大抵ゴルフだとか銃獵とか、一二の運動に限られてゐるものだが、リグレーと來たら拳闘でござれ、水泳でござれ、テニスでござれ、ゴルフでござれ、ボロでござれ、スキーでござれ、撞球、野球、蹴球、マラソン、槍投、圓盤投、スケート、何でもかんでも苟くも運動遊戯と名のつくものは悉く好きで、その熱心なことは玄人既足、拳闘や水泳と來たら立派なチャンピオンの腕前があると云はれてゐる。彼は「四割は運動せよ」といふのを生活の標語としてゐる所から見ても、彼の運動好きなのが窺はれる。併し、一番好きな運動遊戯は何かといふと矢張り商賣だといふ。

今やリグレーの一名とチュウイングムは、フォードの名と自動車の如く、世界的に知られ、世界的大實業家として喧傳され、彼のチュウイングムは年々歳々賣行の激増してゐる。そうして今や彼は人々の一顧だも與へなかつた廢れ菓子の子チュウイングムによつて巨億富豪として時めいてゐる。而もこれが僅か三十弗の微々たる資本を以て遣り出した不屈不撓の結果であるに至つては驚かざるを得ないではないか。要するに彼の今日の大成は、彼の廣告術である。廢れたチュウイングムを巧みに廣告によつて生かしたといふ事が、彼の今日の成功を贏ち得た所以である。われは、彼リグレーによつて廣告術の價値を教へられることが多い。

體驗から得た成功秘訣

一、人生と商賣とは何れも單調なものである。そして其中の何れにでも成功しやうと思ふなら、如何にしても他人の他位に自分自身を置くかといふことを學びさへすればいいのである。

二、廣告の秘訣は、出来るだけ早く人に知らせるといふことであり、そして出来るだ

け繰返して徹底的に知らせることである。

三、廣告は恰かも汽罐車の如きもので、石炭はあとからくくと投げ込まなければ火は消えて、汽罐車は動かなくなるであらう。

四、男子にとつて、最も悪い敵、自分を殺す敵は疑心と恐怖心とである。

五、商賣とは民衆を知る事であり、民衆を愛することである。

六、商賣には決して嘘をついてはならぬ。一度嘘を吐くと、終生それに崇られ禍されるものである。

七、人生において、眞實に自己を害するものは何人でもなくて自分自身である。

八、商賣における眞實の喜悅は創造の喜悅である。

九、富を作るといふことは、豆の山を築くにひとしいものである。

十、廣告の要諦は、民衆に自分自身を置いて考へるにある。

十一、生活は『四割運動し、六割働く』主義であれば病氣その他の不生産的な事に襲はれることはない。

十二、商賣は眞剣な人生の競争である。

十三、成功の秘訣は一事に對して愉快に全力を挙げ、最善を盡して努力する外にはない。

土百姓の小作から奮闘努力して

遂に米國新聞界の覇者となつた

11 米國新聞界の霸王マンセイ(米國)

成功の總量

土百姓の小作から發奮努力し、二十餘歳から七十二歳の今日まで收獲し得た成功の總量は、ニューヨーク・ヘラルド、ニューヨーク・サンの大新聞を始め、五十餘の新聞を經營し、米國新聞界の覇權を掌握し、言論界のみでなく、政治界、實業界、教育界、その他社會全般に亘りて重きをなし、政府と雖も彼を念頭に置かずしては何事も爲し得ないといふ飛ぶ鳥も落とす陰然たる大勢力を有し、米國新聞界の霸王として、排日系のハーストと雖も、またニューヨーク・タイムス系と雖も、一目も二目も置いてゐる。無論彼の私財は億を以て數ふる一大富豪である。

如何にして成功したか

水呑 百姓の俸に生れた一青年が、大米國の新聞界に覇者たるの地位を贏ち得たと
いふことだけ聞いても、その裏面において如何に奮闘努力の並々ならぬものがあつた
かは、恐らく何人と雖も想像される所であらう。然り彼は決して駙馬の玉の輿に乗つ
て、金力や権力の背景によつてその地位を贏ち得たものではない。裸一貫、徒手空拳
を以て北邊の一寒村から文北の都大ニューヨークに飛び出し、奮闘の權化となつて堅
忍不拔、一命を賭して戦ひ闘つた結果である。然らば彼は如何に奮闘し、如何にして
成功したか、それは必ずや諸君の心中に何ものかを與ふるものでなければならぬ。

米國新聞界の霸王フランク・エー・マンセイ、彼は一八五四年四月二十一日、加奈陀
に隣接した東海岸メイン州のメルセルといふ一寒村に生れた。

彼の家は百姓であつた。百姓も極めて貧しい所謂水呑百姓であつた。辛と食つて
生きて行くことが出来るといふに過ぎなかつた。随つて彼れは多くの水呑百姓の子
供と同様に、村の貧弱な小學校以上の教育を受けることは、到底不可能であつた。學

校を卒業してからは、両親の手助けをして野に山に土に塗れて小さい百姓として働い
てゐたのであつた。

ところが、そのうちに、この小さい百姓をして、百姓の零圍氣から飛出させる機
會が来た。それは文明の風であり、科學の頬笑みであつた。

彼が十三四歳の頃は、多年學者間に懸案になつて居た電信が實用時代に入り、電信
熱が都は勿論、北邊の山村たるメルセルにまで襲來して、村の人たちにもその不可
思議な作用が、寄ると觸ると話の種にされるやうになつた。マンセイも矢張り村の人
たちと同様に電信熱に浮かされた一人であつた。

彼は電信熱が高まつた結果、電信といふものを研究したい氣になつて、三年間電信
に關する書籍を唯一の教 授にして獨學勉強した。そして電信技手たる一通りの知識
を養成した。彼はかくて電信技手たらんとする希望に夜も晝も浮かされてゐたのであ
つた。

その頃米國最大の電信會社は、ウエスターン・ユニオン電信會社であつた。彼はその
會社が電信技手を募集してゐるのを知つて、通過するか失敗するか分らぬが、當つて

碎ける、一番採用試験を受けて見ようといふ氣になつて、受験して見。すると彼の豫想に反して、而も優秀なる成績を以て見事に通過し、而も尙彼は會社から、オーガスタ市に在る同社出張所の技手兼支配人に任命された辭令を受取つた。

彼にはどうしてもその辭令が事實とは信せられなかつた。試験に及第したことでは既に意外であるのに、令格するや否や一日の経験もないものが、出張所の技手兼支配人に任命されるなんて、とても有り得べき事實とは思へなかつた。彼は夢ではなしかと疑つたが、正に確かに夢でも幻でもなく事實であつた。彼は餘り怪しく思はれてならなかつたので、念の爲め會社に書面で問合せたところが、會社からの回答は、間違でも何でもなく、而も同市の出張所には支配人がゐないから大急ぎで赴任して貰ひたいといふ、至急電報であつた。彼の意外と歡喜とは、蓋し想像するに難くないであらう。

「鬼の首でも取つた様な喜び」とはまさにその時のマンセイの胸中であつた。彼は意氣揚々として僻村を出發し、オーガスタ市のウエスターン・ユニオン電信會社出張所の技手兼支配人の椅子に就いた。

しかし、オーガスタ市は彼の生れたメルセルと違つて、何といつても都會である、市である。商店を見ても、道行く人を見ても、その他何を見ても、メルセル村の百姓たちが野良仕事をしながら、どつだんべえ式の話をしてゐるやうな悠長な暢氣な春風騷蕩たるものではない、潑刺として動いてゐる。活躍そのものゝやうに敏速に活躍してゐる。太古の如き悠々たる山村に育つたマンセイとしては、聊かどころか大いに面喰はざるを得なかつた。内に在つても外に在ても頓珍漢なことばかり多くて、散々赤毛布を演じ、到る所で顔から火の出るやうな縮尻滑稽をやらかした。

兎にも角にも、大した間違ひもなく技手兼支配人の役を勤めてゐるうちに、都會といふものゝ真相が分つて來た。さあそれが段々分つて見ると、電信技手なんてものが、如何に詰らないものか分つて來た。鬼の首の如く豪氣なものに思つてゐた電信技手は大望を持ち得ない、小成に安んずる最低級の人のやることで、社會に出てこんな腰辨生活に満足してゐるなどは、愚の骨頂、意氣地無しの特ツペンだといふことが判然して來た。

さうなると彼は、電信技手が馬鹿らしくなつて來た。そして彼は全米に名を成し、

世界に名聲を轟かす、男子一世の快事をやりたいといふ氣になつた。電信技手として人間一生、國の内外に名を垂るゝ立身出世をするのも人間一生、同じ一生なら、こんな田舎の都會に、くすぶつて居るなんか馬鹿氣切つてゐる。米國文化の中心たり、男子一生の試練場たり熔鑪たるニューヨークへ乗り出さうと考へた。

この決心がつくや彼はすぐに電信會社出張所支配人の椅子を投げ出して、オーガスタ市の或る出版社の見習小僧に住み込んだ。何といふ思ひ切つた變化であらう。堂々たる米國大一大電信會社出張所の支配人といふ椅子を弊履の如く抛つて、選りにも擇つて出版屋の見習小僧に住み込むとは、とても普通の人には出來さうもない藝當であるが、彼は平然として、否、大いに喜んで小僧扱ひされコキ使はれたのであつた。彼を知つて居る限りの人たちは、彼の狂人じみた途方もない變化に驚いてしまつた。一時は『あいつ氣が狂れたのか、それでなければ餘程の變人か奇人に違ひない』と噂された。殊に彼の配下であつた出張所の技手連は『あいつ山の中から飛び出して氣が變になつたにちがひない』と嘲つたり憫んだりした。

併し彼は、そんな毀譽褒貶などはテンデ問題にしなかつた。毎日朝から晩まで見習小僧として眞無になつて働いた。出版社の方では、何といつても元が元で、苟も電信會社出張所の支配人をしてゐた人で、而も電信技手の立派な技術をもつた人であるから、普通の見習小僧に對する様な粗末な取扱ひは、無論しなかつたけれども、彼としては普通の小僧と同様に働いて、前の事などを考へるやうな氣振りは少しもなかつた。出版社の人々も『何といふ變物だらう』と驚きあきれてゐた。

彼が斯うして、出版社の見習小僧となつたのは、將來の目的たる出版事業、殊に雜誌新聞經營の下稽古のためであつた。活字の事、組版の事、印刷校正の事、原稿の事、製本の事、販賣の事、廣告の事、それら一切の事を學ばやが爲であつた。

人の噂も七十五日、彼に對する嘲笑や變人扱ひの噂もいつか無つなつて早くも一年を経過した。彼はその一年間に、それらのすべてのものについて一通りの知識を得た。一通りの知識を得れば、最早見習小僧をしてゐる必要はない。一日も早く目的地たる大ニューヨークに乗り出し、成功か失敗かの大試練の舞臺に立たなければならぬ。彼の友人は、彼が最初からニューヨークで旗擧することゝを極力諫止した。大資本をもつた者でさへ容易に成功しない、世智辛いうちにも世智辛いニューヨークで、經驗

もなく資力もない田舎者が出版事業を始めるなどは、飛んで火に入る夏の蟲同様、途方もない冒険、寧ろ自ら死地に飛込むものだ。そんな成功の見込みのないことをするより、このオーガスタ市で始めたまへ、さうして相當に成功し地盤の出来た所でニューヨークに乘出した方が間違がないといつて極力ニューヨーク行を引留めたが、彼は頑として自分の意志を枉げなかつた。

彼は出版社をやめ、僅か五百弗の貯金を懐中にしてニューヨークに乘出した。一人の友人は、君がオーガスタ市でやるなら五百弗貸してやらうと云つたが、彼はニューヨークでやるのもオーガスタでやるのも五十歩百歩ではないか、失敗するとすれば、どつちでやつても丸損して裸一貫になる。同じ失敗してもオーガスタみたいな田舎都會で失敗するより、ニューヨークで失敗した方が痛快だ、成功するとすればオーガスタで成功するよりニューヨークで成功した方が、より大きな成功で、將來にとつて非常な差がある。俺は何といつてもニューヨークへ行く、ニューヨークへ行くなら貸して呉れぬといふなら、敢て貸して貰はなくていい、俺は自分の懐中にあるだけの金を資本として遣るだけの事だ、と云つて驟然オーガスタ市を去つたのであつた。

彼は出版事業中、最も男性的で、最も壯快な文化的事業は新聞であることを知つたが、何しろ新聞の經營は莫大の資金を要するし、最初から新聞に乗り出すことは、到底不可能の事で、これは當時の彼の事情としては、問題にならなかつた。次は雑誌であるが、これは規模を小さくしてやらうと思へば、いくらでも小さく出来るし、資金も少額で出来る、そして一旦延びるとなると單行本の出版よりも速い、且つ社會的勢力も大きいし、素人が手をつけるには一番入り易い門である。彼は五百弗を以て雑誌發行を計畫した。

彼はオーガスタに見習小僧をやつてゐる時分に、全国各地で發行されてゐる雑誌、特にニューヨークで發行されてゐる雑誌の各特長と缺點とを研究し、自分が發行するならば、どつちいふ雑誌を發行すべきかを考究し、いよくニューヨークに乗り出してからは、その豫ての計畫によつて、何の躊躇する所もなく迅速に着手した。

田舎から出て来た黄口の青年が、而も僅か五百弗位の端金で雑誌を發行するのであるから、繁華な中心地に根據し得べきでないことは言ふまでもない。彼の編輯發行の根據地は、場末に近い街の最も安價な二階の狭い一室であつた。